

防衛関係事業（8条）

富士吉田市立明見コミュニティセンター

改修（建築主体）工事

I N D E X											
図面番号	図面内容	縮尺	図面サイズ	図面番号	図面内容	縮尺	図面サイズ	図面番号	図面内容	縮尺	図面サイズ
A-01	INDEX	NO SCALE	A1 (A3)	A-35	改修 展開図-3	S=1: 50 (S=1: 100)	A1 (A3)	S-01	構造設計特記仕様	NO SCALE	
A-02	改修特記仕様書-1	NO SCALE	A1 (A3)	A-36	改修 展開図-4	S=1: 50 (S=1: 100)	A1 (A3)	S-02	鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)	NO SCALE	
A-03	改修特記仕様書-2	NO SCALE	A1 (A3)	A-37	改修 展開図-5	S=1: 50 (S=1: 100)	A1 (A3)	S-03	鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2)	NO SCALE	A1 (A3)
A-04	改修特記仕様書-3	NO SCALE	A1 (A3)	A-38	改修 展開図-6	S=1: 50 (S=1: 100)	A1 (A3)	S-04	鉄骨構造標準図 (1)	NO SCALE	A1 (A3)
A-05	改修特記仕様書-4	NO SCALE	A1 (A3)	A-39	改修 展開図-7	S=1: 50 (S=1: 100)	A1 (A3)	S-05	鉄骨構造標準図 (2)	NO SCALE	A1 (A3)
A-06	改修特記仕様書-5	NO SCALE	A1 (A3)	A-40	改修 展開図-8	S=1: 50 (S=1: 100)	A1 (A3)	S-06	ベースバック仕様書	NO SCALE	A1 (A3)
A-07	工事区分表	NO SCALE	A1 (A3)	A-41	改修 展開図-9	S=1: 50 (S=1: 100)	A1 (A3)	S-07	JISブレース標準図	NO SCALE	A1 (A3)
A-08	配置図・付近見取図	S=1: 100 (S=1: 200)	A1 (A3)	A-42	改修 展開図-10	S=1: 50 (S=1: 100)	A1 (A3)	S-08	改修 基礎～4層伏図	S=1: 50 (S=1: 100)	A1 (A3)
A-09	面積求積図	S=1: 200 (S=1: 400)	A1 (A3)	A-43	改修 展開図-11	S=1: 50 (S=1: 100)	A1 (A3)	S-09	改修 軸組図	S=1: 50 (S=1: 100)	A1 (A3)
A-10	敷地面積求積図	S=1: 100 (S=1: 200)	A1 (A3)	A-44	改修 地階・改修1階キープラン	S=1: 100 (S=1: 200)	A1 (A3)	S-10	改修 部材リスト	S=1: 30 (S=1: 60)	A1 (A3)
A-11	外部・内部仕上表	NO SCALE	A1 (A3)	A-45	改修 2階・3階キープラン	S=1: 100 (S=1: 200)	A1 (A3)	S-11	改修 鉄骨詳細図	S=1: 30 (S=1: 60)	A1 (A3)
A-12	改修 地階1階平面図	S=1: 100 (S=1: 200)	A1 (A3)	A-46	改修 建具表-1	S=1: 50 (S=1: 100)	A1 (A3)	S-12	改修 雑詳細図-1	S=1: 30・10 (S=1: 60・20)	A1 (A3)
A-13	現況 地階1階平面図	S=1: 100 (S=1: 200)	A1 (A3)	A-47	改修 建具表-2	S=1: 50 (S=1: 100)	A1 (A3)	S-13	改修 雑詳細図-2	S=1: 30・10 (S=1: 60・20)	A1 (A3)
A-14	改修 2階・3階平面図	S=1: 100 (S=1: 200)	A1 (A3)	A-48	改修 建具表-3	S=1: 50 (S=1: 100)	A1 (A3)	S-14	改修 雑詳細図-3	S=1: 30・10 (S=1: 60・20)	A1 (A3)
A-15	現況 2階・3階平面図	S=1: 100 (S=1: 200)	A1 (A3)	A-49	改修 建具表-4	S=1: 50 (S=1: 100)	A1 (A3)				
A-16	改修 屋根伏図	S=1: 100 (S=1: 200)	A1 (A3)	A-50	現況 地階1階建具キープラン	S=1: 100 (S=1: 200)	A1 (A3)				
A-17	現況 屋根伏図	S=1: 100 (S=1: 200)	A1 (A3)	A-51	現況 2階・3階建具キープラン	S=1: 100 (S=1: 200)	A1 (A3)				
A-18	改修 立面図	S=1: 100 (S=1: 200)	A1 (A3)	A-52	現況 建具表-1	S=1: 100 (S=1: 200)	A1 (A3)				
A-19	現況 立面図	S=1: 100 (S=1: 200)	A1 (A3)	A-53	現況 建具表-2	S=1: 100 (S=1: 200)	A1 (A3)				
A-20	改修 矩計図-1	S=1: 30 (S=1: 60)	A1 (A3)	A-54	現況 建具表-3	S=1: 100 (S=1: 200)	A1 (A3)				
A-21	改修 矩計図-2	S=1: 30 (S=1: 60)	A1 (A3)	A-55	現況 建具表-4	S=1: 100 (S=1: 200)	A1 (A3)				
A-22	改修 地階1階天井伏図	S=1: 30 (S=1: 60)	A1 (A3)	A-56	エレベータ詳細図-1	S=1: 50 (S=1: 100)	A1 (A3)				
A-23	現況 地階1階天井伏図	S=1: 100 (S=1: 200)	A1 (A3)	A-57	エレベータ詳細図-2	S=1: 20 (S=1: 40)	A1 (A3)				
A-24	改修 2階・3階天井伏図	S=1: 100 (S=1: 200)	A1 (A3)	A-58	エレベータ詳細図-3	S=1: 20 (S=1: 40)	A1 (A3)				
A-25	現況 2階・3階天井伏図	S=1: 100 (S=1: 200)	A1 (A3)	A-59	エレベータ詳細図-4	S=1: 20 (S=1: 40)	A1 (A3)				
A-26	改修 1階平面詳細図-1	S=1: 100 (S=1: 200)	A1 (A3)	A-60	エレベータ詳細図-5	S=1: 20 (S=1: 40)	A1 (A3)				
A-27	改修 1階平面詳細図-2	S=1: 30 (S=1: 60)	A1 (A3)	A-61	エレベータ詳細図-6	S=1: 20 (S=1: 40)	A1 (A3)				
A-28	改修 1階平面詳細図-3	S=1: 30 (S=1: 60)	A1 (A3)	A-62	エレベータ詳細図-7	S=1: 5・20 (S=1: 10・20)	A1 (A3)				
A-29	改修 2階平面詳細図-4	S=1: 30 (S=1: 60)	A1 (A3)	A-63	エレベータ詳細図-8	S=1: 5・20 (S=1: 10・20)	A1 (A3)				
A-30	改修 2階平面詳細図-5	S=1: 30 (S=1: 60)	A1 (A3)	A-64	エレベータ詳細図-9	S=1: 2・3・10 (S=1: 4・6・20)	A1 (A3)				
A-31	改修 3階平面詳細図-6	S=1: 30 (S=1: 60)	A1 (A3)	A-65	改修 家具キープラン・家具図	S=1: 50・100 (S=1: 100・200)	A1 (A3)				
A-32	改修 3階平面詳細図-7	S=1: 30 (S=1: 60)	A1 (A3)	A-65	改修 サイン図・サインキープラン	S=1: 50・100 (S=1: 100・200)	A1 (A3)				
A-33	改修 展開図-1	S=1: 30 (S=1: 60)	A1 (A3)	D-01	断熱図面	S=1: 100 (S=1: 200)	A1 (A3)				
A-34	改修 展開図-2	S=1: 50 (S=1: 100)	A1 (A3)	K-01	仮設計画図	S=1: 100 (S=1: 200)	A1 (A3)				

富士吉田市立明見コミュニティセンター改修工事

仕様書

Ⅰ 工事概要

1. 工事場所

2. 敷地面積

3. 建物概要

富士吉田市大明見6-16-19

1,431.86㎡

都市計画区域都市計画区域内

防火指定なし

その他の地域地区なし

道路6.00m

用途地域第一種住居地域

建築率60.00%

容積率200.00%

建物の主要用途集会所

工事の種類改修工事

棟数1

構造・階数地下1階 地上3階

建築面積640.01㎡

延べ床面積1,289.67㎡

最高の高さ12.000m

最高の軒高さ11.700m

消防法上の有窓・無窓階有窓階

下水の放流形式浄化槽

4. 工事内容

①. 屋根屋上防水改修

②. 外壁塗装改修

③. 内装改修

④. エレベーター設置

⑤. バリアフリー化

⑥. トイレ改修

⑦. 照明器具のLED化（電気設備工事）

⑧. 給排水・空調設備改修（機械設備工事）

5. 工事範囲

※「3. 工事種目」すべてを工事範囲とする。
・「3. 工事種目」のうち各工事項目における工事範囲は下記表のとおりとする。
ただし、他の工事種目は全て、今回工事範囲とする。

工事種目				
工事項目				
② 仮設工事				
③ 防水改修工事				
4-1 外壁改修工事 コンクリート打ち放し仕上げ外壁				
4-2 外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ外壁				
4-3 外壁改修工事 タイル張り仕上げ外壁				
④-4 外壁改修工事 塗り仕上げ外壁				
⑤ 建具改修工事				
⑥ 内装改修工事				
⑦ 塗装改修工事				
⑧-1 耐震改修範囲以外の躯体改修工事				
8-2 耐震改修工事				
⑨ 環境配慮改修工事				

Ⅱ 建築改修工事仕様

1. 共通仕様

（1）図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部の「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（最新版）」（以下、「改修標仕」という。）による。また、改修標仕に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」（以下「標仕」）、「木造建築工事標準仕様書」（以下「木造標仕」）及び、「建築物解体工事共通仕様書・同解説」（以下「解体共仕」）による。

（2）改修標準仕様書で「特記がなければ、」以下に具体的な材料・工法・検査方法等を明示している場合において、それらが関係法令等（衆例を含む）に抵触する場合には、関係法令等の遵守（1.1.13）の規定を優先する。
なお、関係法令を遵守する場合は具体的な対応策について監督職員と協議すること。

2. 特記仕様

（1）項目は、番号に○印の付いたものを適用する。

（2）特記事項は○印の付いたものを適用する。
○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
○印と⊗印の付いた場合は、共に適用する。

（3）特記事項に記載の〔 〕内表示番号は、改修標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。

（4）特記事項に記載の（ ）内表示番号は、標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。

（5）[印]は「国等による環境物品等の調達推進に関する法律」（以下「グリーン購入法」という）の特定調達品目を示す。

章 項 目

① 適用基準等

② 工事実績情報の登録

③ 品質計画等

④ 電気保安技術者

⑤ 条件明示項目

⑥ 発生材の処理等

⑦ 環境への配慮

⑧ 材料の品質等

⑨ 特別な材料の工法

10 施工数量調査及び設計数量の精算

⑪ 技能士

⑫ 化学物質の濃度測定

⑬ 週休二日制度

特記事項

○ 建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修 最新版）
○ 工事写真の撮り方（改訂第二版）建築編（建設大臣官房官庁営繕部監修）

※ 適用する [1.1.4]

・ 建築基準法に基づき定められる区分等の適用工事
※ 風速（V0= 32 m/s）
※ 地震震度区分（Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ）
積雪区分 H12 建造令第 1455 号 別表（ ）

※ 適用する [1.3.3]

※ 発注仕様書による [1.3.5]

※ 現場説明書による ○ 構外搬出適切処理（特記 9-11 による） [1.3.12]

化学物質を放散させない建築材料等
本工事の建物内部に使用する建築材料等は、設計図面に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の 1）から 5）を満たすものとする。
1) 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、仕上げ塗材及び壁紙は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
2) 保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
3) 接着剤はフタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
4) 塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
5) 1)、3)及び 4)の建築材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
また、設計図面に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。
規制対象外
① JIS 及び JAS の F☆☆☆☆ 品
② 建築基準法施行令第 20 条の 7 第 4 項による国土交通大臣認定品
③ 下記表示のあるJAS適合品
a. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用
b. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用
第三種
① JIS 及び JAS の F☆☆☆☆ 品
② 建築基準法施行令第 20 条の 7 第 3 項による国土交通大臣認定品
③ 旧 JIS の Eo 品
④ 旧 JAS の Eco 品

本工事に使用する材料等は、設計図面に定める品質及び性能と同等以上ものを使用する。ただし製造業者等が指定されている場合に同等以上のものとする場合は、あらかじめ監督職員の承諾を受ける。
材料・機材等の製造業者等は次の（1）から（6）すべての事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する品質及び性能等が評価されたことを示す書面を提出して監督職員の承諾を受ける。
(1) 品質及び性能に関する試験データが整備されていること
(2) 生産施設及び品質の管理が適切に行われていること
(3) 安定的な供給が可能であること
(4) 法令等で定める許可、認可、認定又は免許等を取得していること
(5) 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること
(6) 販売、保守等の営業体制が整えられていること
メーカー建材・製品・電気及び機械設備機器類の施工については、工事標準仕様書によるほか、メーカー仕様書に基づき責任施工とし、請負者はメーカー仕様による施工状況を確認し、完成届を監督職員に提出する事。完成届受理後、監督職員は検査を行うが、メーカー建材・製品・設備機器類の瑕疵については、監督職員は責任を負わない事とする。

改修標仕及び、標仕に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。

施工に先立ち、施工計画作成のための工法・数量等の調査を行い、監督職員に報告書を提出する。既存部分の破壊を行った場合は協議により補修を行うこと。
下記の工事について、施工調査により設計数量との増減が発生した場合は、監督職員との協議の上、出来形数量の精算を行うものとする。
[1.5.1][1.5.2][1.5.3]
[1.6.2]

適用工事種目

技能検定作業

防水改修工事

・ F77防水改修工事作業 ○ F77防水改修工事作業
・ F77防水改修工事作業 合成 F77防水改修工事作業
○ 塩化ビニル系防水改修工事作業 塩化ビニル系防水改修工事作業
○ シーリング防水改修工事作業 改質 F77防水改修工事作業
・ FRP防水改修工事作業
○ 左官作業 ○ 内外装板金作業
外壁改修工事
・ 左官作業 ・ タイル張り作業 ○ 建築塗装作業
建具改修工事
○ ビル用サッシ工事作業 ○ ガラス工事作業
○ 自動ドア施工作業
内装改修工事
○ プラスチック系床仕上げ工事作業 ○ カーペット系床仕上げ工事作業
○ ボード仕上げ工事作業 ○ 鋼製地下工事作業
○ 壁紙貼付作業 ○ 大工工事作業 ○ タイル張り作業
塗装改修工事
○ 建築塗装作業
耐震改修工事
○ 鉄骨組立作業 ○ 型枠工事作業 ○ とび作業
コンクリートポンプ・ALCパネル工事
・ コンクリートポンプ工事作業
・ ALCパネル工事作業
石工事
○ 石張り作業
積載工事
・ 造園工事作業

○適用する
週休 2 日制の実施にあたっては、「富士吉田市週休 2 日制工事実施要領」に基づき行うこと。

章 項 目

⑭ 完成図等

15 埋設配管・配線調査

⑯ 設備工事との取り合い

⑰ 設計 G L

⑱ 工事写真

①-② 土工事

①-② 地業工事

① 埋戻し及び盛土

② 建設発生土の処理

1 既製コンクリート杭地業

2 場所打ちコンクリート杭地業

③ 砂利地業

4 床下防湿層

② 仮設工事

① 足場その他

② 養生

3 仮設間仕切り等

特記事項

※ 作成する 詳細は発注仕様書による [1.8.1]~[3][表 1.8.1]
○ 完成図 提出部数 4 部（金文字製本 A 1 版 1 部、A 3 版 3 部）
C A D データを C D-R にて提出 3 部
現場詳細実測による改修前設計図の修正を含む。
○ 施工計画書 提出部数 1 部
○ 施工図 提出部数 1 部
○ 保全に関する資料 提出部数 1 部
○ 完成写真 アングルは改修前後で同一とし、監督員の承諾を受ける。
撮影はデジタルカメラにて行う。

分類・規格	撮影箇所数	提出部数	原板サイズ
※ カラーキャビネット版	外部（ 6 ） × 改修内部（ 30 ） 前後	2 部 金文字製本	100 × 125 以上
※ カラー半切版	外部（ 1 ） 内部（ 1 ）	各 1 部 木製額入り	
※ 電子データ	外部（ 6 ） × 改修内部（ 30 ） 前後	2 部 C D-R	100 万画素以上

夜景撮影 行う ○ 行わない
空中撮影 行う ○ 行わない
※ 既存資料及び現場詳細調査
・ X 線検査調査 撮影枚数 枚

設備機器の位置、取合い等が検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。

※ 図示 ○ 設計 G L = 現状 G L

○別紙 電子ファイルに関する仕様書を参考としても良い。

種類 ・ A 種 ※ B 種 ・ C 種 ・ D 種 (3.2.3) (表 3.2.1)
・ 建設汚泥から再生した処理土 [G]

※現場説明書による ○ 構外搬出適宜処理（第一石産運輸株式会社 都留工場）
・ 構内指定場所に堆積 ・ 構内指定場所に敷き均し (3.2.5)
種類 (4.3.1~2)
※高強度プレストレストコンクリート杭
・ 遠心力高強度コンクリート杭

	杭径 (mm)	杭長 (m) 及び種別	継手数	セット数	備考
試験杭	400~550	8.0m 摩擦杭	1	1	
本 杭	400~550	8.0m 摩擦杭	1	4	

杭頭の処理 ※ 切断しない (4.3.8)
先端部形状 ※ 開放形 ・ 閉そく平たん形 (4.3.3)
杭の継手 建築基準法に基づく指定又は認定を受けた継手を (4.3.6)
使用してもよい。

施工法 (4.3.4~5)
・ 特定埋込み杭工法
工法 ・ プレボーリング拡大根固め工法 ・ 中掘拡大根固め工法
H13 国交告 1113 号第 6 による支持力算定式で α=250 程度を採用できる工法
杭周固定液 ・ 使用する
セメントの種類 6 章コンクリート工事のセメントの種類による

コンクリートの種別及び設計基準強度 (4.5.4) (表 4.5.1)
() 種かつ () N/mm² 以上
鉄筋の種類 5 章鉄筋工事の鉄筋の種類による (4.5.4)
堀削工法 ・ アースドリル工法（・安定液使用 ・無水堀削） (4.5.5)
・ リバース工法
・ オールケーシング工法（孔内の水張 ・行う ・行わない） (4.5.6)

・ 場所打ち鋼管コンクリート杭工法
・ 底版杭工法（※安定液使用 ・ ）
側壁測定 ・ 行う（ ） ・ 行わない (4.5.4)
セメントの種類 6 章コンクリート工事のセメントの種類による

※再生クラッシュラン ・ 切込み砂利及び切込み碎石 (4.6.2)

施工箇所 ※建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下 (4.6.5)

○ 内部足場 種別 ※ きたつ、足場板等 [2.2.1]
○ 外部足場 種別 ※ A 種 ○ B 種 C 種 D 種 [2.2.1]
※ 「「手すり先行工法に関するガイドライン」について」（厚生労働省 平成 21 年 4 月 24 日）による防護シートによる養生 ※ 行う ・ 行わない

材料、撤去材等の運搬 [2.2.1][表 2.2.1]
・ A 種 ○ B 種 C 種 D 種 E 種

既存部分の養生 ※ ビニルシート等 [2.3.1]
既存家具等の養生 ※ ビニルシート等
固定家具等の移動 ※ 行わない 行う（図示）

仮設間仕切り等の種別 [2.3.2][表 2.3.1]

種 別	下 地	仕上材（厚さ mm）	塗 装
・ A 種	※ 軽量鉄骨	・ 合板（※ 9.0 ・ ）	※ 無し
・ B 種	※ 木下地	※ せっこうボード（※ 9.5 ・ ）	・ 片面
※ C 種	単管下地	防炎シート	
仮設扉	※ 木製扉 ・ 鋼製扉	※ 合板張り程度 ※ 片面フラッシュ程度	※ 無し ・ 有り

充てん材 ※グラスウール 32K（厚：50mm 以上） ・

章 項 目

4 監督職員事務所

⑤ 工事用水

⑥ 工事用電力

③ 防水改修工事

1 アスファルト防水

2 改質アスファルトシート防水

③ 合成高分子ルーフィングシート防水

④ 塗膜防水

⑤ 脱気装置

⑥ シーリング

7 とい

特記事項

[2.4.1]
・ 既存建物内の一部を使用する ・ 構内に設置する ・ 設けない
規模：10㎡程度 受注者事務所内に打合せスペース兼用とする。

構内既存の施設 ※ 利用できない○ 利用できる（※ 有 償 無償）

構内既存の施設 ※ 利用できない○ 利用できる（※ 有 償 無償）

[3.3.2, 3][表 3.1.1][表 3.3.3~10]

防水改修工法の種類	施工箇所	新規防水層の種類
保 ・ P1B 護 ・ P1B I T1B I 防 ・ P2A I 水 ・ P2A		・ B -1 ※ B -2 ・ B I -1 ※ B I -2 ・ A I -1 ※ A I -2 ・ A -1 ※ A -2
露出 ・ M4C 防水 ・ M3D	・ P O D	・ C -1 ※ C -2 ・ D -1 ※ D -2
屋内防水 ・ P1E	・ P2E	・ E -1 ※ E -2 (保護層は図示による)

アスファルトの種類 ※ 3 種 4 種 [3.2.2][3.3.2]
保護コンクリートのコンクリート種類 ※ 無筋コンクリート [3.3.2]
P O D 工法の二重ドレン ※ 設けない 設ける [3.2.5]
M3D、P O D 工法の脱気装置 ※ 設けない 設ける [3.3.3]
既存露出防水層表面の仕上げ塗装（M4C 工法の場合） ・ 除去する [3.2.6]
断熱工法の断熱材 厚さ(mm) ※ 25 ・
ただし、 ノンフロンもの [G]
[3.3.2]
立上り部の保護
・ れんがの種類 ※ 見え隠れ部分は市販品のれんがが又は、市販品のれんが形
コンクリートブロックとする。
・ 乾式保護材の材料 ※ 押出成形セメント板 厚さ 15mm

[3.4.2][表 3.1.1][3.4.3][表 3.4.1~3]

防水改修工法の種類	施工箇所	新規防水層の種類	厚さ(mm)
・ M4AS 工法		・ AS-1 AS-2 AS-3	
・ M3AS 工法		・ AS-4 AS-5 AS-6	
・ P OAS 工法			
・ M3AS I 工法 ・ M4AS I 工法 ・ P OAS I 工法		・ AS I-1 ・ AS I-2	

脱気装置 ※ 設けない 設ける

[3.5.2][表 3.5.1][3.5.3][表 3.5.2]

防水改修工法の種類	施工箇所	新規防水層の種類	仕上げ塗料等	使用分類
・ P O S 工法 ・ L4S 工法 ○ S4S 工法	陸屋根	・ S-F 1 ・ S-M1 ・ S-F 2 ○ S-M2	○ カラー ・ シルバー ・ 遮熱	※ 非歩行 ○ 軽歩行
・ M4S 工法		・ S-M 1 S-M2		
・ P1S I 工法 ・ S3S I 工法 ・ P+S I S I 工法 ・ M4S I 工法		・ S I-F 1 ・ S I-F 2 ・ S I-M1 ・ S I-M2 ・ S I-M3		

脱気装置 設ける 設けない I
目地処理 P C コンクリートの場合（ ） [3.5.3]
[3.5.4]

[表 3.1.1][3.6.3][表 3.6.1]

防水改修工法の種類	施工箇所	新規防水層の種類	仕上げ塗料塗り
・ 新設	笠木	※ X-1 ・ X4 酸質系	・ シルバー
・ L1X 工法		※ X-2 ・	・ カラー

既存塗膜防水層表面の仕上げ塗装（L4X 工法の場合） 除去する [3.2.6]
脱気装置 ※ 設けない 設ける [3.6.3]

種 類	材 質	設置数量
○ 平面部脱気限	・ ポリエチレン樹脂 ○ ステンレス	A B S 樹脂 鋳鉄 (メーカー仕様による)
・ 立上がり部脱気限	・ 合成ゴム ・ ステンレス	塩化ビニル樹脂 銅

シーリング改修工法の種類 [3.7.4~8][表 3.7.1]
○ シーリング充てん工法 ○ シーリング再充てん工法
・ 拡幅シーリング再充てん工法 ブリッジ工法

シーリング材の種類、施工箇所 [3.7.2][表 3.7.1]
※ 下表以外は、改修標仕表 3.7.1 を標準とする

施工箇所	シーリング材の種類（記号）
金属ーガラス	SR-1
金属ータイル、金属ー金属	MS-2
タイルータイル、建具（工場）	PS-2

といの材質 [3.8.2][表 3.8.1]
※ 配管用鋼管 ・ 硬質塩化ビニル管（カラー）
・ カラーステンレス管 ・ ステンレス製 ・ アルミ製 ・ カラー G L 鋼板製
・ 建物排水用リサイクル発泡三层硬質塩化ビニル管 (RF-VP) [G]

鋼管製といの防露 [3.8.3][表 3.8.3]
・ 次の箇所は行わない（ ）
※ 規制対象外 ・ 第三種
ロックウール保温筒及びフェノールフォーム保温筒のホルムアルデヒドの放散量
描 口 ※ 有り 無し

縦どい受け金物の取付け [3.8.3]
※ 図 示 標仕 13.5.3 (d) (2) による

訂正

株式会社 佐藤設計

F403-0017 山梨県富士吉田市新所南二丁目16番6号 TEL. 0555-22-3929
一級建築士事務所 (定)第11-032002号 FAX. 0555-23-9218
一般建築士登録番号 (定)第 407188号 佐藤公 委
構造設計一級建築士証交付番号 第 11022号

設計年月日

図 尺

N

工事名称

富士吉田市立明見コミュニティセンター改修工事

工事区分

建築主体工事

図面名称

改修特記仕様書ー1

図面番号

Aー02

外壁改修工事
共通事項

項目

特記事項

①施工数量調査

調査範囲 ※外壁改修範囲 ・図示の範囲
調査内容
(1) ひび割れの幅及び長さを壁面に表示し、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び断汁の流出の有無を調査する。
(2) モルタル塗り仕上げ及びタイル張り仕上げについては、浮き部分を表面に表示し、欠損部の形状寸法等を調査する。
(3) コンクリート表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。
(4) 塗り仕上げについては、コンクリート又はモルタル表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示し、既存塗膜と新規上塗材との適合性を確認する。
調査報告書の部数 ※2部

改修材料

・既製調合モルタル

保水率 (%)	単位容積質量 (kg/l)	接着強度 (N/mm ²)		長さ変化率 (%)	曲げ強さ (N/mm ²)
		標準時	温冷繰返し後		
70.0以上	1.80程度	0.60程度	0.40以上	0.20以下	4.0以上

JIS A 6024
・パテ状エポキシ樹脂

初期硬化性 (N/mm ²)	接着強さ (N/mm ²)	圧縮強さ (N/mm ²)	曲げ強さ (N/mm ²)	硬化収縮率 (%)
標準2.0以上	標準6.0以上	50.0以上	30.0以上	3.0以下

(1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。
(2) 対象とする被着体を侵さず、かつ、周囲を汚損しないこと。
(3) 常温常湿(温度20±15℃、湿度65±20%)において製造所の指定する期間又は製造後6ヶ月間保存したものであっても、上記の品質性能の各項目に適合していること。
(4) 試験方法は、JIS A 6024(建築補修用注入エポキシ樹脂)に準ずる。

・可とう性エポキシ樹脂 JIS A 6024

比重	押出し性 (秒)	スランプ (mm)	加熱減量 (%)	引張強さ (N/mm ²)	伸び (%)	引張接着性
表示値 ±0.10	60以下	3.0以下	5.0以下	常温物性1.0以上 低温性 1.0以上 加熱劣化1.0以上	常温物性30.0以上 低温性 30.0以上 加熱劣化30.0以上	最大引張応力 1.0N/mm ² 以上 破断時の伸び 10.0%以上

(1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。
(2) 対象とする被着体を侵さず、かつ、周囲を汚損しないこと。
(3) 常温常湿(温度20±15℃、湿度65±20%)において製造所の指定する期間又は製造後6ヶ月間保存したものであっても、上記の品質性能の各項目に適合していること。

・タイル部分張替え工法用接着剤
適用範囲 張替え面積が比較的小小く、下地モルタルが健全な場所に用いる。
樹脂の種類 変成シリコーン樹脂系、ウレタン樹脂系 JIS A 5557

接着強さ (強度 N/mm ²)	標準 0.60以上	低湿硬化 0.40以上	アルカリ温水 0.40以上	凍結融解 0.40以上	熱劣化 0.40以上
耐薬液破壊率 (%)	75以上	50以上	50以上	50以上	50以上
皮膜物性 (引張強さ (N/mm ²)	標準 0.60以上	高温 0.60以上	低温 アルカリ温水 0.60以上	アルカリ温水 0.40以上	熱劣化 0.40以上
伸び (%)	35以上	35以上	35以上	25以上	25以上
貯蔵安定性 (一連形のみ)	質量の変化が5%以内で、かつ、均質で異物が認められないこと。				
混練終結確認容易性 (二連形のみ)	混練終結時の色が明瞭であること。				
耐熱性	JIS A 5557の試験において、80℃で4週間1kgの重りで安定していること。				
ずれ抵抗性	ずれが生じないこと。				
(1) 外観は、均質で、有害と認められる異物の混入がないこと。 (2) タイル、下地材等を侵すものでないこと。 (3) 「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律」に規定された第一種特定化学物質及び第二種特定化学物質、並びに「労働安全衛生法」に基づく「有機溶剤中毒予防規則」に規定された第一種有機溶剤を使用しないこと。 (4) 常温常湿(温度20±15℃、湿度65±20%)において製造後6ヶ月間保存しても上記の品質性能に適合していること。					

・エポキシ樹脂モルタル JIS A 6024

接着強さ (N/mm ²)	圧縮強さ (N/mm ²)	曲げ強さ (N/mm ²)
1.0以上	20.0以上	10.0以上

(1) この塗りが容易で、かつ、硬化後の仕上がり良好であること。
(2) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。
(3) 「労働安全衛生法」に基づく「有機溶剤中毒予防規則」に規定された第一種有機溶剤を使用しないこと。
(4) 形状に異常がなく、だれが生じないこと。
(5) 常温常湿(温度20±15℃、湿度65±20%)において製造後6ヶ月間保存しても上記の品質性能に適合していること。

・ポリマーセメントモルタル
種類 合成ゴム系、アクリル系、エチレン-酢ビ系等

曲げ強さ (N/mm ²)	圧縮強さ (N/mm ²)	接着強さ (N/mm ²)		吸水率 (72時間) (%)	耐久性 (劣化曲げ強さ) (N/mm ²)
標準時	湿潤時	標準時	低温時		
6.0以上	20.0以上	1.0以上	0.8以上	15%以下	5.0

(1) 表面状態 だれの下がり量は5mm以内とし、ひび割れが発生していないこと。
(2) 透水性 表面の濡れ、水滴の付着がないこと。
(3) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。
(4) ポリマーセメントモルタルに用いる高分子エマルションは、常温常湿において製造後6ヶ月間保存しても変質しないこと。

・ポリマーセメントスラリー

広がり速度 (cm/s)	長さ変化率 (収縮) (%)	引張接着性 (N/mm ²)	曲げ性能 (材齢28日) (N/mm ²)	吸水率 (72時間) (%)	耐久性 (劣化曲げ強さ) (N/mm ²)
3以上	3以下	0.5以上	5.0以上	15%以下	5.0

保水係数 0.35～0.55
粘附係数 0.50～1.00

・吸水調整材 [表]

全固形分 (%)	吸水量 (g)	接着強度 (N/mm ²)	界面破壊率 (%)
表示値±1.0以内	30分間で1以下	1.0以上	50以下

均質で有害と認められる異物の混入がないこと。

項目

特記事項

4-2 外壁改修工事
コンクリート打放し仕上げ外壁

1 ひび割れ部改修工法
※樹脂注入工法 [4.2.5]

注入工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)	備考
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	※200～300	※130	-
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	※50～100	※40	-
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上～0.5未満	※100～200	※70	-
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上～1.0未満	※150～250	※130	-

注入材料 [4.2.4]
※建築補修用注入エポキシ樹脂 (JIS A 6024 低粘度形又は中粘度形)

検査 (コア抜取り) ※行わない
(抜取り部の補修方法:) [4.2.5]

・Uカットシール材充填工法 [4.2.6]

充填材料	品質・規格等	備考
・シーリング材	※1成分形又は2成分形 ポリウレタン系シーリング材	ポリマーセメントモルタルの充填 ※行わない ・行う

・可とう性エポキシ樹脂 [4.2.7]

2 欠損部改修工法
※充填工法 [4.2.8]
・エポキシ樹脂モルタル
・ポリマーセメントモルタル

4-3 外壁改修工事
モルタル塗り仕上げ外壁

1 既存モルタル塗りの撤去 [4.3.2]
・行う (※全面 ・図示の範囲)

・既存モルタル撤去工法 (範囲は図示 撤去部分の補修は、3.欠損部改修工法による) [4.4.5]
※樹脂注入工法 (※既存モルタル面 ・既存躯体コンクリート面) [4.1.4] [4.4.2] [4.4.5]

注入工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/h)	備考
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	※200～300	※130	-
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	※50～100	※40	-
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上～0.5未満	※100～200	※70	-
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上～1.0未満	※150～250	※130	-

注入材料 [4.3.5]
※建築補修用注入エポキシ樹脂 (JIS A 6024 低粘度形又は中粘度形)

検査 (コア抜取り) ※行わない
(抜取り部の補修方法:) [4.2.5]

・Uカットシール材充填工法 [4.2.6]

充填材料	品質・規格等	備考
・シーリング材	※1成分形又は2成分形 ポリウレタン系シーリング材	ポリマーセメントモルタルの充填 ※行わない ・行う

・可とう性エポキシ樹脂 [4.2.7]

・シール工法 (※既存モルタル面 ・既存躯体コンクリート面) [4.2.7]

・既存塗り仕上材の撤去及び補修 [4.3.2]
(※シール工法の範囲 ・)

3 欠損部改修工法

項目

特記事項

4-4 外壁改修工事
タイル張り仕上げ外壁

1 既存タイル張りの撤去 [4.4.2]
・外壁タイル張り全面 ・図示の範囲
撤去範囲 ※下地モルタルまで (コンクリート表面まで)
・張付けモルタルまで ・タイルのみ
改修箇所 ※既存タイル張り面
・既存タイル撤去面 (・コンクリート面 ・モルタル面)

※樹脂注入工法 [4.2.5]

注入工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)	備考
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	※200～300	※130	-
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	※50～100	※40	-
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上～0.5未満	※100～200	※70	-
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上～1.0未満	※150～250	※130	-

注入材料 [4.2.4]
※建築補修用注入エポキシ樹脂 (JIS A 6024 低粘度形又は中粘度形)

検査 (コア抜取り) ※行わない
(抜取り部の補修方法:) [4.2.5]

・Uカットシール材充填工法 (既存タイル張り撤去面) [4.2.6]

充填材料	品質・規格等	備考
・シーリング材	※1成分形又は2成分形 ポリウレタン系シーリング材	ポリマーセメントモルタルの充填 ※行わない ・行う

・可とう性エポキシ樹脂 [4.2.7]

2 ひび割れ部改修工法

・タイル部分張替え工法 [4.4.7]
※ポリマーセメントモルタル
・外装タイル張り用有機系接着剤

・タイル張替え工法 [4.4.8]
伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 [4.4.8. (7) (イ) (h)]
位置 ※改修標準仕様4.5.11による ・図示

3 欠損部改修工法

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

4-5 外壁改修工事
塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

項目

特記事項

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修工事

①

改修工法の適用

⑤

建具改修

(6)

内装改修工事

②⁹

陶磁器質タイル張り

タイルの種類 [8.16.3]

施工箇所	形状寸法 (mm)	きじ	うわぐすり	役物	色	再生材の適用	G備考(同等)
風除室（床）	100×100	○	-	-	○	-	-
ポーチ	100×100	○	-	-	○	-	-
		-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-

役物：標準的な曲がりの役物は一体成形とする
タイルの見本焼き ※行わない 行う※外装タイル・内装タイル〔浴室〕壁タイル接着剤張り 積上げ張り

③断熱材

[19.9.2～3]

種 類	施工箇所	厚さ(mm)	品質等
・押出法ポリスチレンフォーム保温板	※2種b	※一般部	※25ノンフロンのものG
○現場発泡断熱材	※A種1	※一般部	※25ノンフロンのものG

ロックウール、グラスウール、ユリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した断熱材ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種

④浴室天井材

市販品

材 質	表面仕上げ	性 能	幅(mm)	備 考
※スパンドレル	※焼付け塗装品 ・ポリエステル樹脂系塗装	準不燃品	※200	回り縁は樋付きとし、製造所の
○硬質塩ビ製	○硬質塩ビ		○300	標準品とする。

27フッ素樹脂塗料

[20.2.2]

施工箇所	構 法	仕上り高 (mm)	遮用地震時水平力	耐荷重性能	表面仕上げ材	備 考
	・バネ構造 ・溝構造		・1.0G ・0.6G	・3.000N ・5.000N	・帯電防止床タイプ ・タイルベント	
	・バネ構造 ・溝構造		・1.0G ・0.6G	・3.000N ・5.000N	・帯電防止床タイプ ・タイルベント	
	・バネ構造 ・溝構造		・1.0G ・0.6G	・3.000N ・5.000N	・帯電防止床タイプ ・タイルベント	

耐震性能 5000N、高さ 300 mm以上については、平成元年建設省告示第 1322号「耐震フリーアクセシフロアの開発」の建設技術評価において評価を取得したもの又は同等品とする。
表面仕上げ材の品質・規格等は、各内装工事による
スロープ及びボーダー ※製造所の標準仕様 図示
コンセント等の取付け対応 ※製造所の標準仕様 （コンセント本体は別途設備工事）
コンセントの箇所数は図示
配線用取り出しパネル 配線取り出し開口：パネル1枚につき 40mm×80mm 程度の開口１ヶ所以上
フリーアクセスフロア全面面積に対する設置割合 ※20～30 パーセント
空調用吹き出しパネル ※無し
有り（※固定式 可変式 ：施工箇所は図示）

⑤可動間仕切

[20.2.3]

構造形式	パネル部の総厚さ(mm)	表面材質	表面仕上げ	遮音性能	防火性能
・スタッド式 ・スタッドパネル式 ○パネル式	・ 	※銅板 （※0.6・0.8）	※メラミン樹脂又は 亚克力樹脂焼付け	・あり ・なし	・あり ・なし

29移動間仕切

[20.2.4]

遮音性能	厚さ(mm)	表面材	表面仕上げ	操作方法
・一般タイプ		※銅板	・焼付け塗装 ・亜紙張り	・手動式・電動式 ・部分電動式
・遮音タイプ (36db 以上)		※銅板	・焼付け塗装 ・亜紙張り	・手動式・電動式 ・部分電動式

表面仕上げの亜紙張りの品質は JIS A 6512 の遮音試験に準拠する
遮音性能は JIS A 6512 の遮音試験に準拠する

⑥トイレブース

[20.2.5]表面仕上げ材 ※メラミン樹脂系化粧板（標準色 アルミ製コーナーエッジ付き）
ポリエステル樹脂系化粧板 硬質セメント板特殊UV塗装
足形状 ※幅木型 足金物型

⑦階段滑止め

[20.2.6]材 種 ステンレス SUS 304
形 状 ビニルタイヤ入り
両端フラットエンド ※有リ （ステンレス製 ※ビニル製） 無し
幅(mm) 約 35
取付け工法 ※接着工法 埋込み工法

⑧階段手すり

種 別	施工箇所
※集成材クリアルacker-仕上げ (市販品 径 約 45mm) ○ビニル製ハンドレール（幅 約 50mm） ・図示	

⑨黒板及びホワイトボード

[20.2.8]

種 類	寸法(mm)	色 彩	備 考
・黒板	※焼付け	※緑・黒	※平面・曲面・スクリーン付引分
○ホワイトボード	※ほうろう	※白	※平面・曲面・スクリーン付引分

⑩表示

[20.2.10]衝突防止表示 ※図示(市販品 ※ステンレス製
(※両面 片面)
無し
表示標識 案内用図記号については JIS Z 8210 による誘導標識、非常用進入口表示等は市販品とし、その他は共選詳細欄による。製造所 監督職員の承諾する製造所

章

項 目

特 記 事 項

35ブラインド

・既存再使用する（養生方法： ）[2.3.1][5.1.6]
・新設する (20.2.12)

形 式	種 類	コード式	ストラットの材質	ストラットの幅(mm)
※横限	※ギア式	・操作棒式	・アルミニウム合金製	※25
・縦限	・1本操作コード	・アルミストラット	・クロスストラット	・80
	※2本操作コード			・100

防災性能 ※有り
製造所 性能の確認できる資料を監督職員に提出する (20.2.13)

施工程序	装置 電動	位置 手引	性能 (防炎性能)	備 考
	-	-	-	
	-	-	-	
	-	-	-	

36ロールスクリーン

37カーテン

・既存再使用する（養生方法： ）[2.3.1][5.1.6]
・新設する (20.2.14)

施工程序	形式 片引	引き 電動	装置 ひも引	手の種類	性能	備 考
	-	-	-	-		
	-	-	-	-		
	-	-	-	-		
	-	-	-	-		

38カーテンレール

・既存再使用する [5.1.6]
・新設する (20.2.14)

材 種 ※アルミニウム製 ステンレス製

⑪ブラインドボックス及びカーテンボックス

[5.1.6]

・既存再使用する
○新設する

○市販品（アルミニウム製 押し出し型材）
清幅×深さ(mm) ・90×150 ○120×80 ・120×150 ・150×80
色彩 ※B－1 ・ B－2（※ブラウン系 ・ ブラック ・ ステンカラー）
・図示

⑫天井点検口

41床点検口

材 質 アルミニウム製（※隠蔽タイプ ・ 目地タイプ）

材 質 アルミニウム製（受け枠 ※アルミ製 ステンレス製）
・ステンレス製防水型（受け枠 ※ステンレス製）

⑬鋼製書架及び物品棚

種 類	規格等	JISによる種類
・鋼製書架		・1種 ・2種 ・3種
○鋼製下駄箱		・4種 ・5種 ・6種

⑭くつふきマット

⑮流し台ユニット（ミニキッチン）

種 類	寸法(L＝mm)	適用内容	規格・品質等
○流し台	※図示	トラップ付き	※優良住宅部品
○コンロ台	※600 700	ﾊﾞｯｸｶﾞｰﾄﾞ ※有り	・図示
○つり戸棚	※1200 900 600		
○水切り棚	※1200 900	ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ製 ※1段式	※市販品

45屋内掲示板

材の材質 ※アルミニウム製
表面の材質 ※塩化ビニルシート張り

46洗面カウンター

材 種 メラミン樹脂化粧板張り（心材：集成材）人工大理石
奥行き(mm) ・約 450 約 600

⑯収納家具

[12.2.2](19.7.2)材質
形状・寸法 ※図示
合板調、MDF 及びパーティクルボードのホルムアル

⑧-1

耐震改修工事及び耐震改修範囲以外の躯体改修工事

11

無筋コンクリート

適用箇所
設計基準強度F_o (N/mm²)
セメントの種類
スランブ (cm)

(6.14.1～3)
※ 捨てコンクリート
※ 18
※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントA種
・高炉セメントB種 ㊦
※ 15又は18

12

高い強度の
コンクリート

設計基準強度F_o (N/mm²)
・27・30・33・36
適用箇所 ()
混和材料
※混和剤
※高性能A E減水剤標準形又は遅延形

[8.9.1～2][8.9.4]
[8.9.3]

⑬

鉄骨製作工場

製作工場の加工能力
※建築基準法第77条の45第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた(株)日本鉄骨評価センター及び(株)全国鉄骨評価機構(旧(社)全国鉄構工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「()」グレード)として国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場
・監督職員の承諾する製作工場

(7.1.3)

⑭

入熱、バス間温度の溶接条件

鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件
※図示
適用箇所
※柱、梁、プレースのフランジ端部の完全溶込み溶接部
・図示

(7.1.4)

⑮

施工管理技術者

※適用する
適用しない

(7.1.4)

⑯

鋼材

鋼材の材質 ㊦図示
種類の記号
規格等
※JIS規格による
※JIS規格による
※JIS規格による

[8.2.7][表8.2.5]

⑰

スカラップ

※改良型スカラップ ㊦図示

⑰

高力ボルト

高力ボルトの適用
※トルシヤ形高力ボルト JIS形高力ボルト ・溶融亜鉛めっき高力ボルト

[8.2.8]

19

鉄骨工作仮組

・行う
※行わない

[8.12.9]

⑳

溶接部の試験

完全溶込み溶接部の超音波探傷試験
※行う

[8.14.11～12]

21

耐火被覆材

種別
・耐火材吹付け
・耐火材巻き付け
・耐火板張り
・耐火材巻付け
・5ｽﾍﾞｽﾄﾎﾞﾙﾄ張り
材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする。

(7.9.2～7)

㉑

既存ｺﾝｸﾘｰﾄ面の
目荒し

適用範囲
※既存コンクリートとの打継ぎ面
※既存コンクリートとモルタル又はグラウト材の充てん部の接合面
目荒らしの範囲
※柱・梁面・壁面 打継ぎ面又は接合面全面の1/3程度
※壁面 打継ぎ面又は接合面全面の1/3程度
目荒らしの程度
※平均深さ5～10mm (最大深さ10～15mm) 程度の凹部を施す

[8.19.3][8.20.3]

㉒

あと施工アンカーの
材料

あと施工アンカーの材料
㊦金属系アンカー
㊦接着系アンカー
接着剤の品質
アンカー筋の種類
※有機系
※鉄筋コンクリート用棒鋼
・無機系
㊦金ねじボルト

[8.2.4]

㉓

あと施工アンカーの
穿孔

穿孔前の埋込み配管等の探査
範囲
※あと施工アンカー施工部分全て
・図示
方法
※探査器により探査し、配管等の位置の墨出を行う
・はつり出しによる

[8.11.2]

㉔

あと施工アンカーの
施工確認試験

アンカー筋
※行う (確認強度は図示による)
・行わない

[8.11.5]

26

断熱材兼用型枠

種 類
・断熱材兼用型枠
・木質系
・ｺﾝｸﾘｰﾄ系
・ﾌﾗｽﾀｸﾞ系
施工箇所
※壁 (図示の範囲)
・
厚さ(mm)
※40以下
・
品質等
断熱抵抗
＝厚さ／熱伝導率
＝0.676以上
(m²・K/W)
製造所 建設技術評価「建築物の断熱材兼用型枠工法の開発」において、評価を取得したもの

[8.2.7][表8.2.5]

8-2

耐震改修工事

1

打増し壁に用いる
シアコネクタ

現場打ちコンクリート壁の打増し部に用いる既存部とのシアコネクタ
種類
※ ㉓ あと施工アンカーの材料による
間隔(mm)
※500×500 ・図示

[8.2.4]

2

増設・補強工事の
ｺﾝｸﾘｰﾄの打込み

工法の種類
流し込み工法または圧入工法

[8.19.8][8.21.5]

3

柱補強

溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法
柱頭柱脚の除肉部間の型枠
※ポリスチレンフォーム保温材等を埋込む
・図示

[8.21.5]

4

連続縦継シート巻き

材料・形状
採用した工法の規定を満足するもの
材質
引張り強度 (含浸硬化後)
2500N/mm² 以上
3000N/mm² 以上
ヤング係数 (含浸硬化後)
2.35×10⁵ N/mm² 程度
2.00×10⁵ N/mm² 以上

[8.2.11]

5

スリットの施工

スリット部の配管等の探査
※探査器により探査し、配管等の位置の墨出を行う
・はつり出し

[8.22.2]

⑨

環境
配慮
改修
工事

1

アスベスト含有分析
調査

分析による確認
・行う (下表による)

[9.1.1]

㉑

7ｽﾍﾞｽﾄ粉じん濃度
測定

アスベスト粉じん濃度測定
㊦行う (測定名称及び測定点は下表による)
測定箇所 1階 風除室、1階給湯室、2階 トイレ

[9.11]

測定名称

測定時期

測定場所

測定点 (各施工
箇所ごと)

備 考

・測定 1

・測定 2

・測定 3

・測定 4

・測定 5

・測定 6

・測定 7

・測定 8

・測定 9

・測定 10

処理作業室内

処理作業前

処理作業中

処理作業中

処理作業中

処理作業中

処理作業後

処理作業後

処理作業後

撤去後1週間以降

施工区周辺又は
敷地境界

施工区周辺又は
敷地境界

施工区周辺又は
敷地境界

施工区周辺又は
敷地境界

施工区周辺又は
敷地境界

施工区周辺又は
敷地境界

施工区周辺又は
敷地境界

施工区周辺又は
敷地境界

施工区周辺又は
敷地境界

調査対象室外部
の付近

各 点

計 点

各 点

各 点

各 点

計 点

各 点

計 点

各 点

計 点

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

空気の流れを確認

除じん装置の
性能確認

—

—

—

—

—

—

—

アスベスト粉じん濃度測定方法

アスベスト粉じん濃度測定は「JIS K 3850-1 空気中の繊維状粒子測定方法―第1部：光学顕微鏡法及び走査電子顕微鏡法」による位相差・分散顕微鏡法による。

測定機関は、都道府県労働局に登録されている作業環境測定機関とする。

測定 3

測定 1,2,4,6,7,8,9,10

測定 5

計数機器

位相差顕微鏡

25 mm

47 mm

ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞの直径

1 l/min

5 l/min

10 l/min

試料の吸引流量

5 min

120 min

240 min

試料の吸引時間

アセトントリセチレン法又は、シュウ酸ジエチル法

総アスベスト繊維数 200 本又は視野数 50 視野

計数アスベスト

直径 3μm 未満、長さ 5μm 以上、長さ×直径比 3:1 以上

定量限界

50 f/l

0.5 f/l

0.3 f/l

報告書の作成 (記録する項目)

ア、測定結果

イ、測定時間

ウ、測定位置 (測定高さとともに図面上に記載する。)

エ、サンプリング条件 (メンブレンフィルタ直径、吸引時間、吸引空気量)

オ、マウティング方法

カ、顕微鏡視野面積、計数視野数

キ、測定時 (各測定場所ごと) 天候、温度、湿度、外気の風速及び風向

章

項目

特記事項

3

7ｽﾍﾞｽﾄ含有吹付け材
の除去 (レベル1)

アスベスト含有吹付け材の除去
・行う 除去方法は 9.1.3 による他、除去の部位・内容に応じた除去は専門事業者の仕様とする。

[9.1.3]

4

7ｽﾍﾞｽﾄ含有保温材等
の除去 (レベル2)

除去物及び汚染物質等
処理方法
※ 密封処理 (二重袋梱包)
隔離養生に用いたシート、使用した使い捨て保護衣、高性能真空掃除機フィルタ、粉じん機フィルタについても密封処理を行う。
・セメント固化

[9.1.4]

⑤

7ｽﾍﾞｽﾄ含有成形板
の除去 (レベル3)

アスベスト含有成形板の除去
㊦行う

[9.1.5]

6

外断熱改修工事

断熱材の種類
材料 名
厚さ (mm)
・ビーズ法ポリスチレンフォーム (ノンフロン ㊦)
・押出法ポリスチレンフォーム (ノンフロン ㊦)
・硬質ウレタンフォーム (ノンフロン ㊦) ・フェノールフォーム
・ロックウール
・グラスウール
外装材の種類
・
防火性能
既存外壁の仕上材の撤去
・有り
・なし
下地面の清掃及び下地調整
※断熱材製造所の指定する仕様
通気層
・有り (mm)
・なし
試験施工、工法及び品質は、確認できる資料を提出し監督職員の承諾を受ける
特記無き事項は、製造所の仕様による。
複層ガラスの厚さ 建具表による
断熱性・日射遮蔽性による区分
※ U3-1
・ U3-2
植栽基盤及び材料
※屋上緑化軽量システム
芝及び地被類の樹根並びに種類等
※図示
緑材、舗装材、水抜き管、マルチング材等
※図示
路盤材料
※再生クラッシャーラン (RC-40)
・クラッシャーラン (C-40) 又はクラッシャーランスラグ (CS-40)
透水性の高いものを使用する
遮断層及び凍上抑制層の材料
・遮断層
※川砂、海砂又は良質な山砂
厚さは図示
・凍上抑制層
※再生クラッシャーラン ・クラッシャーラン 切り込み砂利
・砂
厚さは図示
盛り土に用いる材料
・A種
※B種
・C種
・D種
・建設汚泥から再生した処理土 ㊦
路床安定処理
※添加材料による安定処理
種類
・普通ポルトランドセメント
・フライアッシュセメントB種
・高炉セメントB種 ㊦
・生石灰 ()
・消石灰 ()
添加量
kg/m³ (目標C8R ※5以上 ()
路床土の支持力比試験
※行う (※乱した土 ・乱さない土)
路床締固め度の試験
※行う
砂の粒度試験
※行う
アスファルト混合物
車道部
※改質アスファルト I限
歩道部
※ストレータアスファルト
透水性アスファルト混合物等の抽出試験
※行わない
・行う
・第一次判定
現場にてサンプルを採取し、シーリング材種及びPCB含有分析の要否を判定する
採取箇所数
計 箇所
採取箇所
※図示
・第二次判定
専門分析機関にてPCB含有量の分析を行う
分析箇所
計 箇所
・除去処理工事
除去範囲
※図示
撤去方法
・「標準施工要領書 (日本シーリング工事業共同組合連合会/日本シーリング材工業会) による
改修工事に支障をきたす恐れのある支障物は監督職員と協議の上、撤去すること。

[9.3.2]
[9.3.2]
[9.3.2]
[9.3.3]
[9.3.4]
[9.4.2]
[9.6.1]
[9.7.4][表9.7.5]
[9.7.3]
[9.7.3]
[9.7.6][表9.7.7]
[9.7.9]

⑦

ガラス改修工事

複層ガラスの厚さ 建具表による
断熱性・日射遮蔽性による区分
※ U3-1
・ U3-2

[9.4.2]

8

屋上緑化改修工事 ㊦

植栽基盤及び材料
※屋上緑化軽量システム
芝及び地被類の樹根並びに種類等
※図示
緑材、舗装材、水抜き管、マルチング材等
※図示

[9.6.1]

9

透水性アスファルト
舗装改修工事

路盤材料
※再生クラッシャーラン (RC-40)
・クラッシャーラン (C-40) 又はクラッシャーランスラグ (CS-40)
透水性の高いものを使用する
遮断層及び凍上抑制層の材料
・遮断層
※川砂、海砂又は良質な山砂
厚さは図示
・凍上抑制層
※再生クラッシャーラン ・クラッシャーラン 切り込み砂利
・砂
厚さは図示
盛り土に用いる材料
・A種
※B種
・C種
・D種
・建設汚泥から再生した処理土 ㊦
路床安定処理
※添加材料による安定処理
種類
・普通ポルトランドセメント
・フライアッシュセメントB種
・高炉セメントB種 ㊦
・生石灰 ()
・消石灰 ()
添加量
kg/m³ (目標C8R ※5以上 ()
路床土の支持力比試験
※行う (※乱した土 ・乱さない土)
路床締固め度の試験
※行う
砂の粒度試験
※行う
アスファルト混合物
車道部
※改質アスファルト I限
歩道部
※ストレータアスファルト
透水性アスファルト混合物等の抽出試験
※行わない
・行う
・第一次判定
現場にてサンプルを採取し、シーリング材種及びPCB含有分析の要否を判定する
採取箇所数
計 箇所
採取箇所
※図示
・第二次判定
専門分析機関にてPCB含有量の分析を行う
分析箇所
計 箇所
・除去処理工事
除去範囲
※図示
撤去方法
・「標準施工要領書 (日本シーリング工事業共同組合連合会/日本シーリング材工業会) による
改修工事に支障をきたす恐れのある支障物は監督職員と協議の上、撤去すること。

[9.7.4][表9.7.5]
[9.7.3]
[9.7.3]
[9.7.6][表9.7.7]
[9.7.9]

10

PCB含有シーリング
材処分

・第一次判定
現場にてサンプルを採取し、シーリング材種及びPCB含有分析の要否を判定する
採取箇所数
計 箇所
採取箇所
※図示
・第二次判定
専門分析機関にてPCB含有量の分析を行う
分析箇所
計 箇所
・除去処理工事
除去範囲
※図示
撤去方法
・「標準施工要領書 (日本シーリング工事業共同組合連合会/日本シーリング材工業会) による
改修工事に支障をきたす恐れのある支障物は監督職員と協議の上、撤去すること。

[9.7.4][表9.7.5]
[9.7.3]
[9.7.3]
[9.7.6][表9.7.7]
[9.7.9]

⑫

外部支障物の撤去

改修工事に支障をきたす恐れのある支障物は監督職員と協議の上、撤去すること。

章

項目

特記事項

⑩

特記仕様
追記

①

工事実績情報

工事実績情報 (工事カルテ) の登録を行うこと。 (請負工事費が500万円以上)
契約日から10日以内に登録をすること。

②

技能士

技能士の活用を積極的に図ること。施工計画書に技能士の氏名・資格証明を添付すること。

③

工事写真

工事写真については「工事関係提出書類一覧表」 (山梨県警補課ホームページ記載) の「工事写真について」によるので参照すること。

④

工事進捗状況報告書

工事進捗状況報告書を提出すること。 (提出日は毎月末、PDFデータとレインターネットメールでの提出)
毎月末までの進捗状況を発注者指定の書式により、翌月㉓までに提出すること。

⑤

火災保険

火災保険の加入期間は工期に14日以上の日を加えた日までとする。
(原則として全ての工事において加入。契約書27条)

⑥

現場への搬入路

現場への搬入路は、破損のないよう留意し、もし破損した場合は速やかに復旧すること。

⑦

完成図及び完成写真

監督員から指示があった場合は工事完成後、完成図及び完成写真等を提出する。
㊦ 完成図 「一般共通事項 13」による。 (完成後の維持管理に必要な場合は提出)
㊦ 完成写真 「一般共通事項 13」による。 (優良工事の対象物件)

8

グリーン購入法

「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」 (グリーン購入法) に基づき、「山梨県グリーン購入の推進を図るための方針」により定められた次の資料に関しては、同法の判断基準を満たすものの採用に努め、建設機械については原則使用すること。
また、採用が困難な場合は理由書を添付して報告すること。(コスト、納期、使用部位への適応性)

9

高炉セメントB種

高炉セメントB種を以下の部位に使用すること。
・ ①ラブルコンクリート
・ ②捨てコンクリート
・ ③場所打ちコンクリート杭地業
・ ④外構工事等に伴う地中部分のコンクリート工作物

⑩

再生資源の利用促進

環境対策及び再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法を書面等により、明確にすること。 (建設機械については、排ガス対策型の建設機械の使用を原則とする。)

⑪

高度技術・創意工夫
・社会性等実施状況

このことについて、請負者は工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や技術力に関する項目、又は地域社会への貢献として評価できる項目に関する事項について、工事完了時点でに所定の様式により提出することができる。
この提出は工事評定の対象工事とする。 (請負工事500万円以上。)

⑫

工事施工実施計画書

次の工事施工実施計画書を提出すること。
㊦ 総合施工計画書 (総合的な計画をまとめたもの。)
㊦ 工種別施工計画書 (工種は監督職員の指示による。)
このなかで、安全対策、使用材料・施工体制 (下請施工者の責任者) も明らかにすること。

⑬

下請負届の提出

適正な下請負契約を確認するため、下請負届を提出する場合は次の書類を添付すること。
下請負契約書 (請書等) の写し
下請負業者の建設業許可証の写し
元請負業者における「指定建設業監理技術者資格証」の写し

⑭

再生資源利用

請負金額100万円以上の工事については、建設副産物実態調査の対象工事であり、請負者は再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書を出し、1部 (紙) を施工計画書に添付し監督員に提出すること。
工事完了後は速やかに、当初入力した工事データを実績値に修正した再生資源利用実施書及び再生資源利用促進計画書を出し、1部 (紙) を完成書類に添付し、また、電子データをCD-R等により監督員に提出するものとする。

⑮

不当要求及び
工事妨害の排除

暴力団等からの不当要求及び工事妨害の排除
①. 請負者は、工事の施工に当たり、暴力団等からの不当要求及び工事妨害を受けた場合は、その旨を直ちに発注者に報告するとともに、所轄の警察署に届け出を行い、捜査上必要な協力を行うこと。
②. この場合において、工程等を変更せざるをえなくなったときは、速やかに発注者と協議すること。
③. 請負者が①の報告等を怠った場合は、「山梨県建設工事に係る指名停止等措置要領」に基づき、指名停止を行うこととする。

⑯

地中埋設物

地中埋設物について、図面及び現地により、詳細に調査すること

⑰

施設利用者等の安全

施設利用者等の安全に十分に配慮すること。

⑱

ワンデーレスポンス

ワンデーレスポンスについて (工事費5000万円以上)
1. この工事は、ワンデーレスポンス試行対象工事とする。
「ワンデーレスポンス」とは受注者からの質問、協議への回答を、原則「1日 (24時間) 以内」に回答することである。
2. 受注者は、余裕を排した最適な工程を、作業ごとの関連、進捗状況が把握できる方法により作成し、監督員と協議する。
3. 効果・課題等を把握するため、フォローアップ調査に協力すること。

⑲

技術者の専任

主任技術者又は監理技術者の専任について (請負工事費2500万円以上、建築一式は5000万円以上)
1. 請負契約の締結後、現場施工に着手するまでの期間 (現場事務所を設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間: 工事始期日30日以内) については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。なお、現場施工に着手する日については、請負契約の締結後、監督員との打合せにおいて定める。
2. 工事完成後、検査が終了し (発注者の都合により検査が遅延した場合を除く。) 事務手続き、後片付けのみが残っている期間については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。なお、検査が終了した日は、発注者が工事の完成を確認した旨、請負者に通知した日 (完成検査結果通知書等における日付) とする。

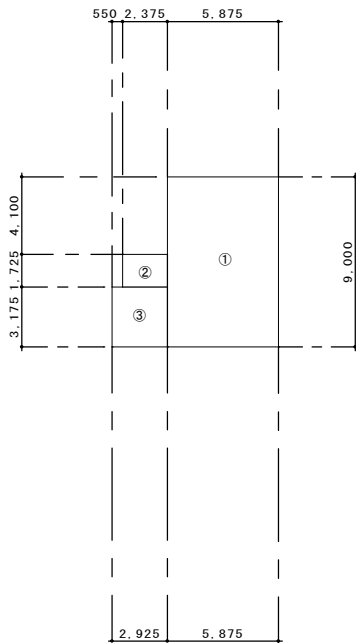
⑳

イメージアップ活動

請負者は工事現場の快速化活動とともに、作業内容や環境配慮活動等の広告を行い、イメージアップに取り組むこと。

工事区分表

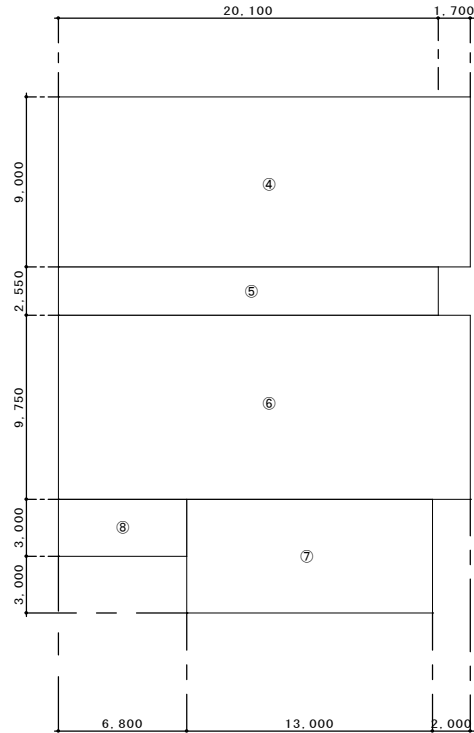
項 目							項 目							項 目													
A E M 別途							A E M 別途							A E M 別途													
備 考							備 考							備 考													
躯体関係																											
1. R C造(梁・壁・床)の貫通孔・開口部	貫通孔のスリーブ材及び取付け	○	○	○			7. 便所まわり	洗面カウンター			○																
	補強を要する型枠材及び取付け	○						化粧鏡			○																
	補強を要しない型枠材及び取付け	○	○	○				衛生器具ユニット			○																
	貫通孔・開口部の墨出し	○	○	○																							
	貫通孔・開口部の補強	○				仕様は構造図参照																					
	スリーブ・型枠の穴埋め	○	○	○			8. 事務室まわり	ファンコイルカバー																			
								家具組み込みの洗面器																			
2. S、SRC造の梁貫通孔																											
	使用されたスリーブの穴埋め	○					9. フリーアクセスフロア	コンセント																			
	予備スリーブの穴埋め	○	○	○				床パネルの切り込み加工																			
3. 設備機器の基礎	建築設計図に記入あるもの	○					10. 自動扉・電動シャッターまわり	自動扉の本体・駆動装置・検出装置（センサー）	○																		
	屋内の基礎（建築設計図に記入のないもの）		○	○				自動扉の手元電源スイッチ	○																		
	屋外・屋上の基礎	○						自動扉からセンサー（付属スイッチ）への配管・配線工事	○																		
	機器取り付け用アンカー・架台		○	○				自動扉本体までの配管、配線		○																	
4. 昇降機関連	昇降路の躯体	○					11. その他	化粧マンホール上ふたの表面仕上げ																			
	機械室の躯体							点検口（天井・床下）	○																		
	機械室の床開口							消火器B〇×設置工事																			
	機械室の床配管ビット・蓋							くつ洗い流し部排水金物・排水管	○	○																	
	機械室の上げ床コンクリート打設・仕上							ルーフドレン	○																		
	巻上機周囲のチェッカープレート敷							雨水配管			○		第一樹迄のタテ樋はA														
	昇降路内ビット防水・集水舂	○						消火器			○		別途防災契約														
	各階出入口穴あけ・同補強	○						誘導標識					別途防災契約														
	三方枠取付・枠廻り埋戻し・同補修	○						カーテン（レール共）、ブラインド類			○																
	出入口扉、三方枠及び幕板	○																									
	出入口扉、三方枠及び幕板の各補強鉄骨	○																									
	昇降路がR C造及びS R C造の時、軌条・中間ビーム・ブラケット他昇降路内の鋼製部材一式	○																									
	昇降路がS造の時の中間ビームブラケット受けベース																										
	機械室天井フック取付																										
	昇降路内フック取付	○																									
	ホール押釦・インジケーター・鎖索などの壁開口	○																									
	機械室換気設備																										
	制御盤（EV機械室内または昇降路内等）から外部インターホンまでの配管・配線工事		○																								
	昇降路内ビット点検用タラップ	○																									
	5. その他	点検用コンセント		○																							
制御盤（EV機械室内または昇降路内等）までの動力・照明用電源、アース、防災信号、伝声設備（屋内放送用）の配管・配線工事			○																								
床排水・ビット類・排水樹類（ふたを含む）		○					排水金物はM																				
A L C板の壁開口・補強																											
仕上げ関係							屋外排水設備・外構																				
1. 軽鉄天井・壁下地	補強を要するボードの切り込み及び下地の補強	○					1. 雨水	屋外雨水排水設備			○																
	補強を要しないボードの切り込み	○	○	○				樹及び樹ふた			○																
	開口部の墨出し	○	○	○																							
2. 可動間仕切り	切り込み及び補強						2. 雑排水・汚水	屋外雑排水及び屋外汚水排水設備			○																
	位置ボックス							樹及び樹ふた			○																
							電気配線配管																				
3. つりボルト	設備機器・器具・配管・配線・ダクト用		○	○			機器付属の制御室以降の配管配線（接地線共）				○			2次側													
								機器付属の制御室への電源供給配管配線	○				1次側														
4. 外壁まわり	外壁ガラリ及びダクト接続用フランジ							自動制御と動力盤との電源供給の渡り配管配線	○																		
	ウエザーカーバー、ベントキャップ							機器と付属操作スイッチの渡り配管配線		○	○																
	換気扇（取付枠共）		○					煙感知器から運動制御室を経て、防火シャッター、防火戸に至る配管配線		○																	
								照明キースwitchの配管配線、電源制御装置		○																	
								換気扇・全熱交換器用スイッチ及び配線		○	○																
5. 湯沸室まわり	流し台・つり戸棚・水切り棚・コンロ台			○				ポンプ・ファン用インバーター盤		○																	
	フード			○				警備、電話、LAN機器及び配線			○																
6. 浴室まわり	ミニキッチン							同上、配管		○																	
	浴室ユニット、複合浴室ユニット、シャワーユニット																										
	既製浴槽（ふたを含む）																										
	浴室及び便所の床排水金物																										
	脱衣棚、下足入れ	○																									



地階床面積図 S=1:200

・地階床面積求積計算

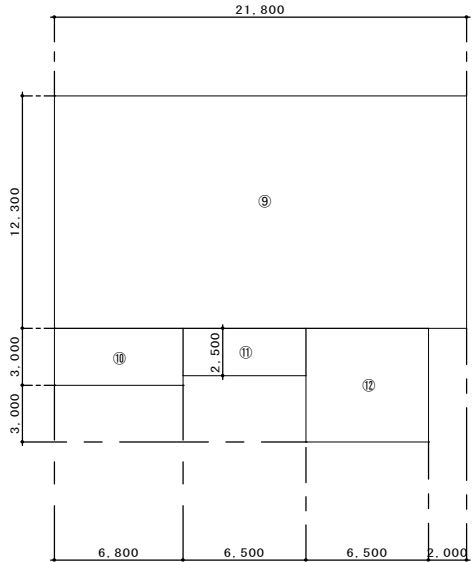
番号	面 積 計 算
①	9.000 × 5.875 = 52.875
②	1.725 × 2.375 = 4.097
③	3.175 × 2.925 = 9.287
床面積	66.25㎡



1 階床面積図 S=1:200

・1 階床面積求積計算

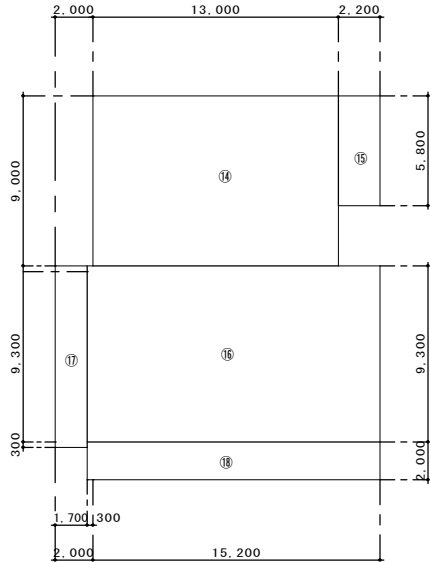
番号	面 積 計 算
④	9.000 × 21.800 = 196.200
⑤	2.550 × 20.100 = 51.255
⑥	9.750 × 21.800 = 212.550
⑦	6.000 × 13.000 = 78.000
⑧	3.000 × 6.800 = 20.400
床面積	558.40㎡



2 階床面積図 S=1:200

・2 階床面積求積計算

番号	面 積 計 算
⑨	12.300 × 21.800 = 268.140
⑩	3.000 × 6.800 = 20.400
⑪	2.500 × 6.500 = 16.250
⑫	6.000 × 6.500 = 39.000
床面積	343.79㎡



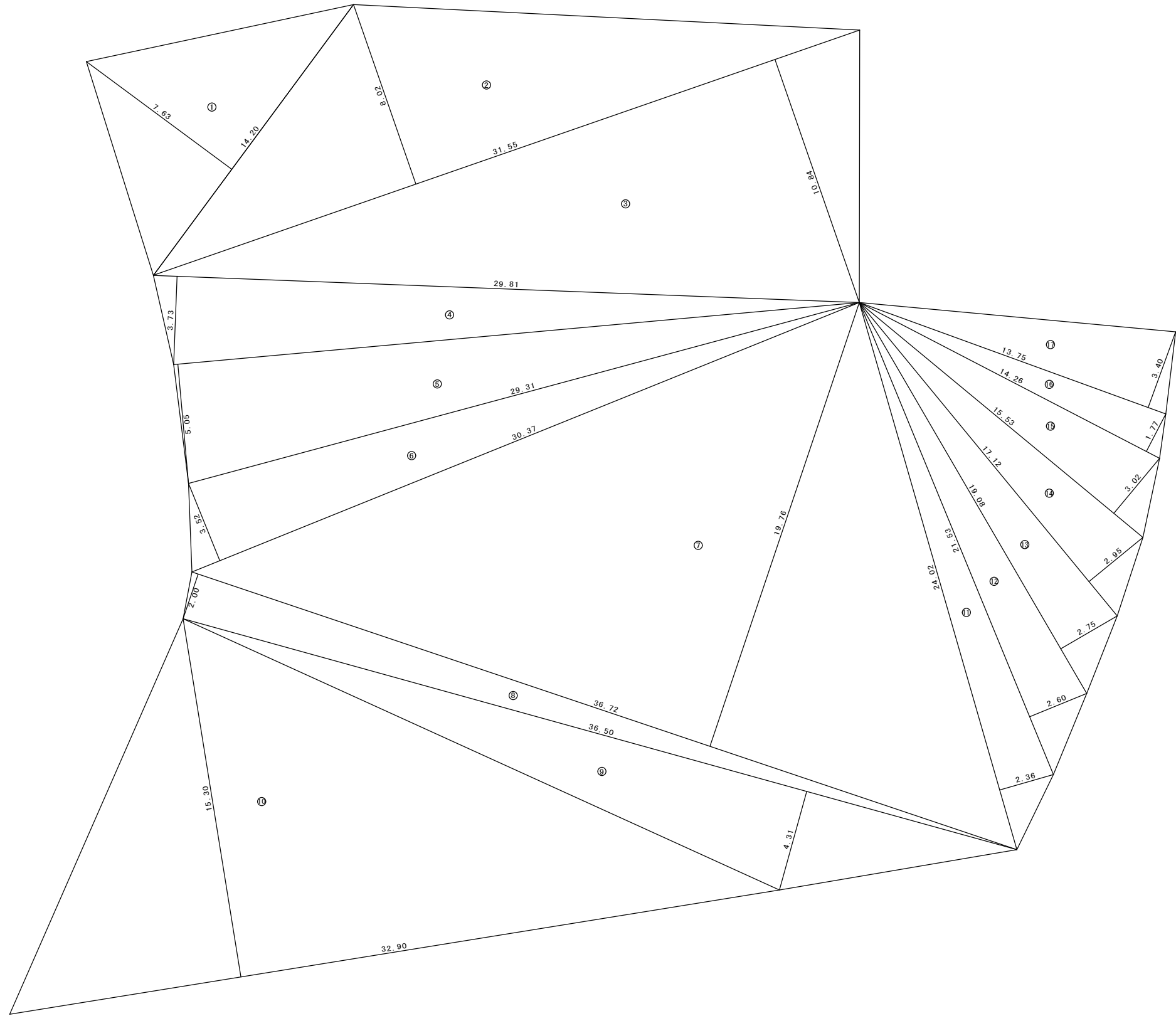
3 階床面積図 S=1:200

・3 階床面積求積計算

番号	面 積 計 算
⑭	9.000 × 13.000 = 117.000
⑮	5.800 × 2.200 = 12.760
⑯	9.300 × 15.500 = 144.150
⑰	9.600 × 1.700 = 16.320
⑱	2.000 × 15.500 = 31.000
床面積	321.23㎡

建築 面積 640.01㎡

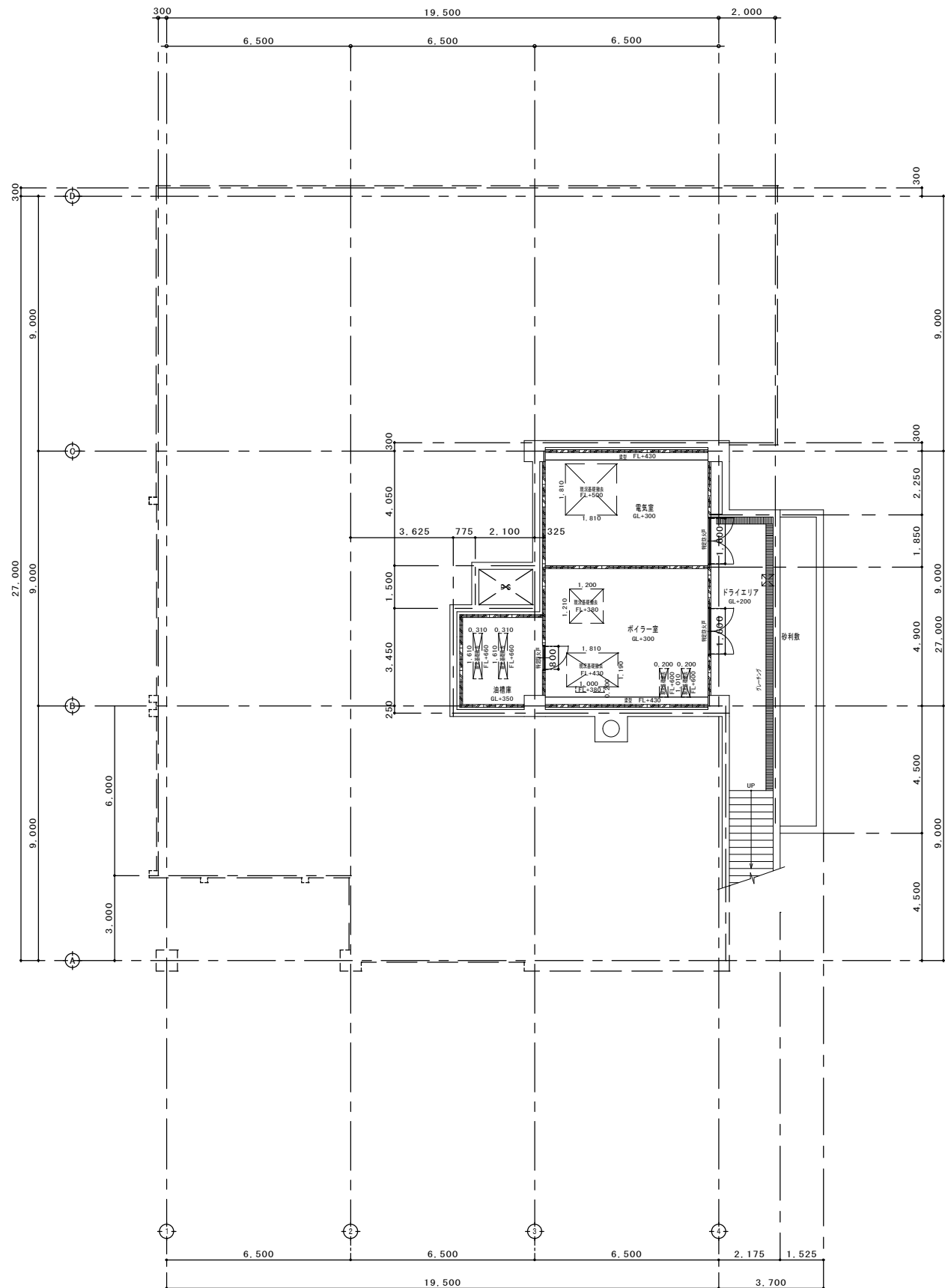
延べ床面積 1,289.67㎡



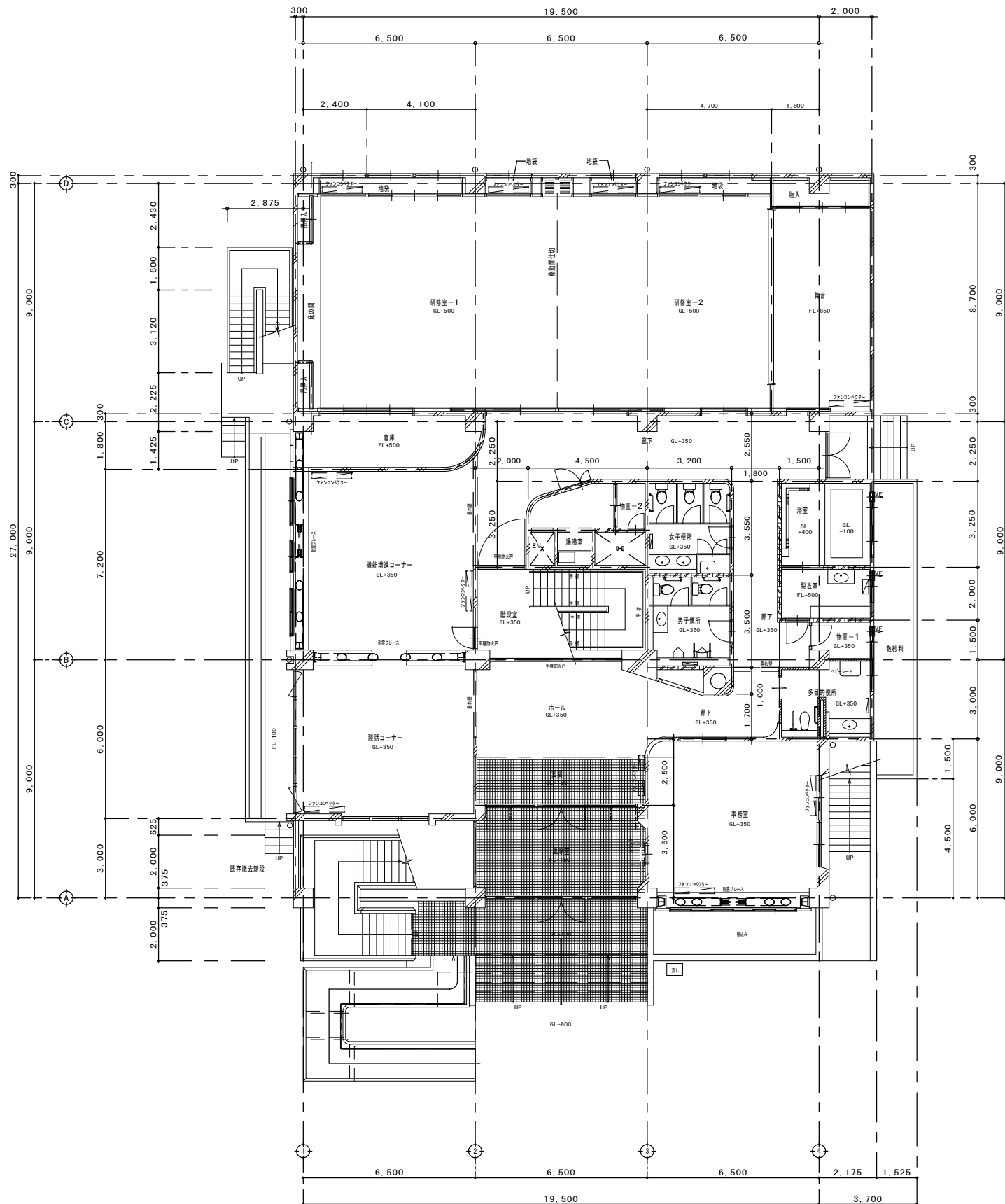
敷地面積求積図 S=1:100(200)

敷地面積		
記号	計 算 式	面 積
①	14.20 x 7.63	108.346
②	31.55 x 8.02	253.031
③	31.55 x 10.84	342.002
④	29.81 x 3.73	111.191
⑤	29.31 x 5.05	148.015
⑥	30.37 x 3.52	106.902
⑦	36.72 x 19.76	725.587
⑧	36.72 x 2.00	73.440
⑨	36.50 x 4.31	157.315
⑩	32.90 x 15.30	503.370
⑪	24.02 x 2.36	56.687
⑫	21.53 x 2.60	55.978
⑬	19.08 x 2.75	52.470
⑭	17.12 x 2.95	50.504
⑮	15.53 x 3.02	46.900
⑯	14.26 x 1.77	25.240
⑰	13.75 x 3.40	46.750
積面積		2,863.728
敷地面積		1,431.86 m ²

[illegible]

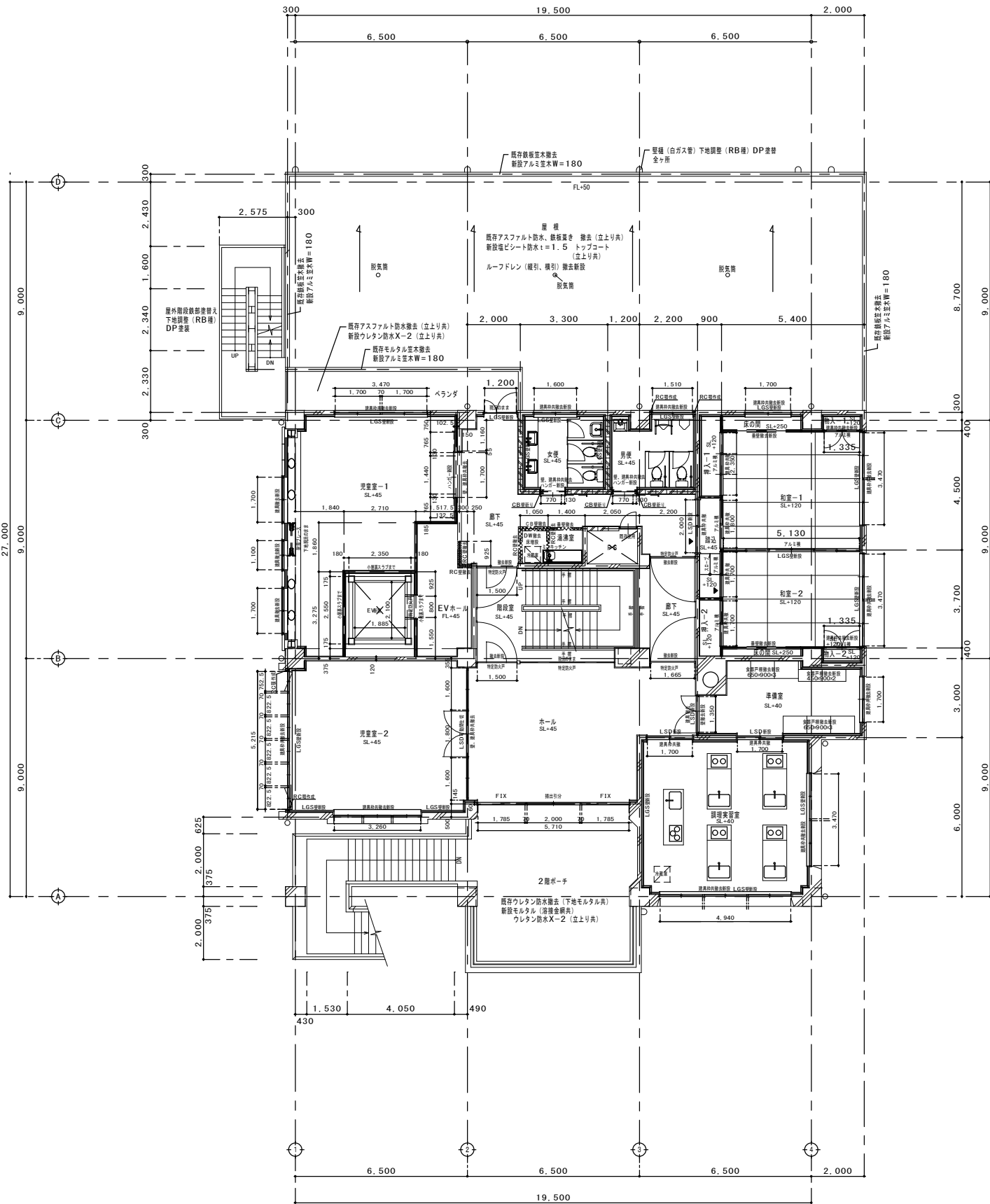


現況 地階平面図 S=1:100(200)



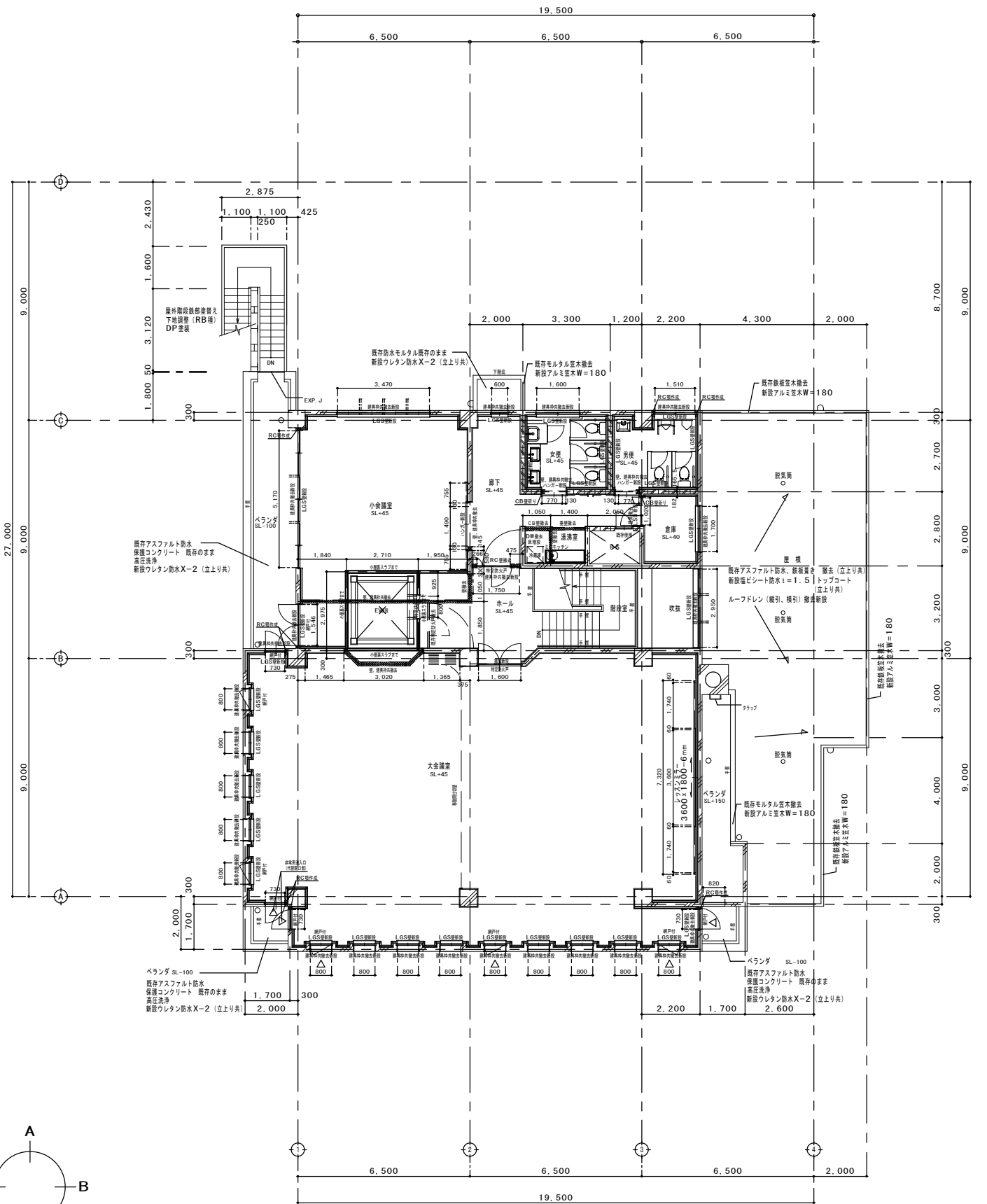
- 凡 例
- 鉄筋コンクリート
 - コンクリート・ブロック
 - 木製断熱下地

現況 1階平面図 S=1:100(200)



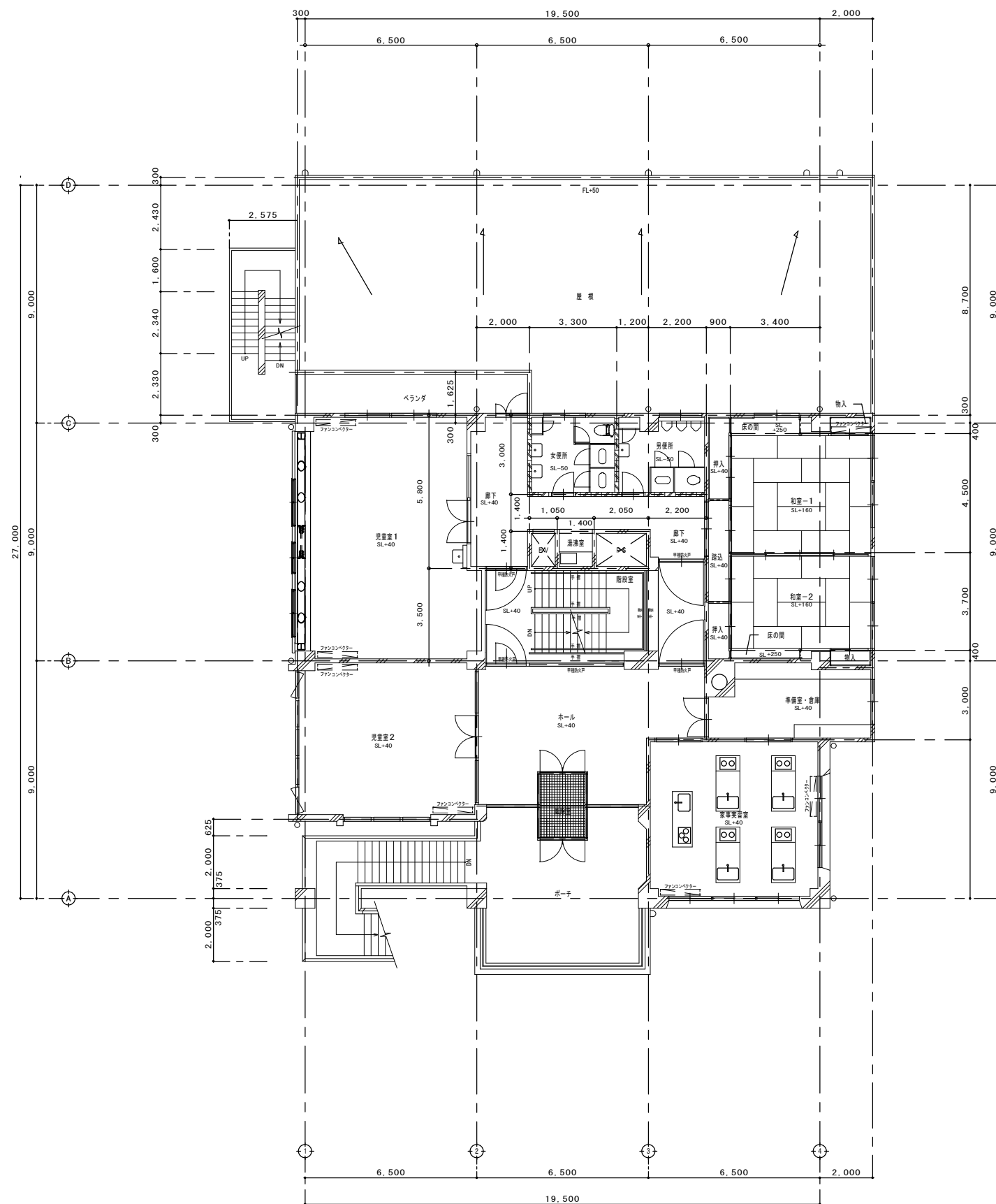
凡 例
—— : 鉄筋コンクリート
—— : コンクリート・ブロック

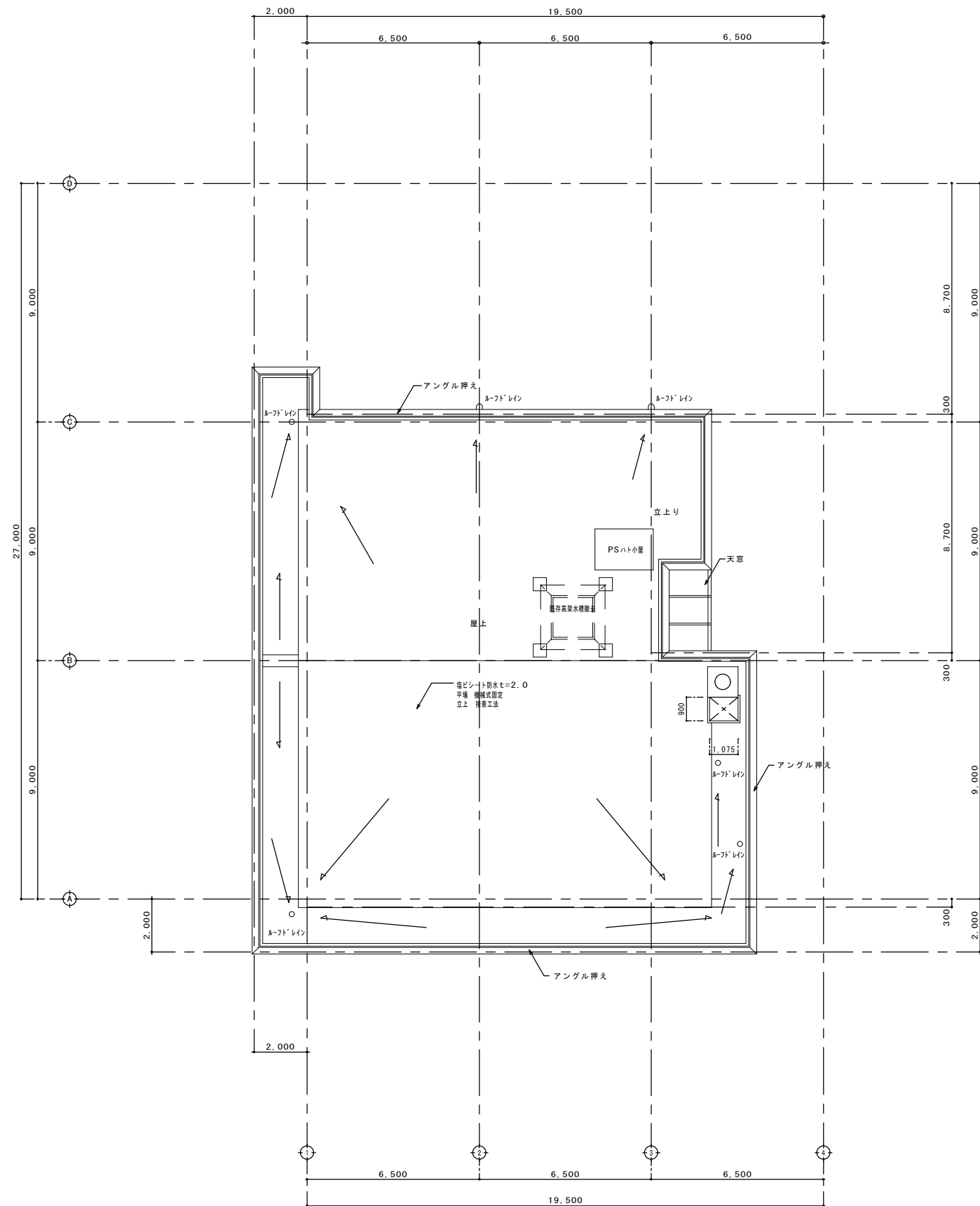
改修 2階平面図 S=1:100(200)



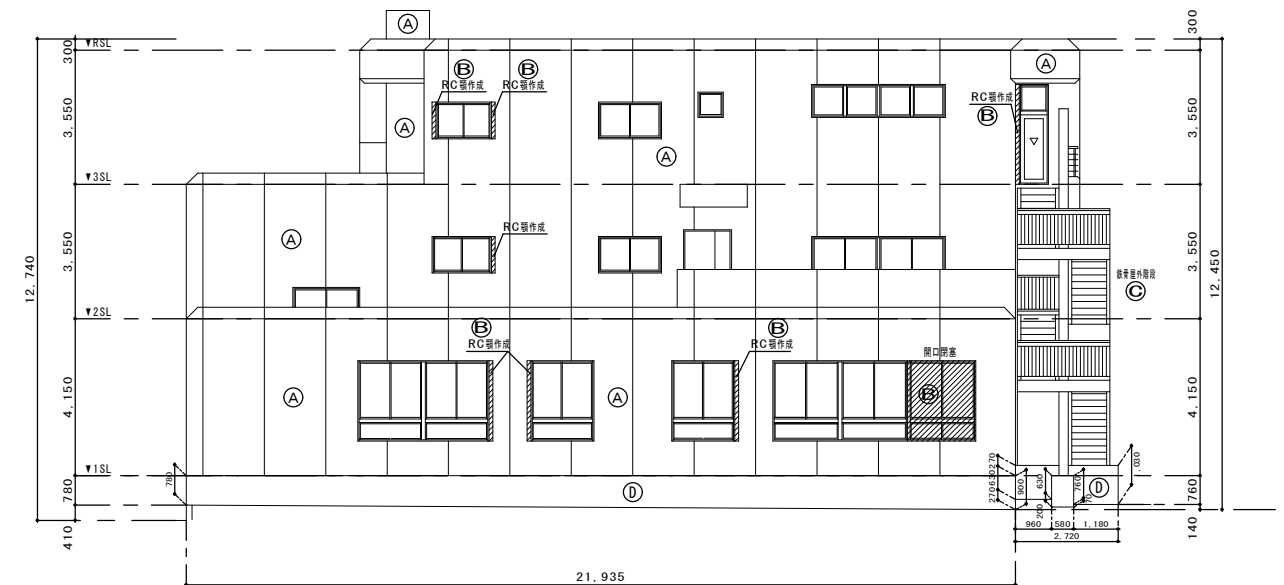
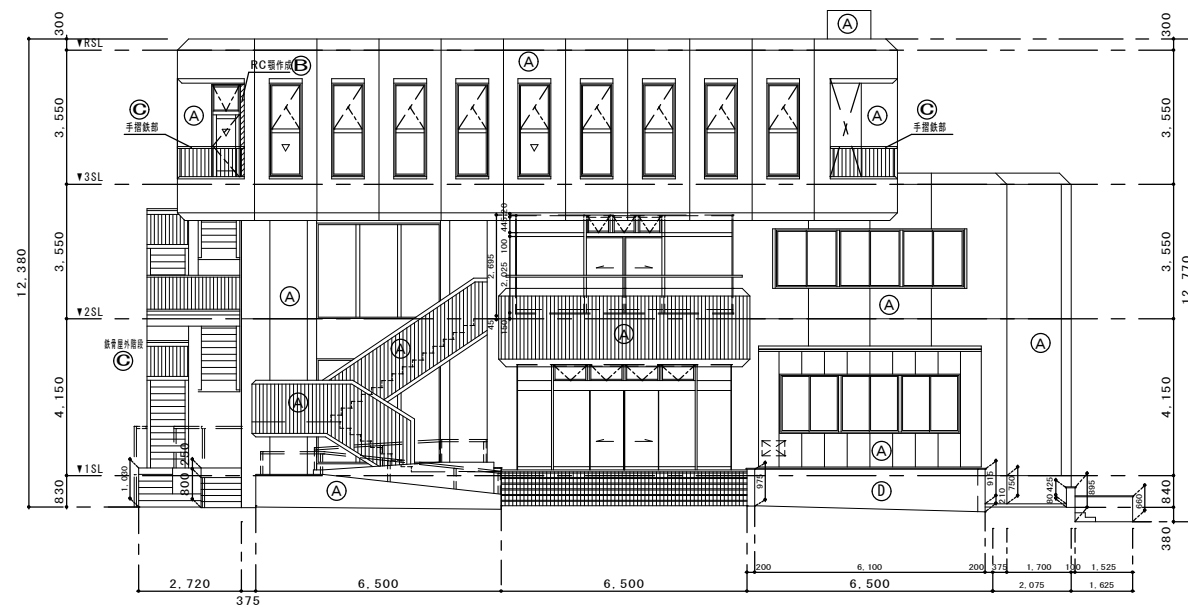
凡 例
—— : 鉄筋コンクリート
—— : コンクリート・ブロック

改修 3階平面図 S=1:100(200)

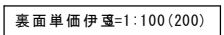
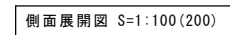
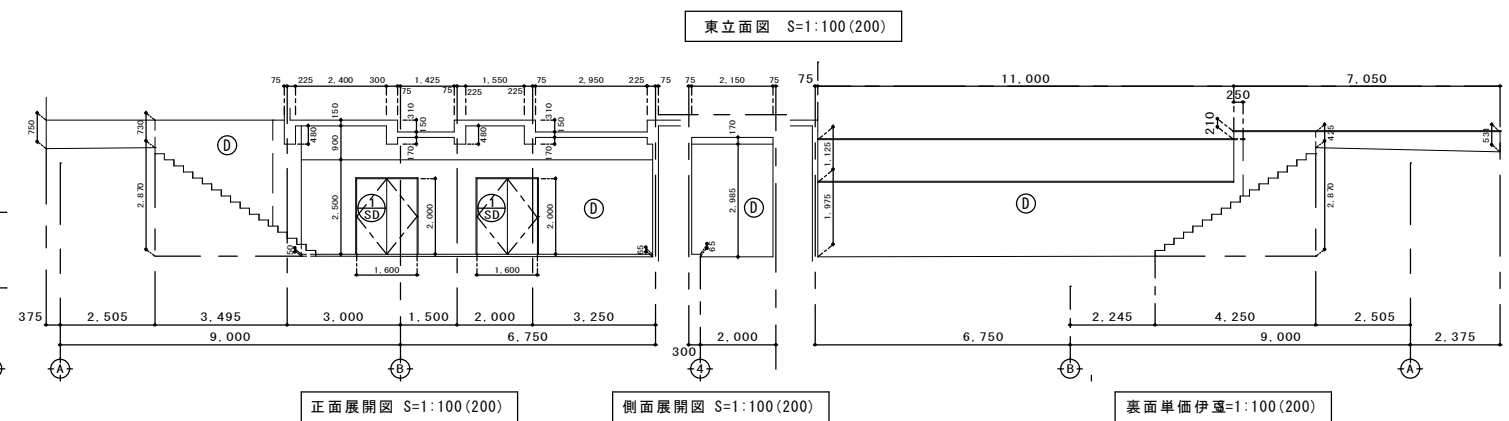
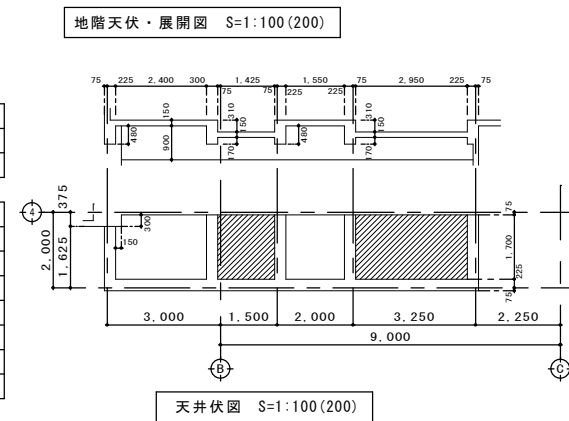
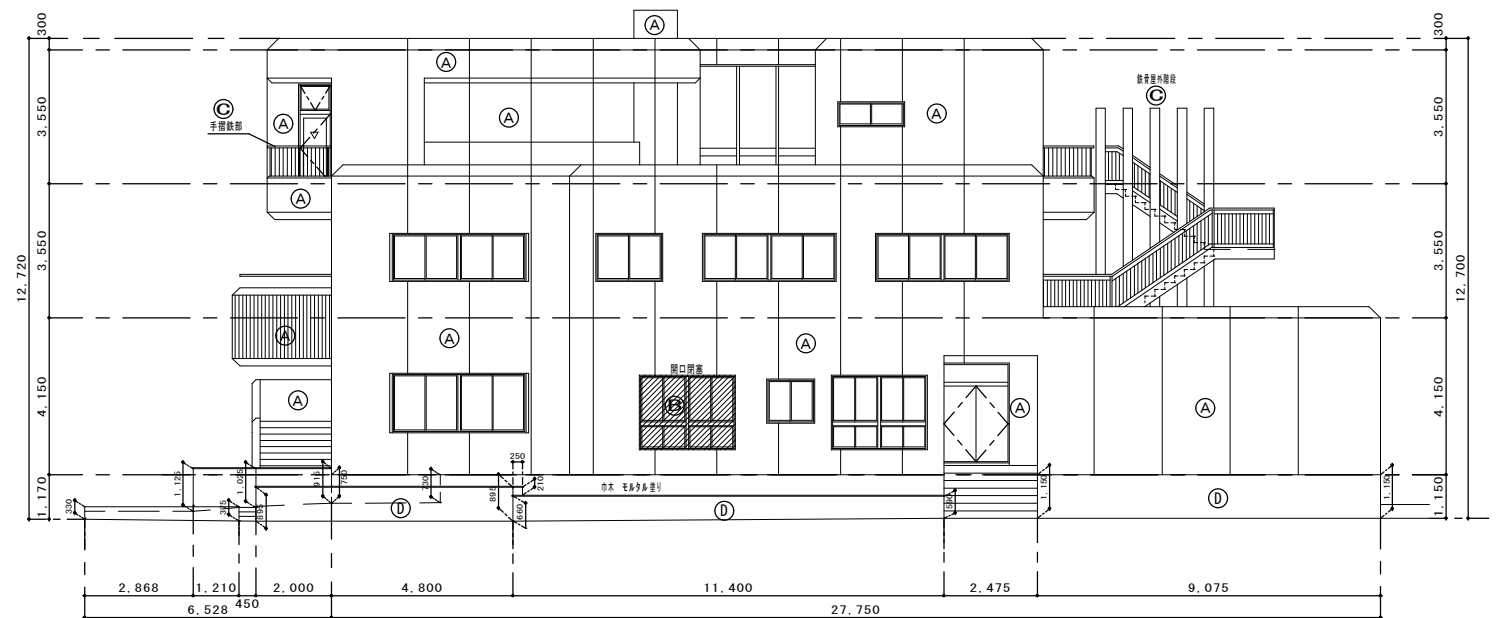
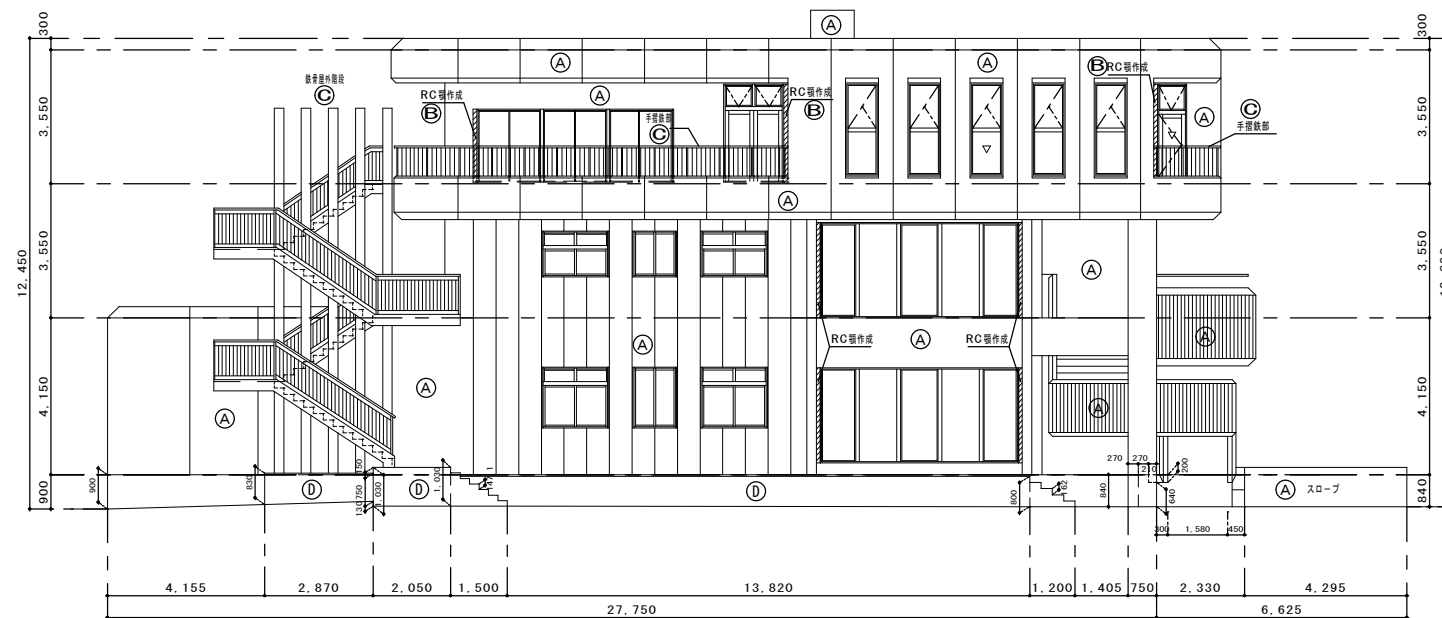




現況 屋根伏図 S=1:100(200)

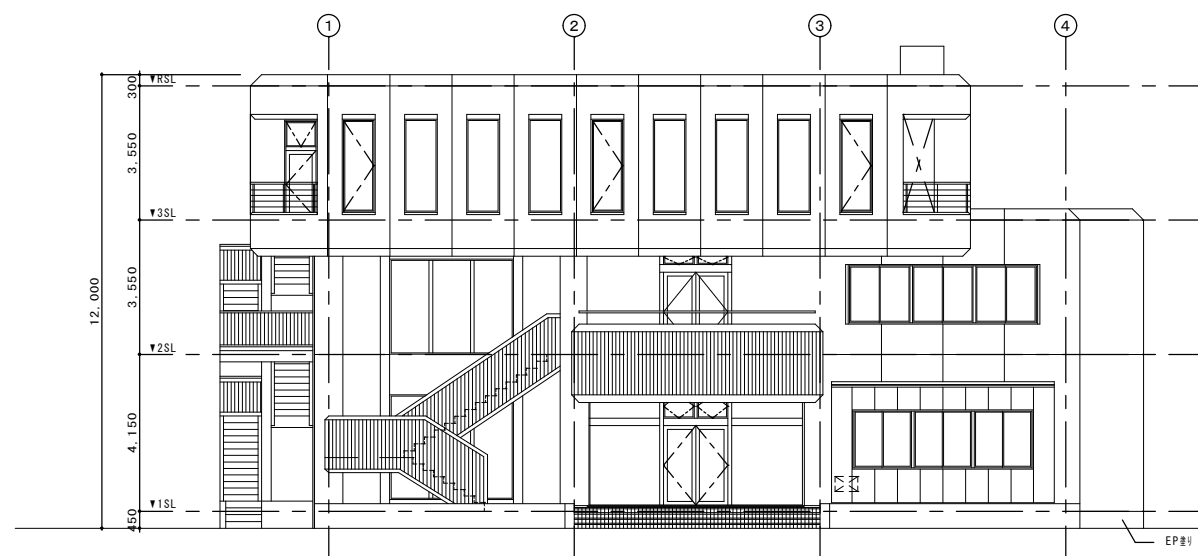


仕 上 表		
【施工箇所】	【改修内容】	【既存仕上げ】
① 外壁（吹付部）	下地処理（高圧水洗工法）、各部補修、防水型複層塗材E	コンクリート打放し補修、防水型複層塗材
② 外壁（新設面）	下地調整材C-1、防水型複層塗材E	
③ 鉄部（塗装面）	下地処理（RB種）、DP塗装	
④ 外壁（バルコ）	下地調整、NAD塗装（70%樹脂非水分散形塗料）	

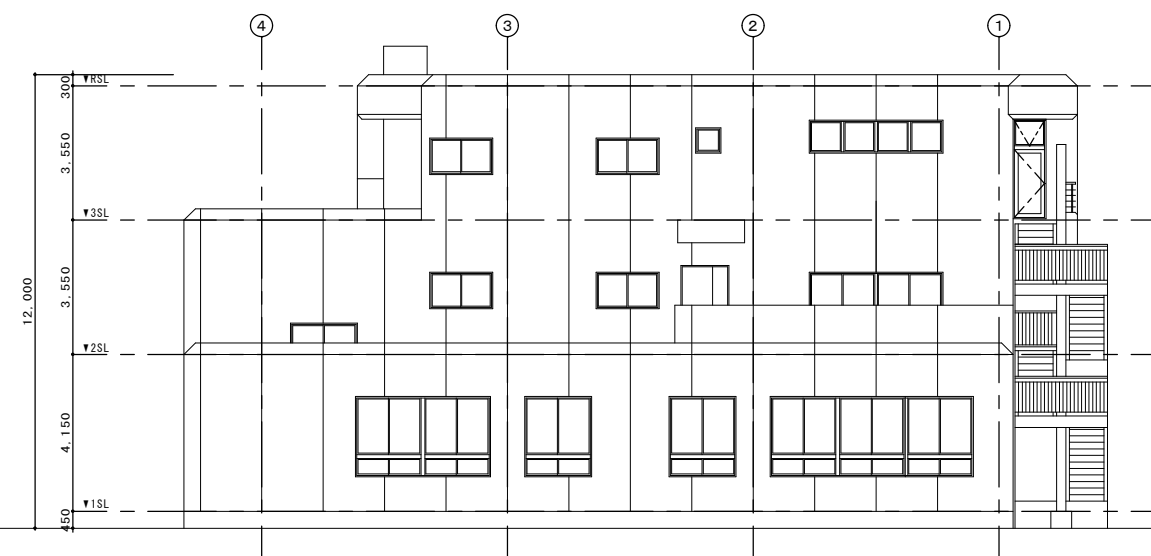


外壁補修概要	
【事前調査概要】	
事前調査については、足場設置後にクラック、浮き及び剥離の激しい部分等について本工事で調査を行う。	
事前調査対象部分：基礎巾木面、外壁塗装面、外壁タイル面、軒天部分、窓下護板、窓下タイル水切り 他	
【補修概要】	
補修内容については以下を見込む。（事前調査結果により変更の場合がある。）	
仕上塗材仕上げ面	既存劣化塗膜除去部 クラック補修（0.2mm未満） クラック補修（0.2mm以上） 鉄筋爆裂部補修 欠損部補修 浮き修繕
	下地調整（C-1）の上、既存部との模様合わせ シール工法 可とう性エポキシ樹脂充填工法 Uカットシール材充填工法 可とう性エポキシ樹脂充填 樹脂モルタル充填工法（鉄筋部所り出し、鏝撤去、防錆塗装の上、樹脂モルタル充填） 樹脂モルタル充填工法（下地調整の上、樹脂モルタル充填） エポキシ樹脂注入工法

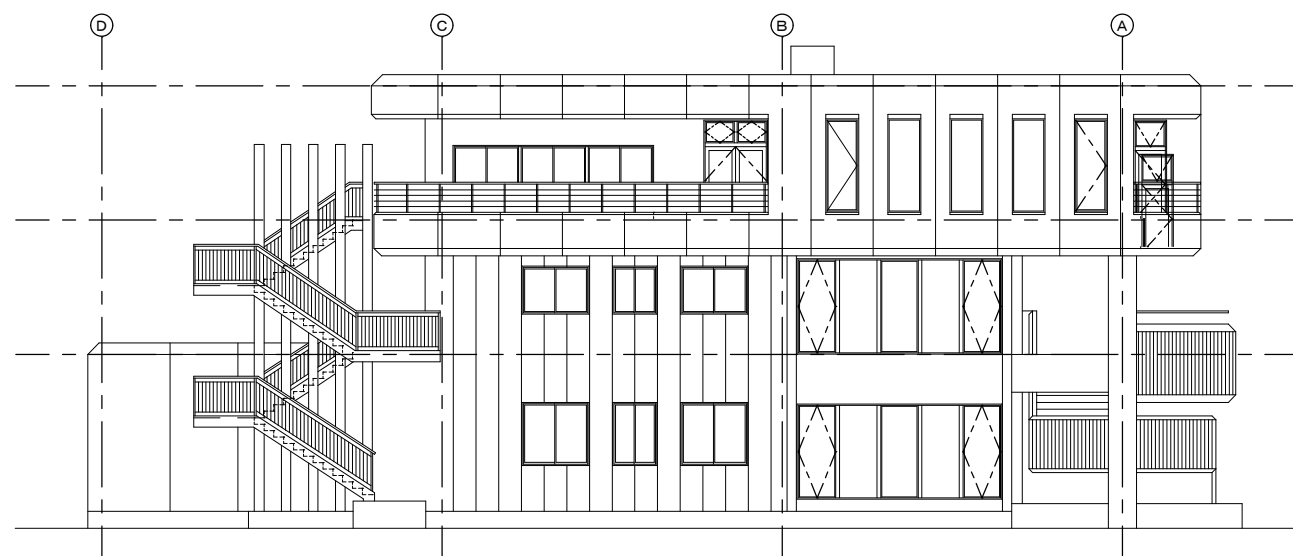
訂正			株式会社 佐藤設計 〒403-0017 山梨県富士吉田市新西原二丁目1番6号 TEL 0555-22-3929 一級建築士事務所 (業)第1-0320662号 FAX 0555-23-9218 一級建築士登録番号 (大)第360788号 佐藤 公泰 構造設計一級建築士証交付番号 第11022号	設計年月日		工事名称	富士吉田市立明見コミュニティセンター改修工事	図面番号 A-18
						工事区分	建築主体工事	
	縮 尺			S=1 : 100 (A1) S=1 : 200 (A3)	図面名称	改修立面図		



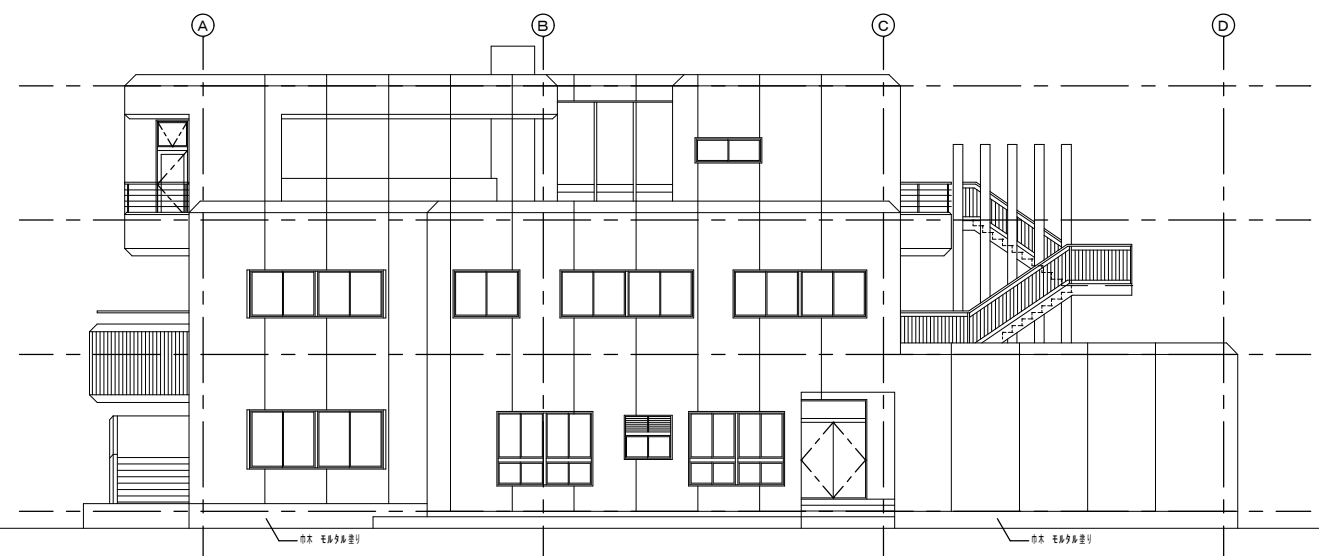
南立面図 S=1:100(200)



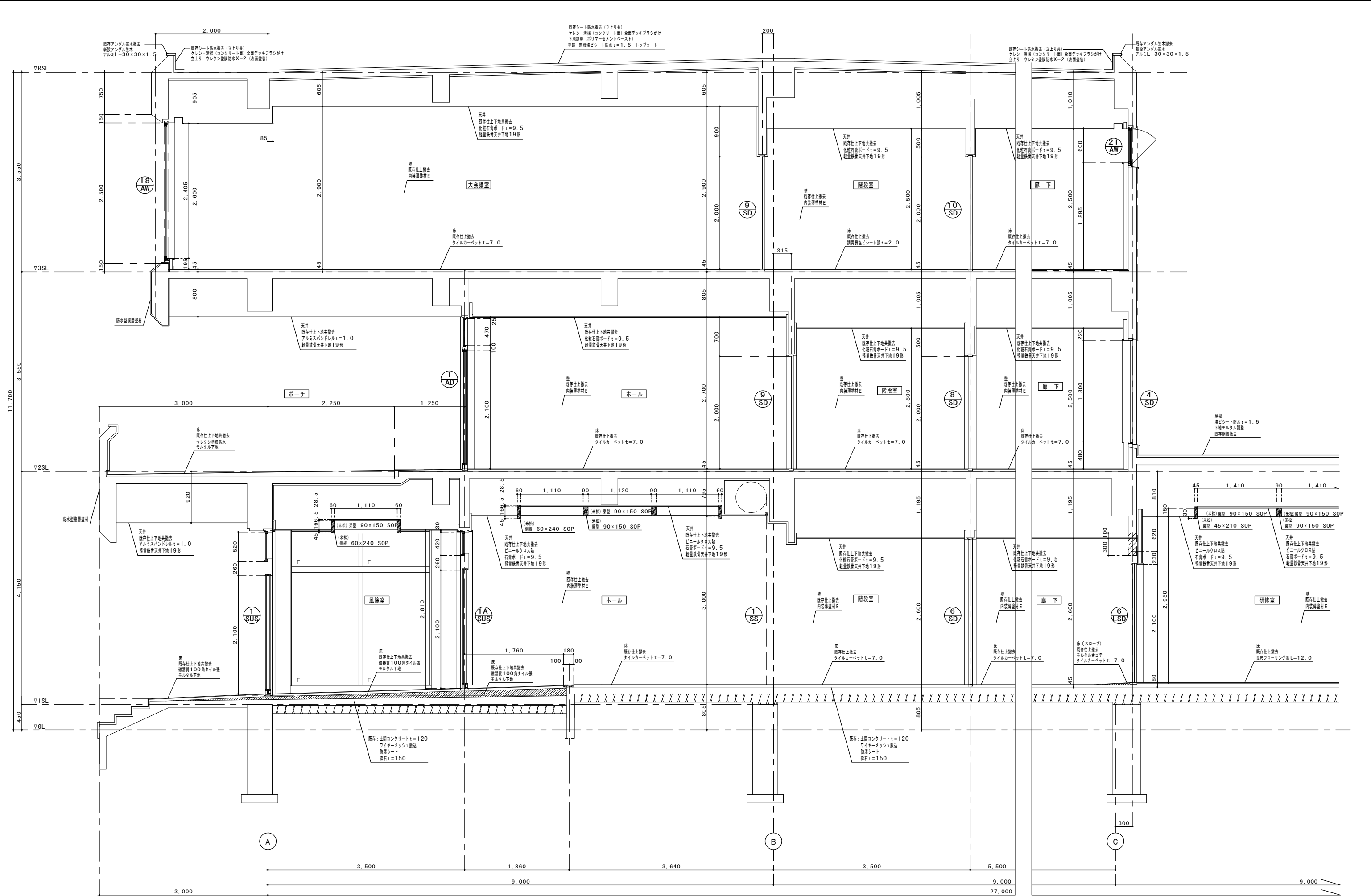
北立面図 S=1:100(200)



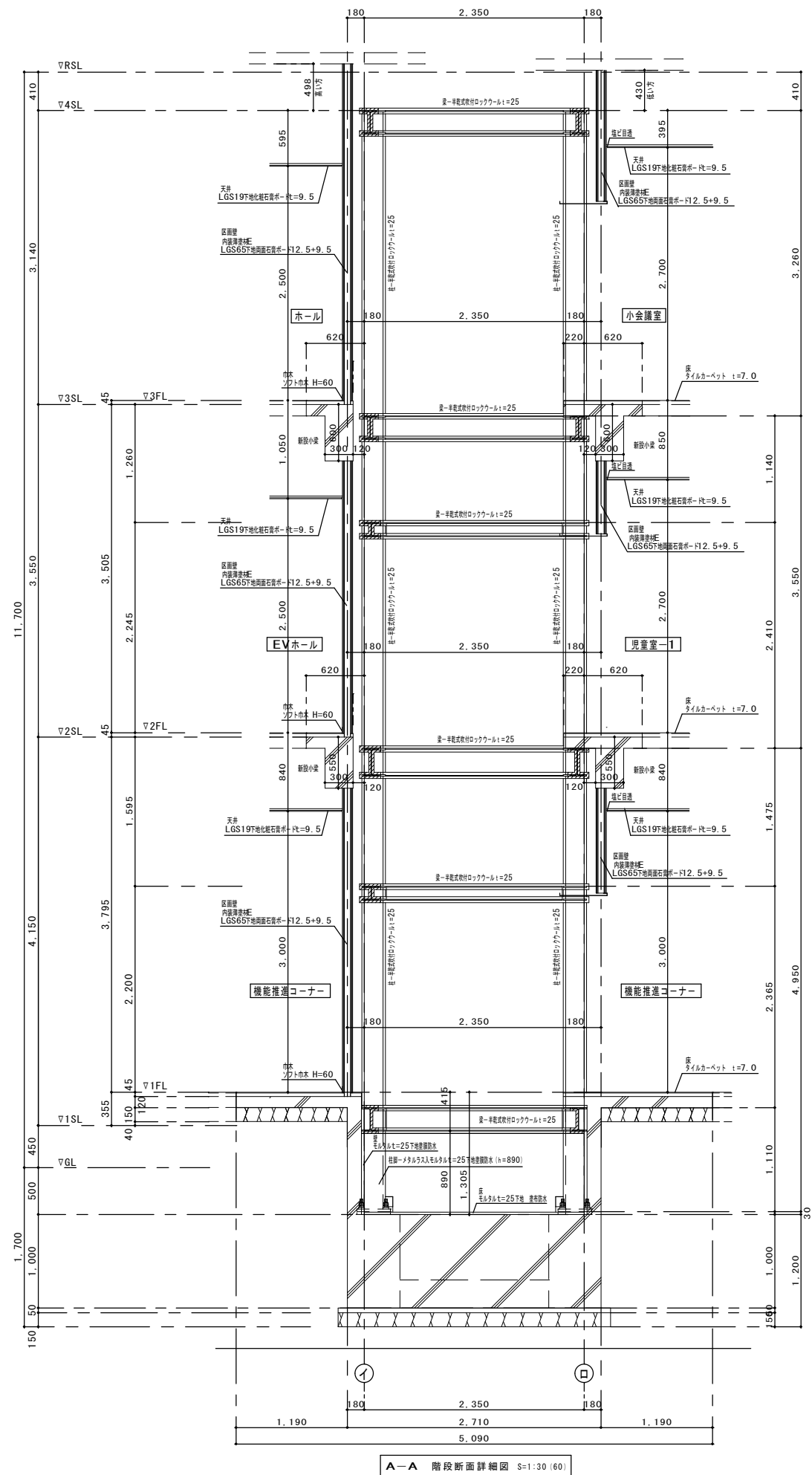
西立面図 S=1:100(200)

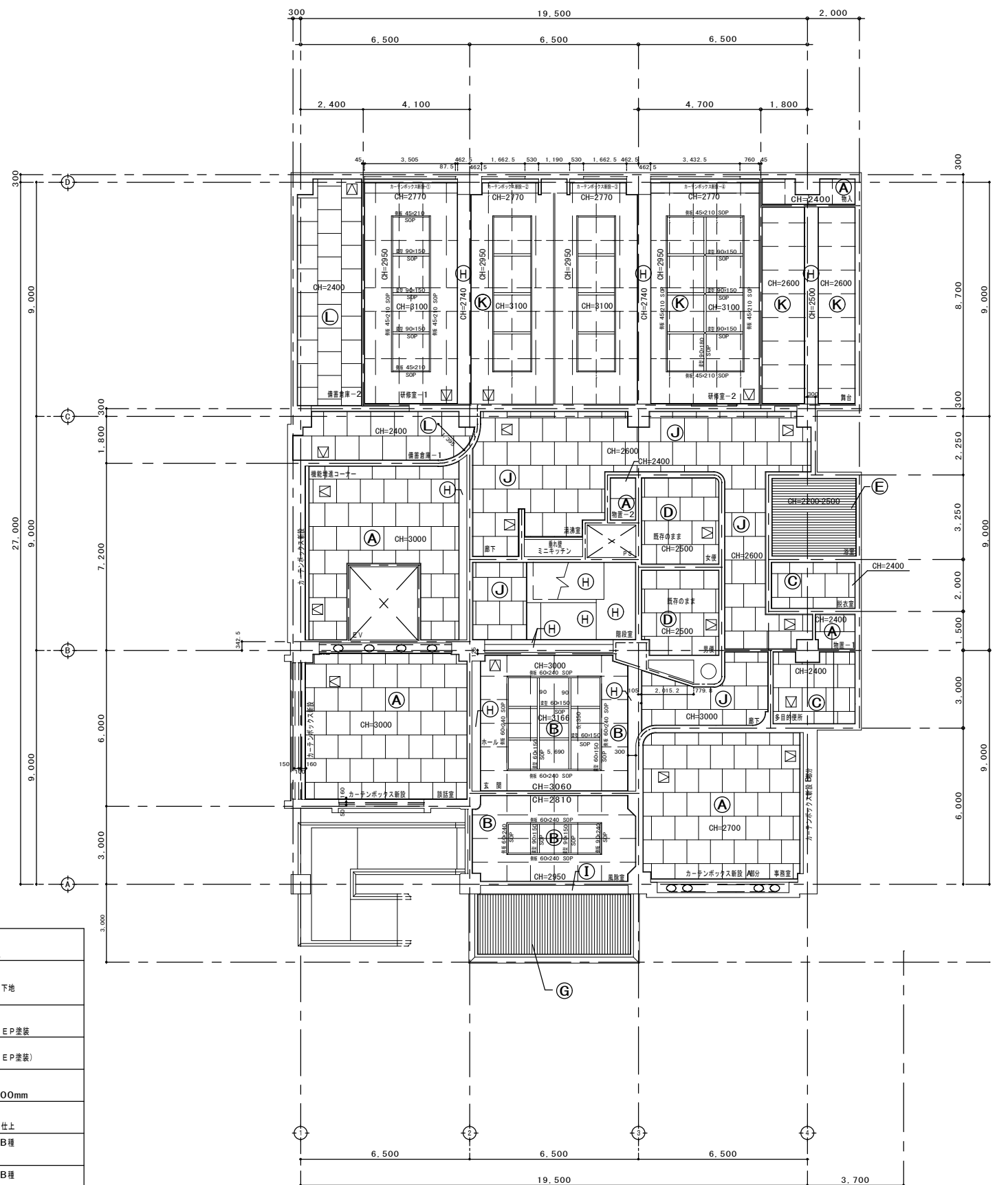
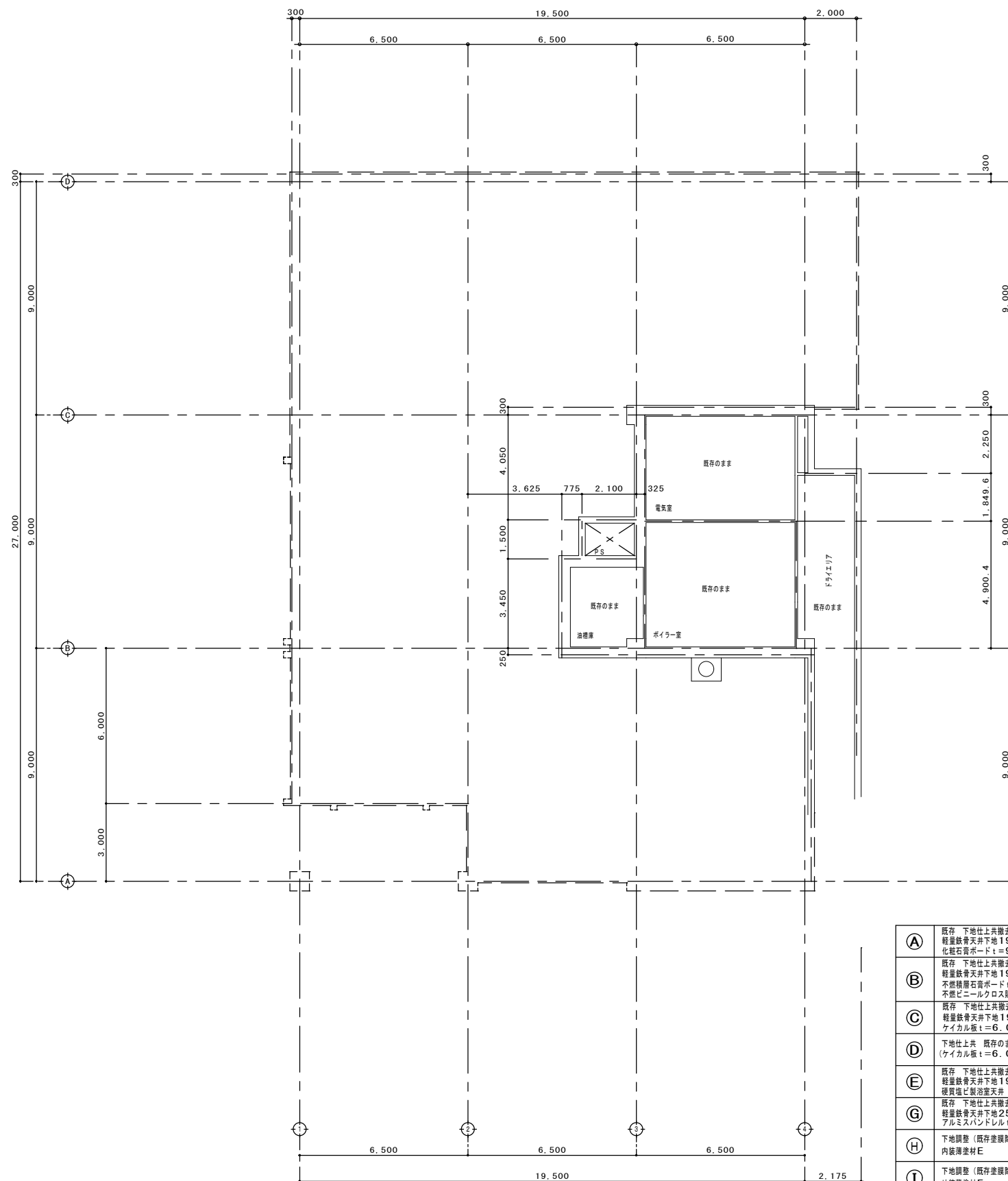


東立面図 S=1:100(200)

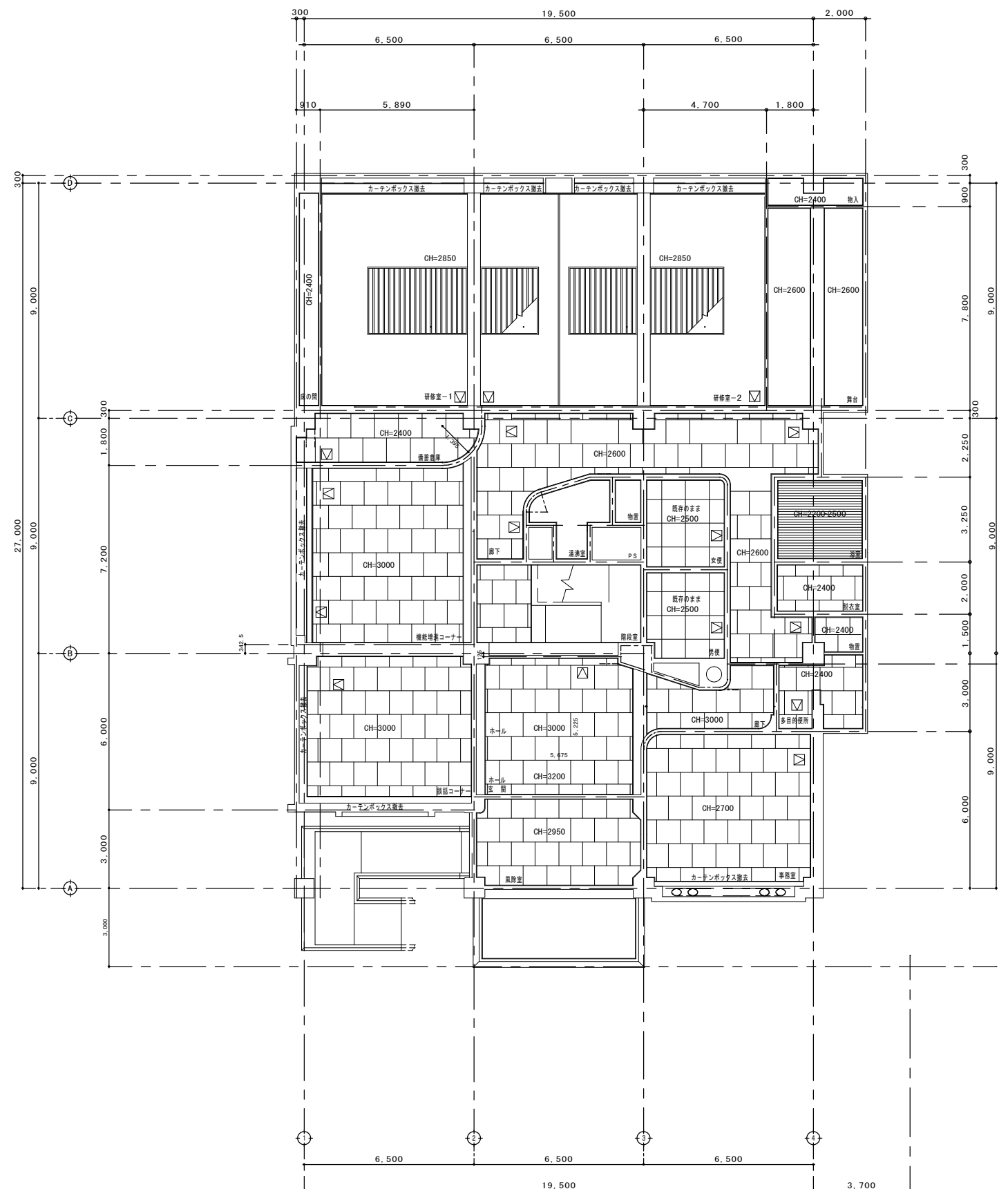
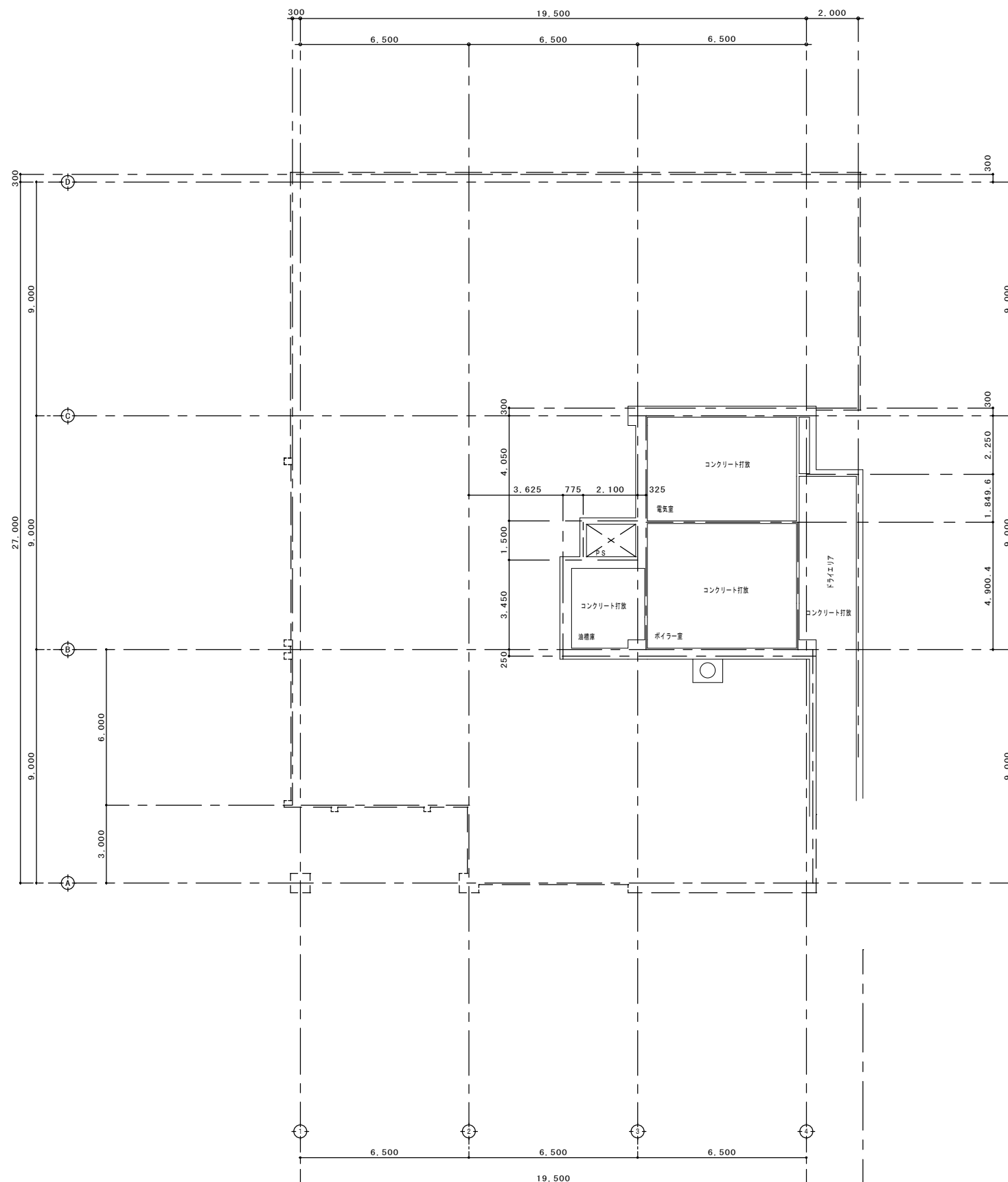


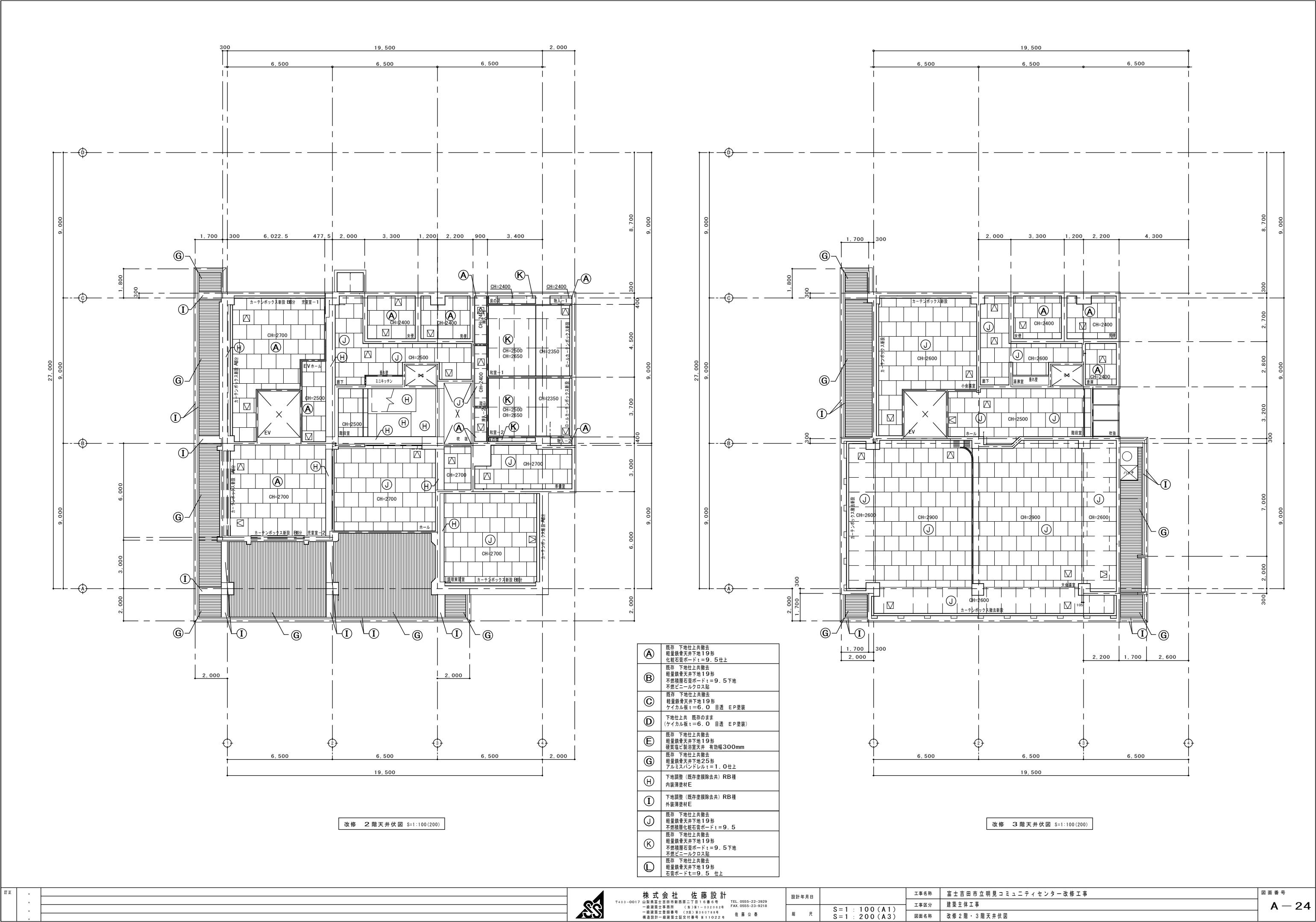
改修 矩計図 S=1:30 (60)





(A)	既存 下地仕上共撤去 軽量鉄骨天井下地 19 形 化粧石膏ボード t = 9.5 仕上
(B)	既存 下地仕上共撤去 軽量鉄骨天井下地 19 形 不燃被覆石膏ボード t = 9.5 下地 不燃ビニルクロス貼
(C)	既存 下地仕上共撤去 軽量鉄骨天井下地 19 形 ケイカル板 t = 6.0 目透 E 塗装
(D)	下地仕上共 既存のまま (ケイカル板 t = 6.0 目透 E 塗装)
(E)	既存 下地仕上共撤去 軽量鉄骨天井下地 19 形 硬質泡盛浴室天井 有効幅 300mm
(G)	既存 下地仕上共撤去 軽量鉄骨天井下地 25 形 アルミスパンドレル t = 1.0 仕上
(H)	下地調整 (既存塗膜除去共) RB 種 外装薄塗材 E
(I)	下地調整 (既存塗膜除去共) RB 種 外装薄塗材 E
(J)	既存 下地仕上共撤去 軽量鉄骨天井下地 19 形 不燃被覆化粧石膏ボード t = 9.5
(K)	既存 下地仕上共撤去 軽量鉄骨天井下地 19 形 不燃被覆石膏ボード t = 9.5 下地 不燃ビニルクロス貼
(L)	既存 下地仕上共撤去 軽量鉄骨天井下地 19 形 石膏ボード t = 9.5 仕上

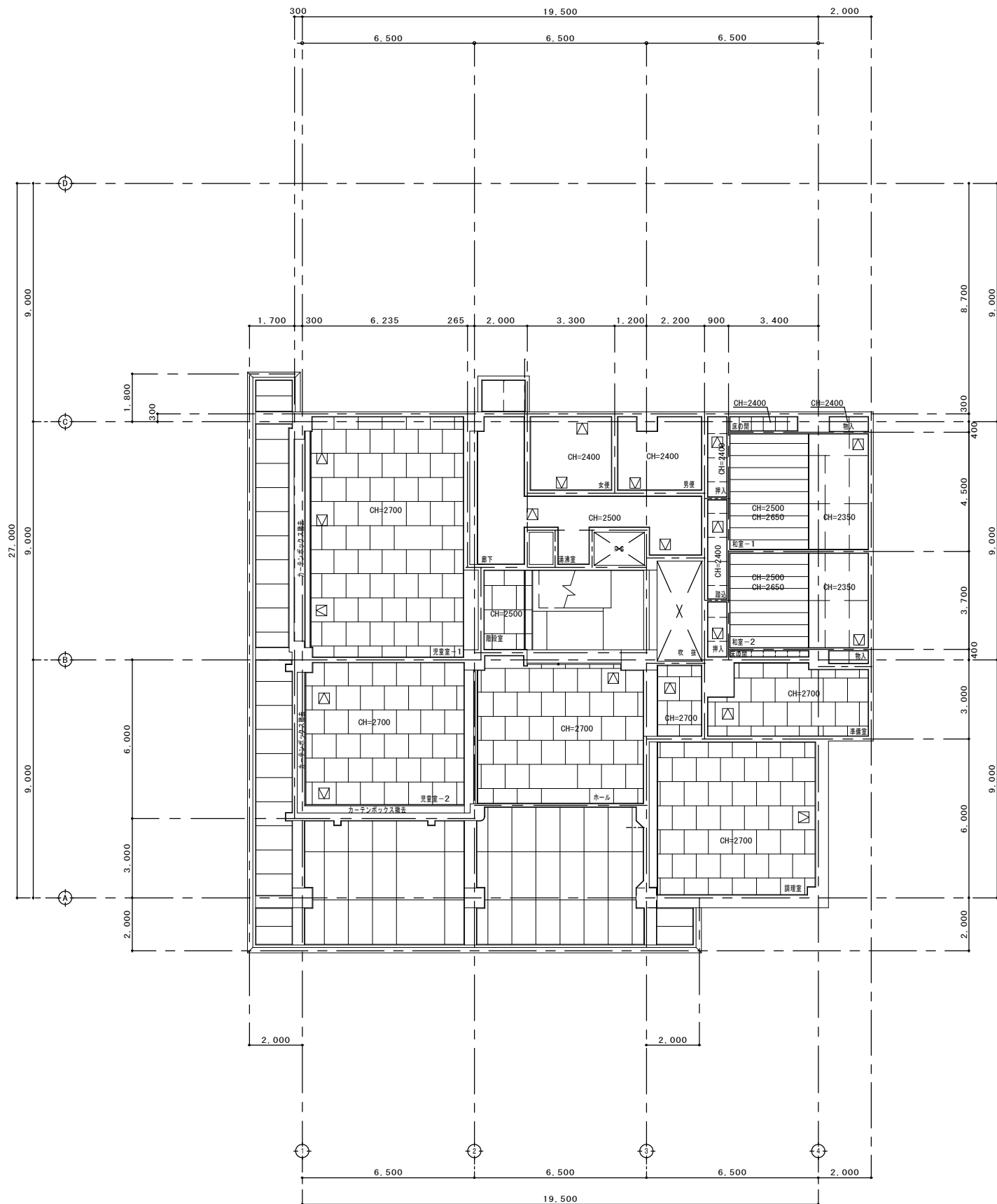




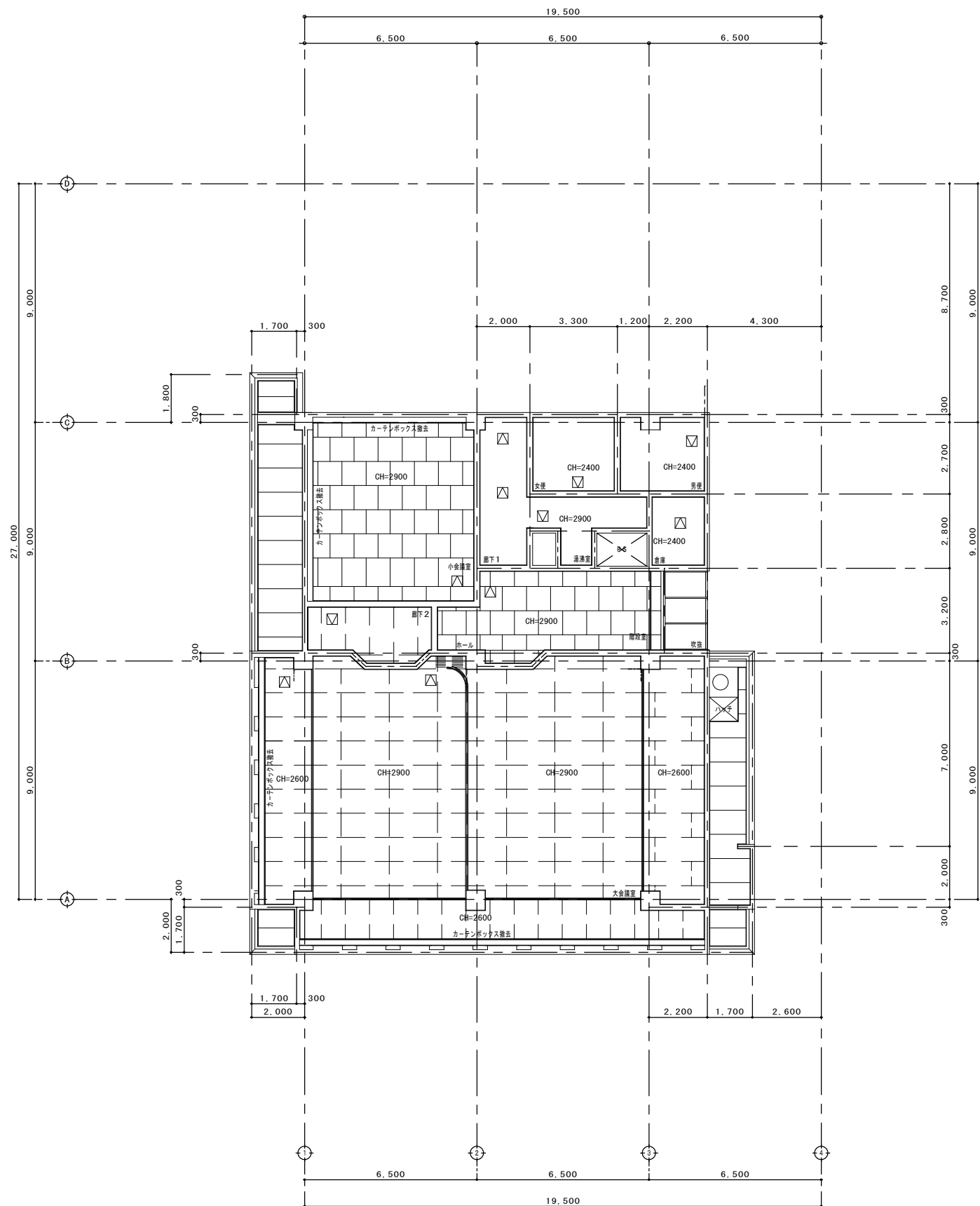
改修 2 階天井伏図 S=1:100(200)

改修 3 階天井伏図 S=1:100(200)

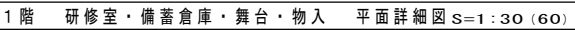
Ⓐ	既存 下地仕上共撤去 軽量鉄骨天井下地 19 形 化粧石膏ボード t=9.5 仕上
Ⓑ	既存 下地仕上共撤去 軽量鉄骨天井下地 19 形 不燃種層石膏ボード t=9.5 下地 不燃ビニールクロス貼
Ⓒ	既存 下地仕上共撤去 軽量鉄骨天井下地 19 形 ケイカル板 t=6.0 目透 E P 塗装
Ⓓ	下地仕上 既存のまま (ケイカル板 t=6.0 目透 E P 塗装)
Ⓔ	既存 下地仕上共撤去 軽量鉄骨天井下地 19 形 硬質塩ビ製浴室天井 有効幅 300mm
Ⓖ	既存 下地仕上共撤去 軽量鉄骨天井下地 25 形 アルミスパンデル t=1.0 仕上
Ⓕ	下地調整 (既存塗膜除去共) RB 種 内装薄塗材 E
Ⓖ	下地調整 (既存塗膜除去共) RB 種 外装薄塗材 E
Ⓙ	既存 下地仕上共撤去 軽量鉄骨天井下地 19 形 不燃種層化粧石膏ボード t=9.5
Ⓚ	既存 下地仕上共撤去 軽量鉄骨天井下地 19 形 不燃種層石膏ボード t=9.5 下地 不燃ビニールクロス貼
Ⓛ	既存 下地仕上共撤去 軽量鉄骨天井下地 19 形 石膏ボード t=9.5 仕上

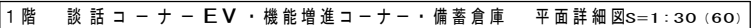


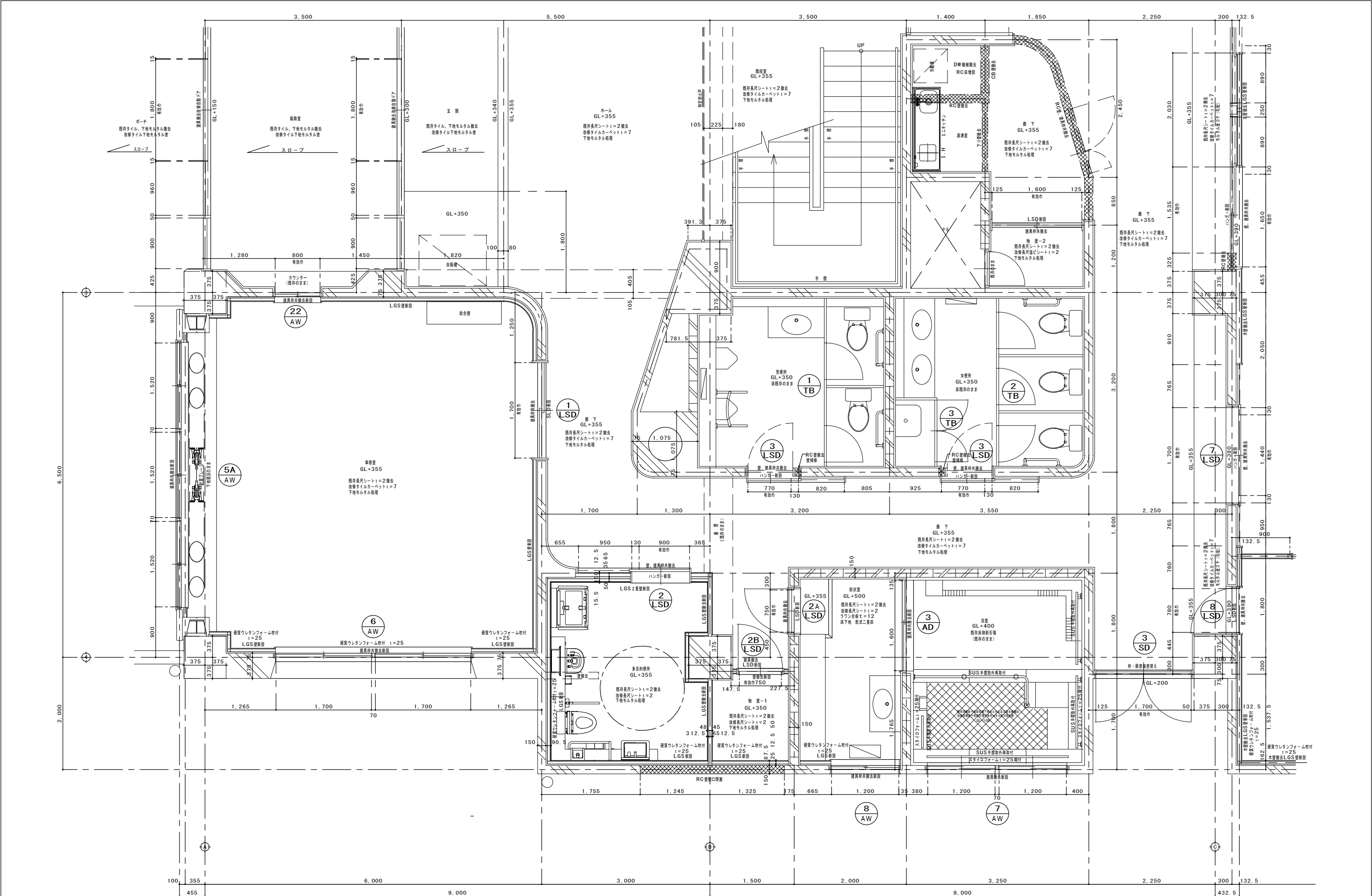
現況 2階天井伏図 S=1:100(200)



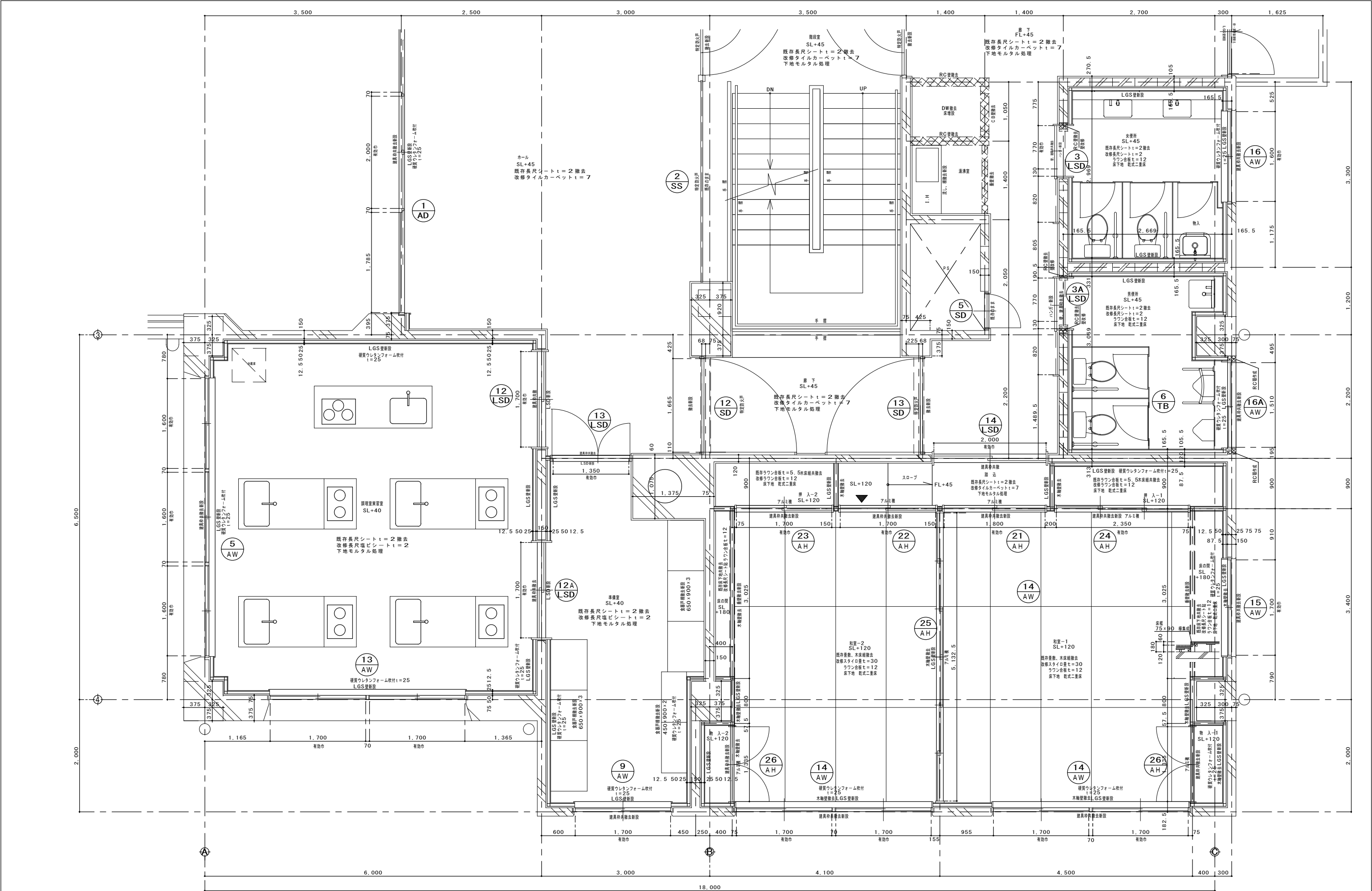
現況 3階天井伏図 S=1:100(200)



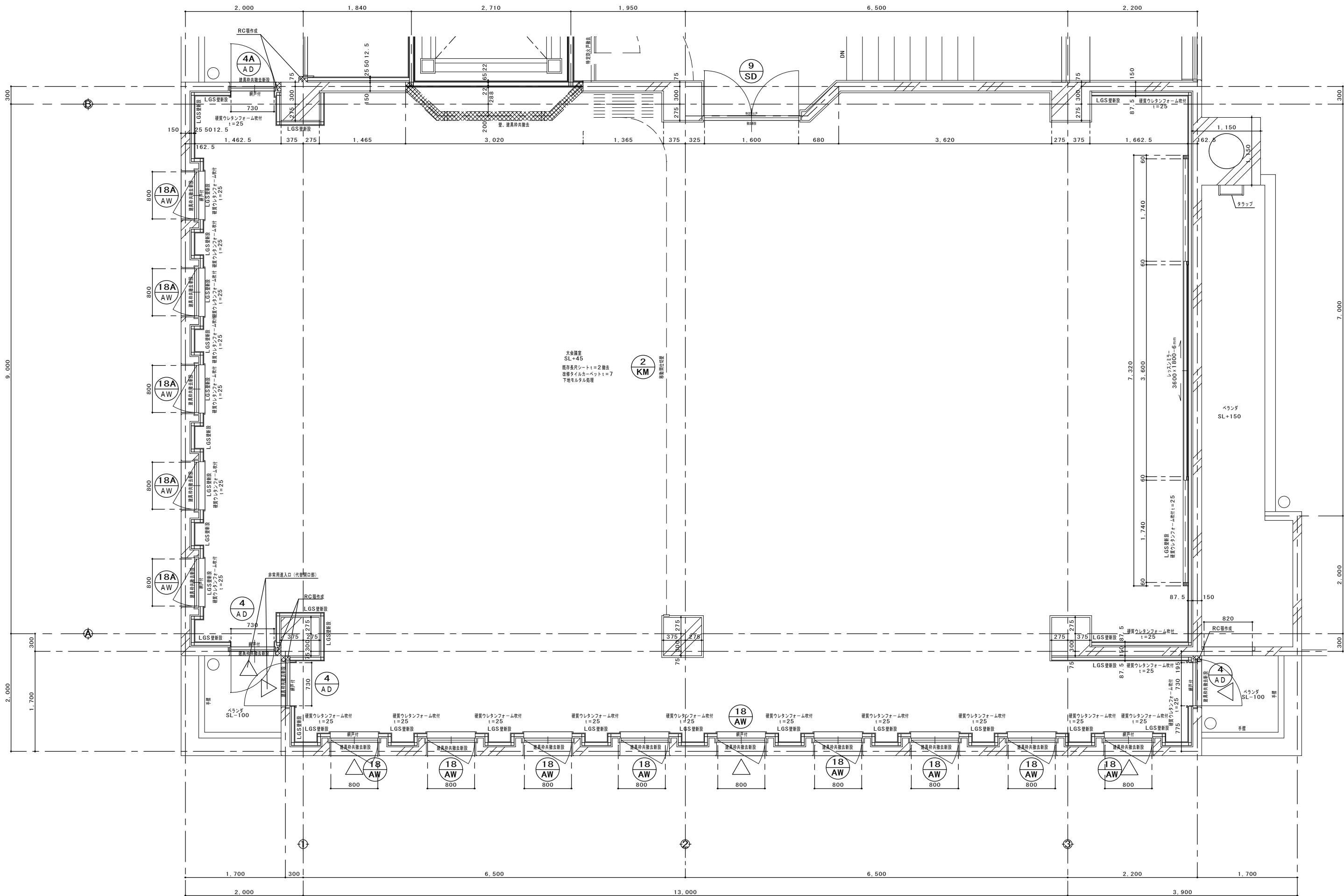
A-27



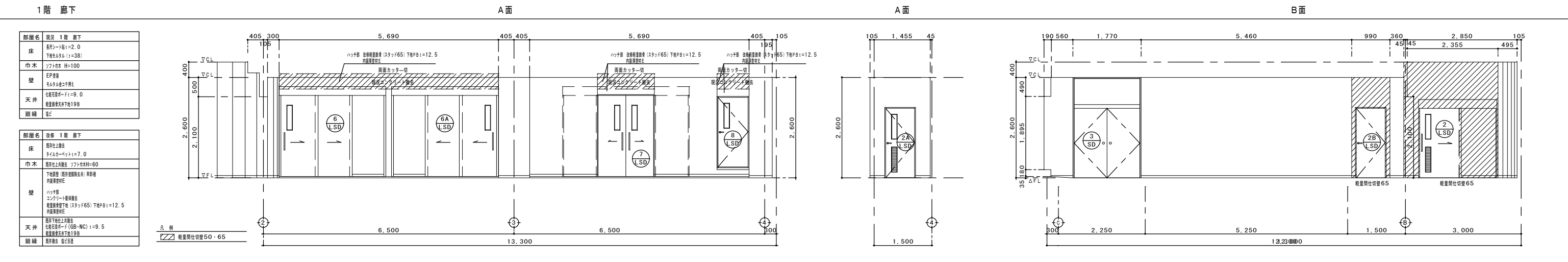
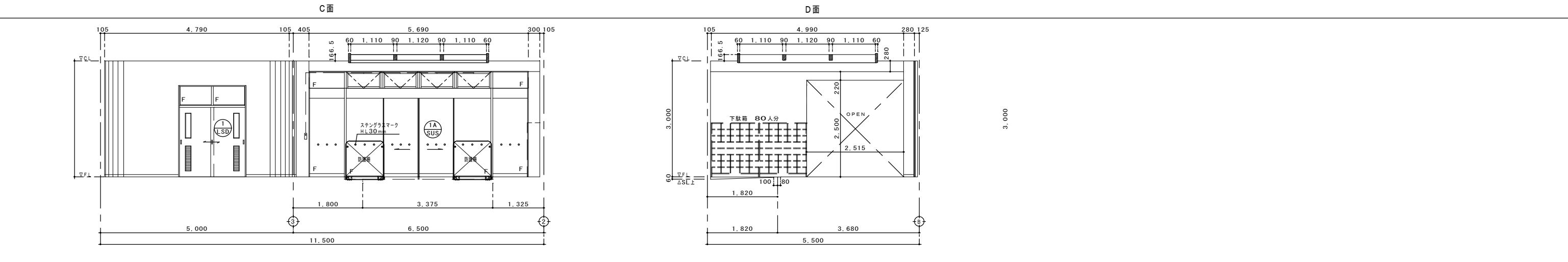
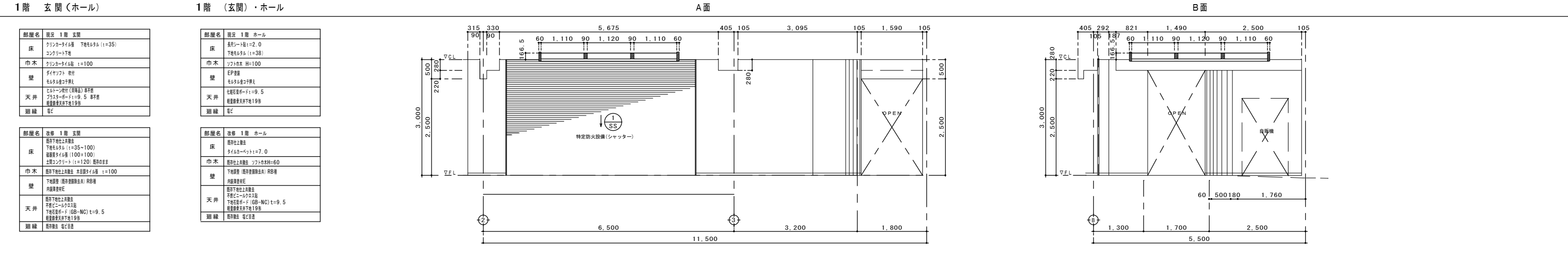
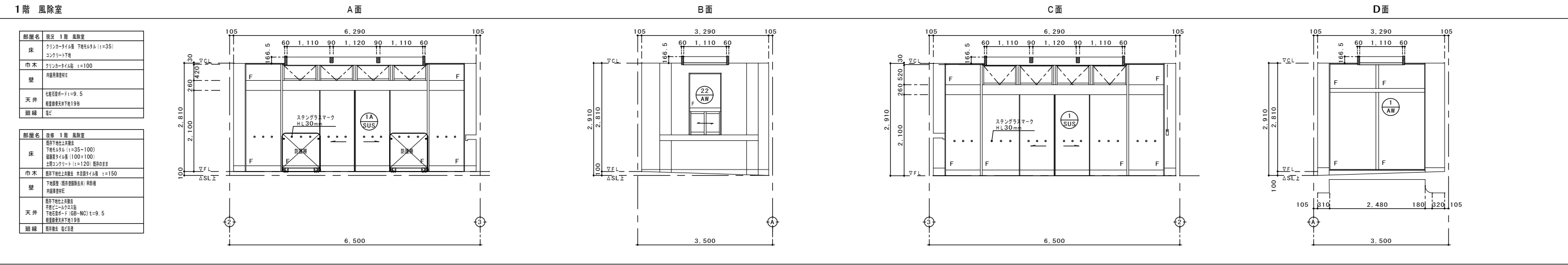
1階 事務所・多目的便所・物置・脱衣室・浴室・廊下・男女便所 平面詳細図S=1:30(60)



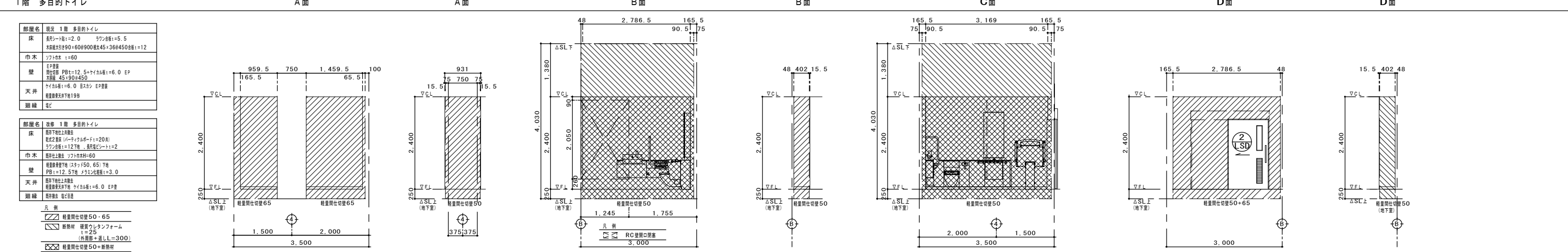
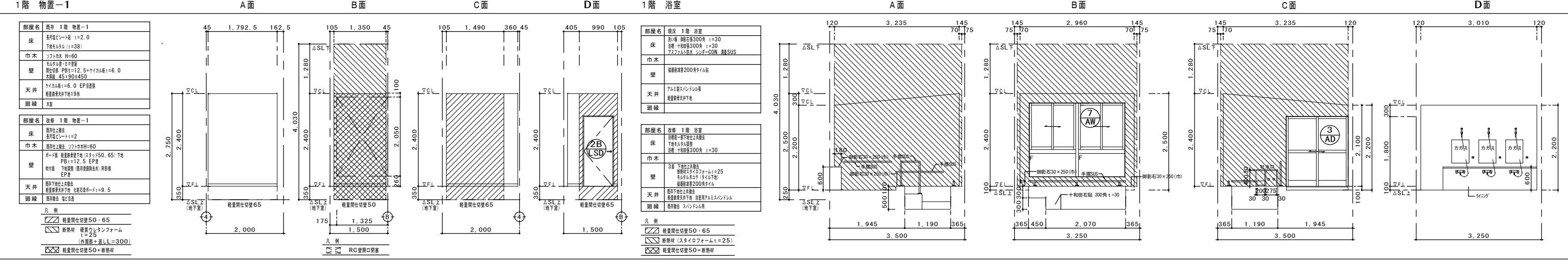
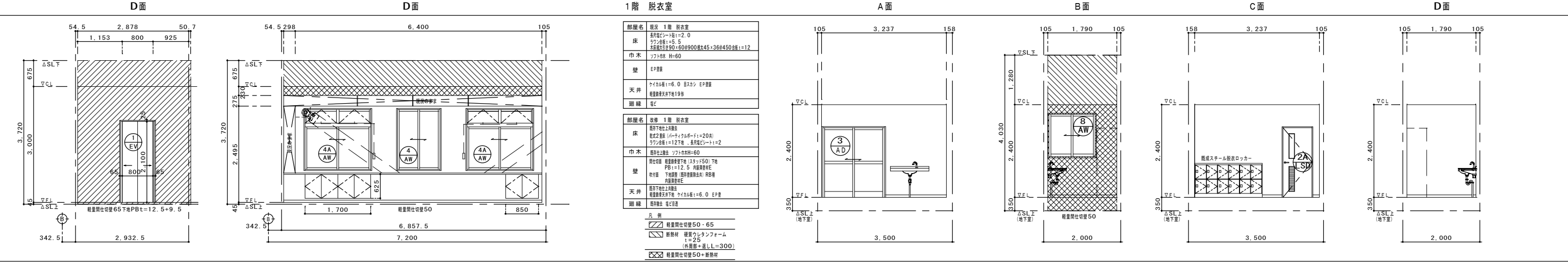
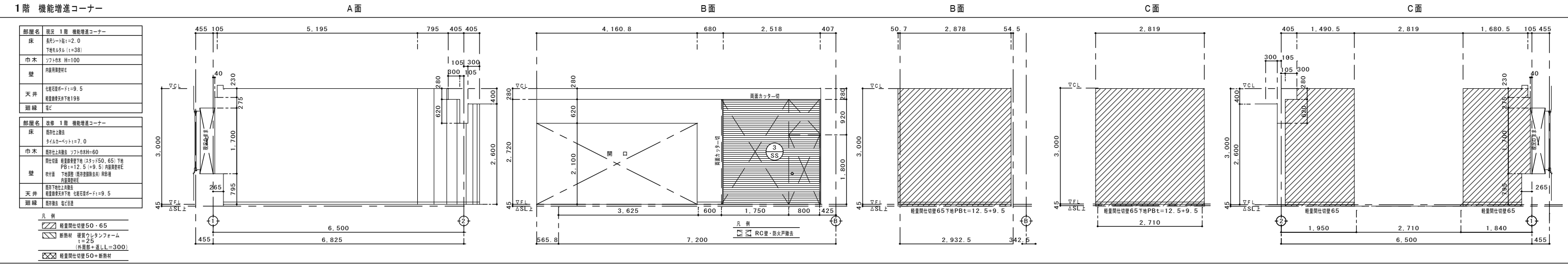
2階 調理室・準備室・和室-1・和室-2・押入・床の間・路込 平面詳細図=1:30 (60)

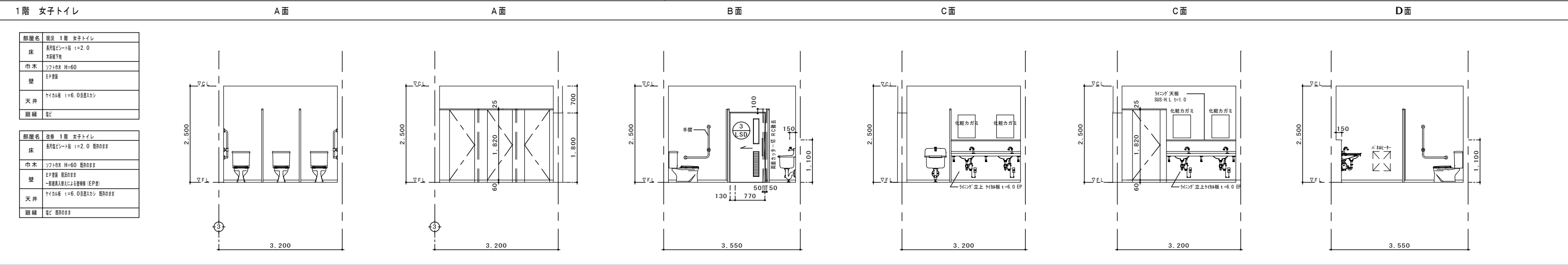


3階 大会議室 平面詳細図 S=1:30 (60)









D面

D面

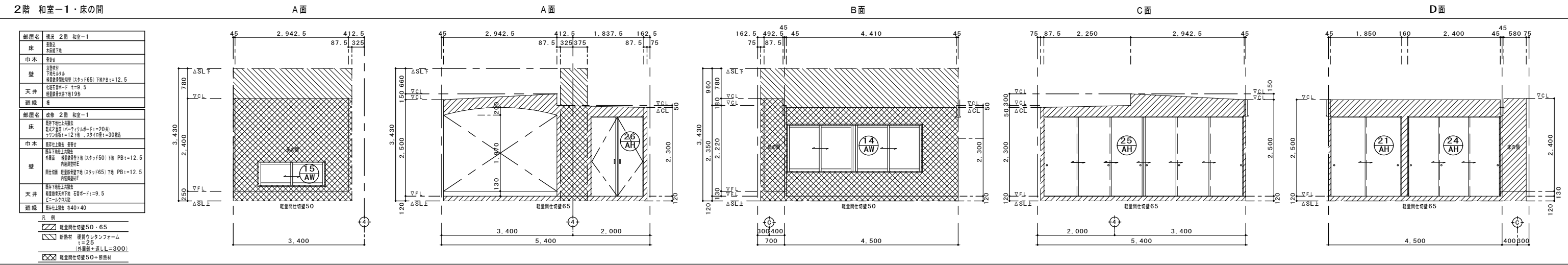
D面

D面

D面

D面

D面









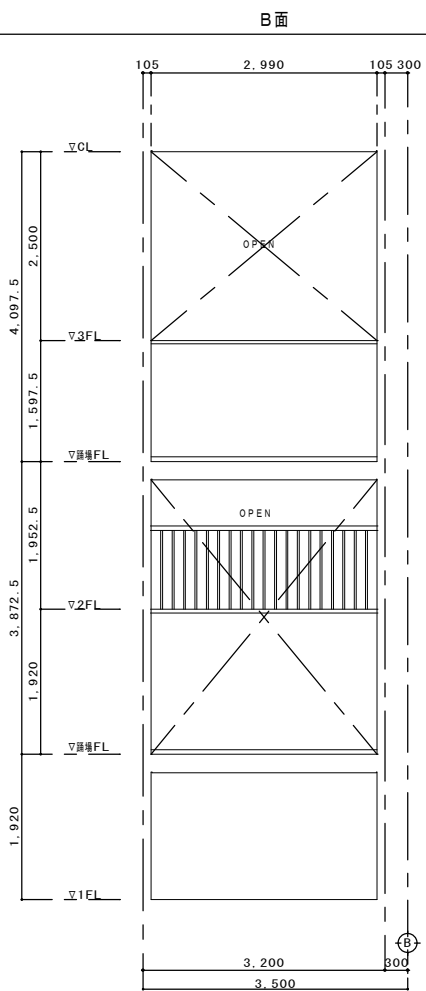
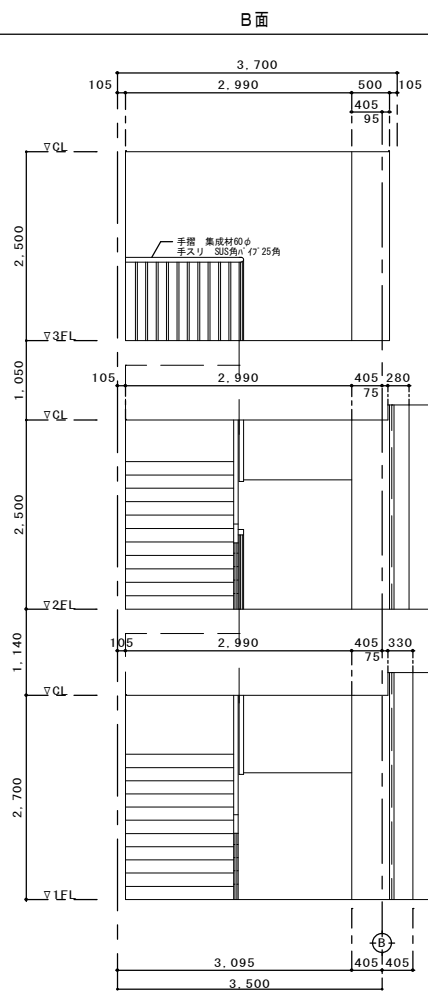
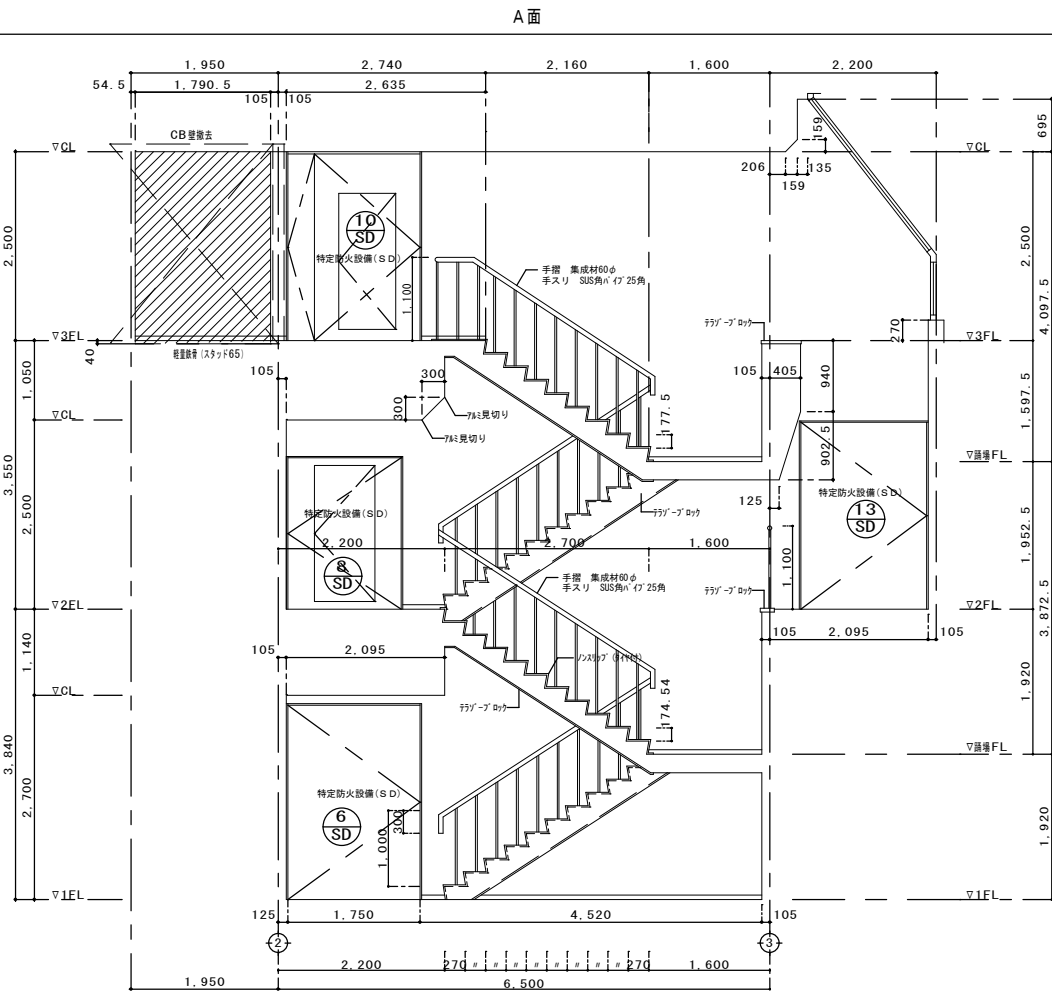
階段室

部屋名	状況	階段室
床	長尺塩ビシート貼 t=2.0	撤去
	モルタル下地	
巾木	ソフト巾木 H=100	撤去 ボーダーテラゾーブロック張り設置
壁	E.P塗壁	
天井	化粧石膏ボード t=9.5	撤去
	珪藻土吸音天井下地190	撤去
廻縁	塩ビ	撤去

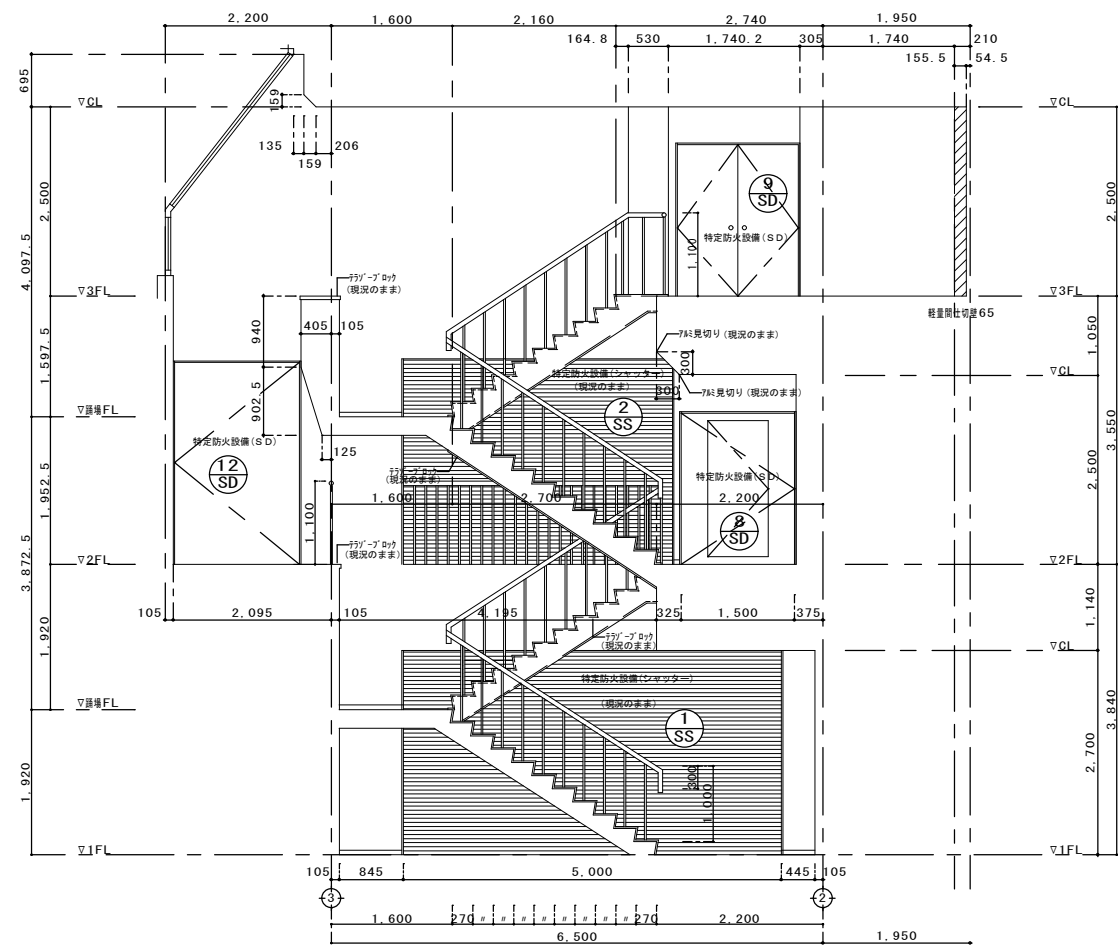
部屋名	改修 離脱室
床	既設上巻畳 床高付シート貼 1=2.0 改修
巾木	既設上巻畳裏 フォト付木枠=60 パーテラナラフローリング 既設のままで
壁	既設中巻 壁紙巻替下地 (スチッド50、65) 下地 PB=112.5 内巻換装完成 改修作 下巻巻替 既設換装完成 1R6壁 換装済壁=7C
天井	既設下巻付上巻付 4=5.5 下巻 (GB-NC)=19.5 既設換装完成下地19.5
窓・緑	既設換装 従ど設置
備考	ノンスリッパ敷き設置

凡 例

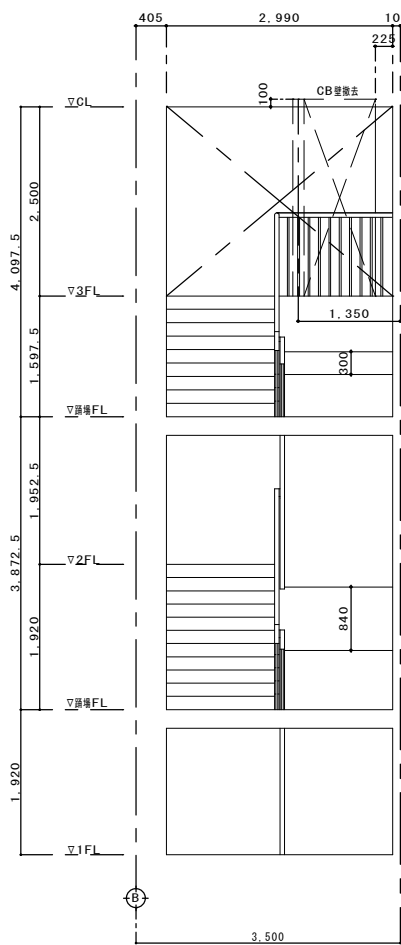
	軽量仕切壁50・65
	断熱材 硬質ウレタンフォーム t=25 (外周部+返しL=300)
	軽量仕切壁50+断熱材



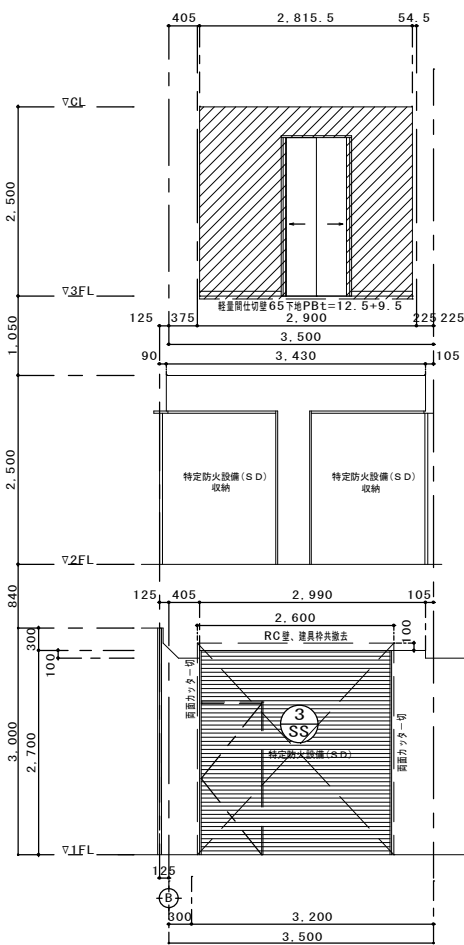
C面

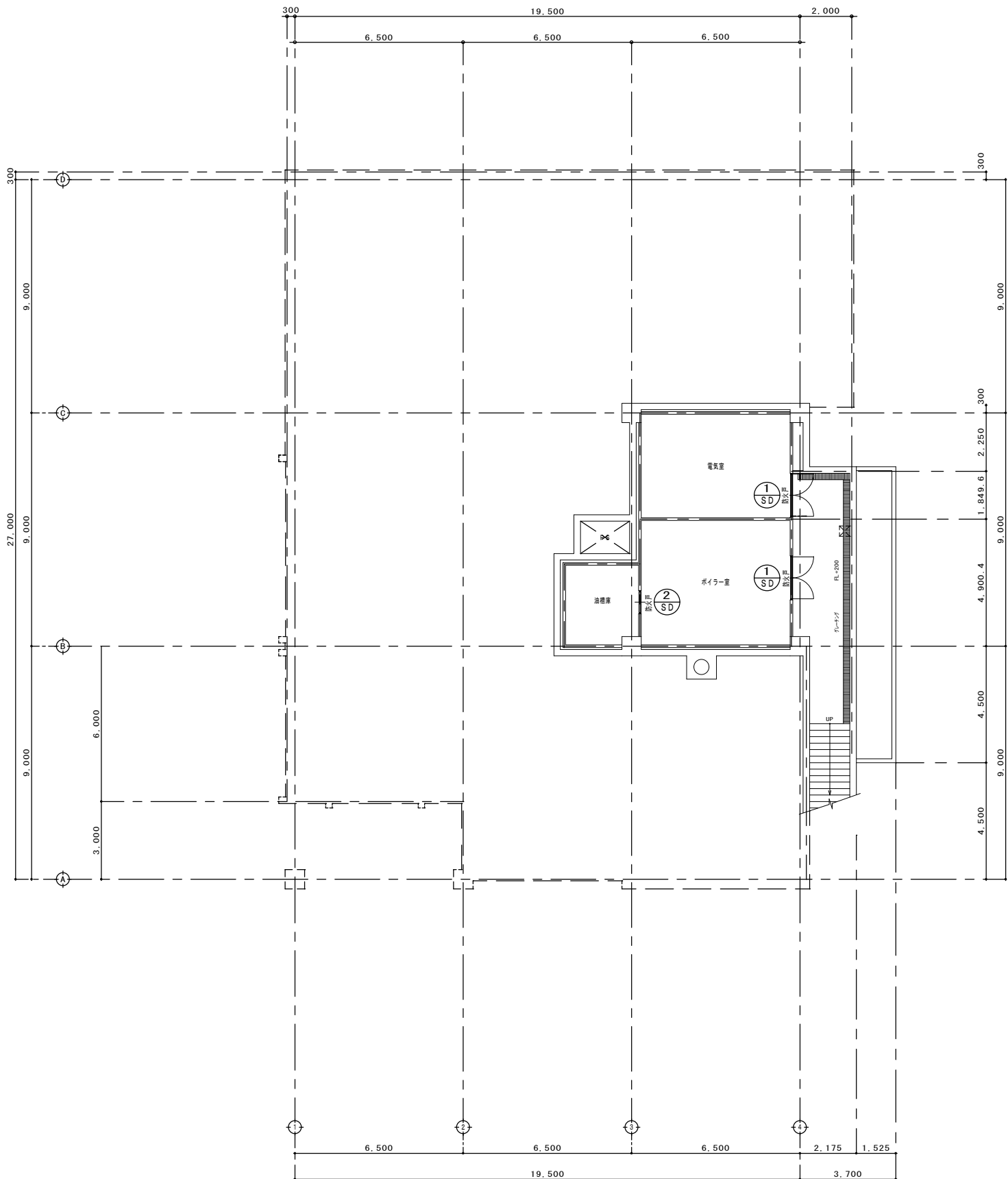


D 面

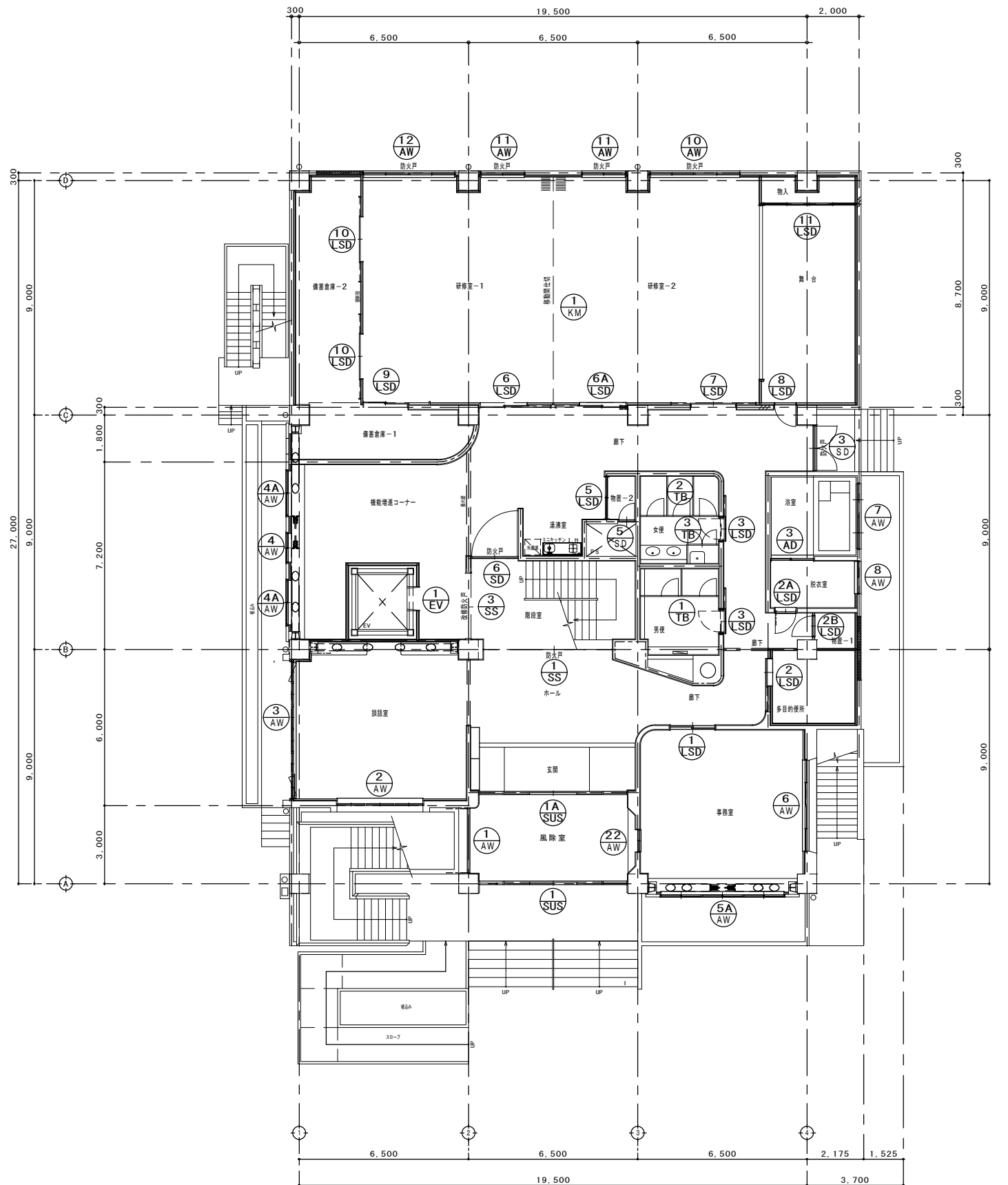


D 面

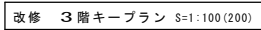
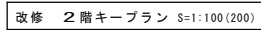




改修 地階キープラン S=1:100(200)



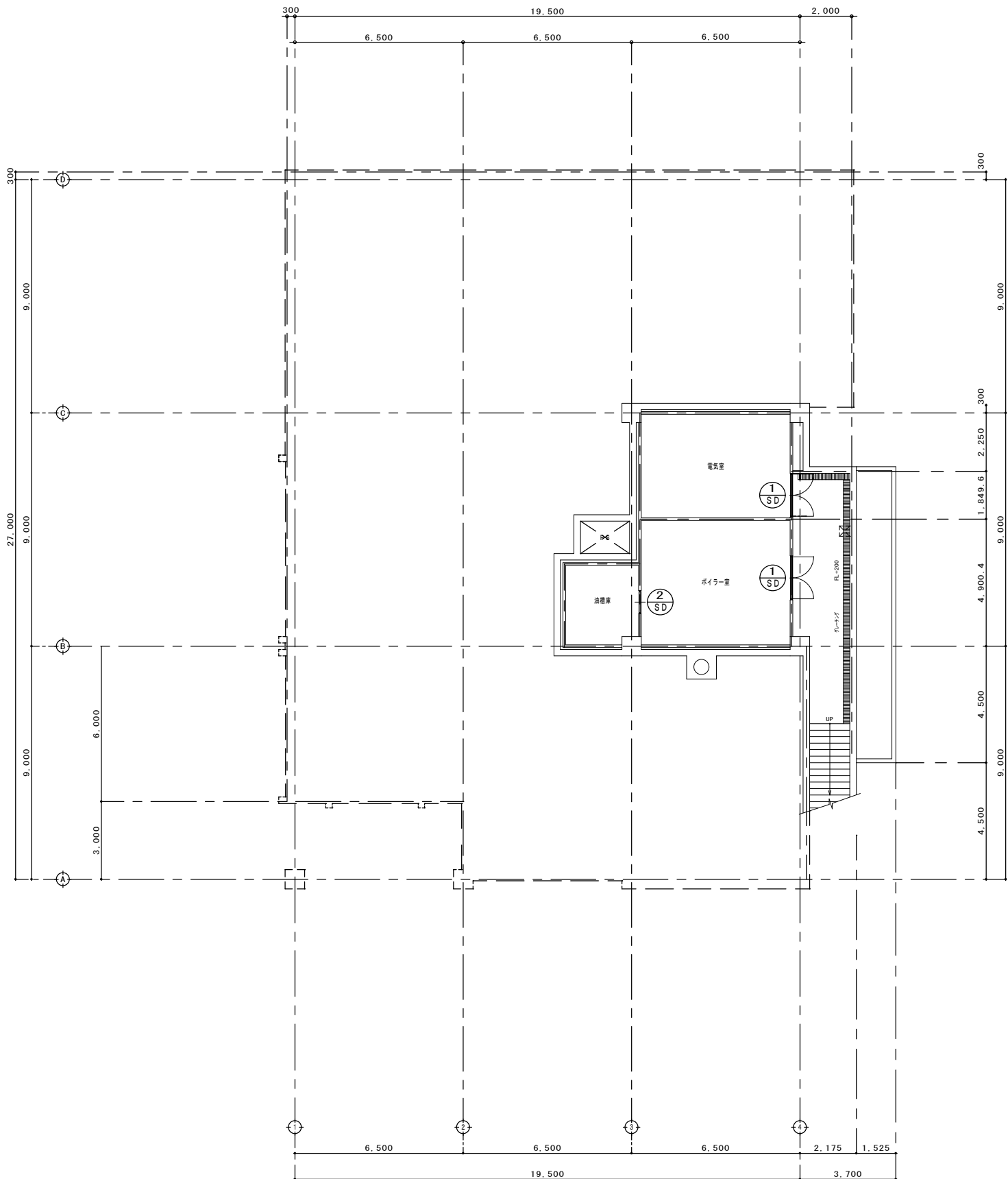
改修 1階キープラン S=1:100(200)



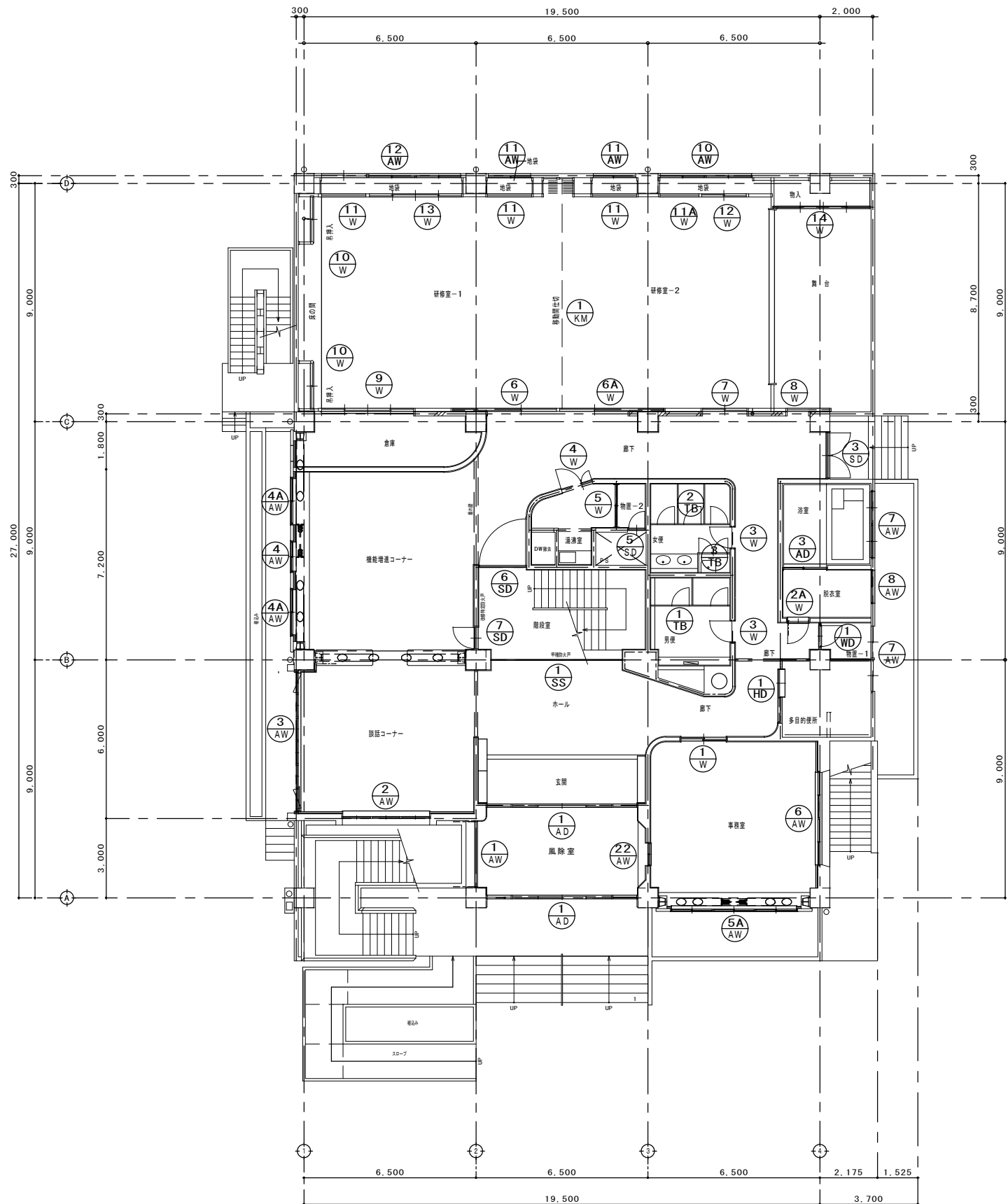
符 号	型 式	使用箇所	数量	材質	仕 上	寸 法		枠		音 槽	硝 子		建 具 金 物																エ ア タイ ト	換 気 ガラ リ	網 戸	備 考	工 事 内 容
						W H	見 込	見 込	見 付		材 質	仕 上	種 類	厚	ド ア チェ ック	オ ート ヒンジ	ヒ ポッ ト ヒンジ	ス プリ ン グ	緩 衝 レ ッグ	錠 錠	本 錠	ハ ンド ル 握 手	引 手	押 板	戸 返 り	フ ランス 返し	錠	クレセント					
① SD	スチールフラッシュ 両開戸	電気室 ボイラー室	2	S	OP	W 1600 H 2000	35	80	25	S	OP	S			○				○	握り手					○	○						防火戸	改修工事 SOP塗替 扉・枠共
② SD	スチールフラッシュ 片開戸	油倉庫入口	1	S	OP	W 800 H 2000	35	80	25	S	OP	S			○				○	握り手												防火戸	改修工事 SOP塗替 扉・枠共
③ SD	スチールフラッシュ 両開戸 ランマ F I X付	1階 非常口	1	S	OP	W 1700 H 2570	35	80	25	S	OP	S			○				○	握り手					○	○						防火戸	改修工事 SOP塗替 扉・枠共
④ SD	スチールフラッシュ 親子ドア	2階 非常口	1	S	OP	W 1200 H 1800	35	80	25	S	OP	S			○				○	握り手					○	○						防火戸	改修工事 SOP塗替 扉・枠共
⑤ SD	スチールフラッシュ 片開戸	パイプシャフト 点検口 (各階)	3	S	OP	W 600 H 1000	35	80	25	S	OP	S					○		○	平蓋						○						防火戸	改修工事 SOP塗替 扉・枠共
⑥ SD	スチールフラッシュ 片開戸	1階 階段室	1	S	SOP	W 1700 H 2570	35	100	25	S	SOP	SUS			○					アース ハンドル												防火戸	撤去新設工事 随時閉鎖式 煙感知器連動
⑦ SD																																	撤 去 工 事
⑧ SD	スチールフラッシュ 片開戸 (くぐり戸付)	2階 階段室	2	S	SOP	W 1500 (800) H 2000 (1800)	35	100	25	S	SOP	SUS			○					アース ハンドル												防火戸	撤去新設工事 随時閉鎖式 煙感知器連動
⑨ SD	スチールフラッシュ 両開戸	3階 階段室	1	S	SOP	W 1600 H 2000	35	100	25	S	SOP	SUS			○					ハンドル					○							防火戸	撤去新設工事 常時閉鎖 順位調整器
⑩ SD	スチールフラッシュ 片開戸 (くぐり戸付)	3階 階段室	1	S	SOP	W 1750 H 2470	35	80	25	S	SOP	SUS				○			○	アース ハンドル												防火戸	撤去新設工事 随時閉鎖式 煙感知器連動
⑪ SD																																	撤 去 工 事
⑫ SD	スチールフラッシュ 片開戸	2階 階段室 廊下	1	S	SOP	W 1665 H 2670	35	100	25	S	SOP				○				○	アース ハンドル												防火戸	撤去新設工事 随時閉鎖式 煙感知器連動
⑬ SD	スチールフラッシュ 片開戸	2階 階段室 廊下	1	S	SOP	W 1665 H 2470	35	100	25	S	SOP				○				○	アース ハンドル												防火戸	撤去新設工事 随時閉鎖式 煙感知器連動
① SS	スチールシャッター	1階 階段室	1	S	O.P	W 5000 H 3000	26	56	70	S	O.P																					防火戸	改 修 工 事 随時閉鎖式 煙感知器連動
② SS	スチールシャッター	2階 階段室	1	S	O.P	W 3560 H 2700	26	56	70	S	O.P																					防火戸	改 修 工 事 随時閉鎖式 煙感知器連動
③ SS	スチールシャッター	1階 階段室	1	S	SOP	W 2500 H 2700	26	56	70	S	SOP																					防火戸	新 設 工 事 随時閉鎖式 煙感知器連動
① SUS	袖F I X付引分自動ドア 欄間一掃煙外側 欄間一F I X	1階 風除室	1	SUS	鏡面	W 5650 H 2880		150	25	SUS		S S	強化 5特5												○						○	ロスカ同等 ロスカ同等 ロスカ同等	撤去新設工事
①A SUS	袖F I X付引分自動ドア 欄間一掃煙外側 欄間一F I X	1階 風除室	1	SUS	鏡面	W 5650 H 2780		150	25	SUS		S S	強化 5特5												○						○	ロスカ同等 ロスカ同等 ロスカ同等	撤去新設工事
① AD	袖F I X付引分戸 欄間一掃煙外側 欄間一F I X	2階 ホール	1	アルミ		W 5710 H 2670		100	25	アルミ			5+A12+5												○								撤去新設工事
③ AD	引違戸	1階 浴 室	1	アルミ複合		W 1600 H 1800		100	25	アル複			K4+A12+5																		○		撤去新設工事
④ AD	欄間一掃煙外側 片開戸	3階 大会議室	3	アルミ アルミ		W 730 H 2570		100	25	アルミ			5+A12+5 6.8+A12+5				○		○	ハンドル						○					下○	防火戸	撤去新設工事
④A AD	欄間一掃煙外側 片開戸	3階 大会議室	1	アルミ アルミ		W 730 H 2570		100	25	アルミ			6.8+A12+5 6.8+A12+5				○		○	ハンドル						○					下○	防火戸	撤去新設工事
⑤ AD	欄間一掃煙外側 両開戸	3階 小会議室	1	スチール スチール		W 1546 H 2470		100	25	アルミ			6.8+A12+5				○		○	ハンドル						○	○					防火戸	撤去新設工事
⑥ AD	引違戸 3連	3階 小会議室	1	アルミ複合		W 5170 H 1800		100	25	アル複			6.8+A12+5																			防火戸	撤去新設工事
① AW	硝子 F I X	1階 風除室	1	アルミ複合		W 2450 H 2730		100	25	アル複			5+A12+5																				撤去新設工事
② AW	硝子 F I X	1階 談話	1	アルミ複合		W 3260 H 2700		100	25	アル複			6.8+A12+5																				撤去新設工事
②A AW	硝子 F I X	2階 児童室2	1	アルミ複合		W 3260 H 2450		100	25	アル複			5+A12+5																				撤去新設工事

1 SD	2 SD	3 SD	4 SD	5 SD	6 SD	7 SD	8 SD
9 SD	10 SD	11 SD	12 SD	13 SD			
1 SS	2 SS	3 SS					
1 SUS	1A SUS	1 AD					
3 AD	4 AD	4A AD	5 AD	6 AD			
1 AW	2 AW	2A AW					

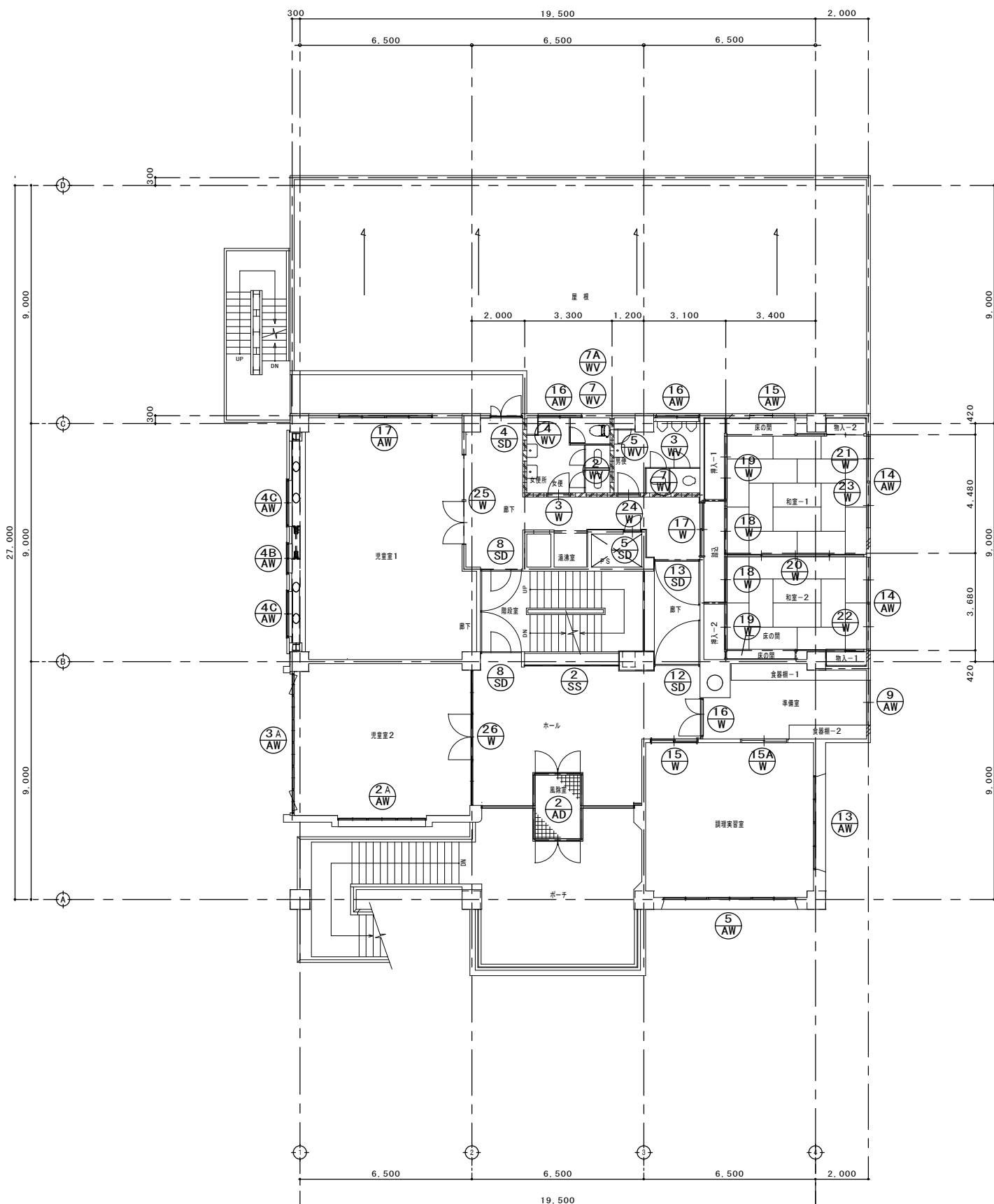
訂正	*		 株式会社 佐藤設計 〒403-0017 山梨県富士吉田市新青原二丁目16番6号 TEL 0555-22-3929 一級建築士事務所 (本) 〒1-0220624 FAX 0555-23-9218 一級建築士登録番号 (大8) 第360788号 構造設計一級建築士証交付番号 第11022号 佐藤 公 泰	設計年月日		工事名称	富士吉田市立明見コミュニティセンター改修工事		図面番号 A — 48
	*			縮 尺	S = 1 : 100 (A1) S = 1 : 200 (A3)	工事区分	建築主体工事		
	*					図面名称	改修建具表3		
	*								



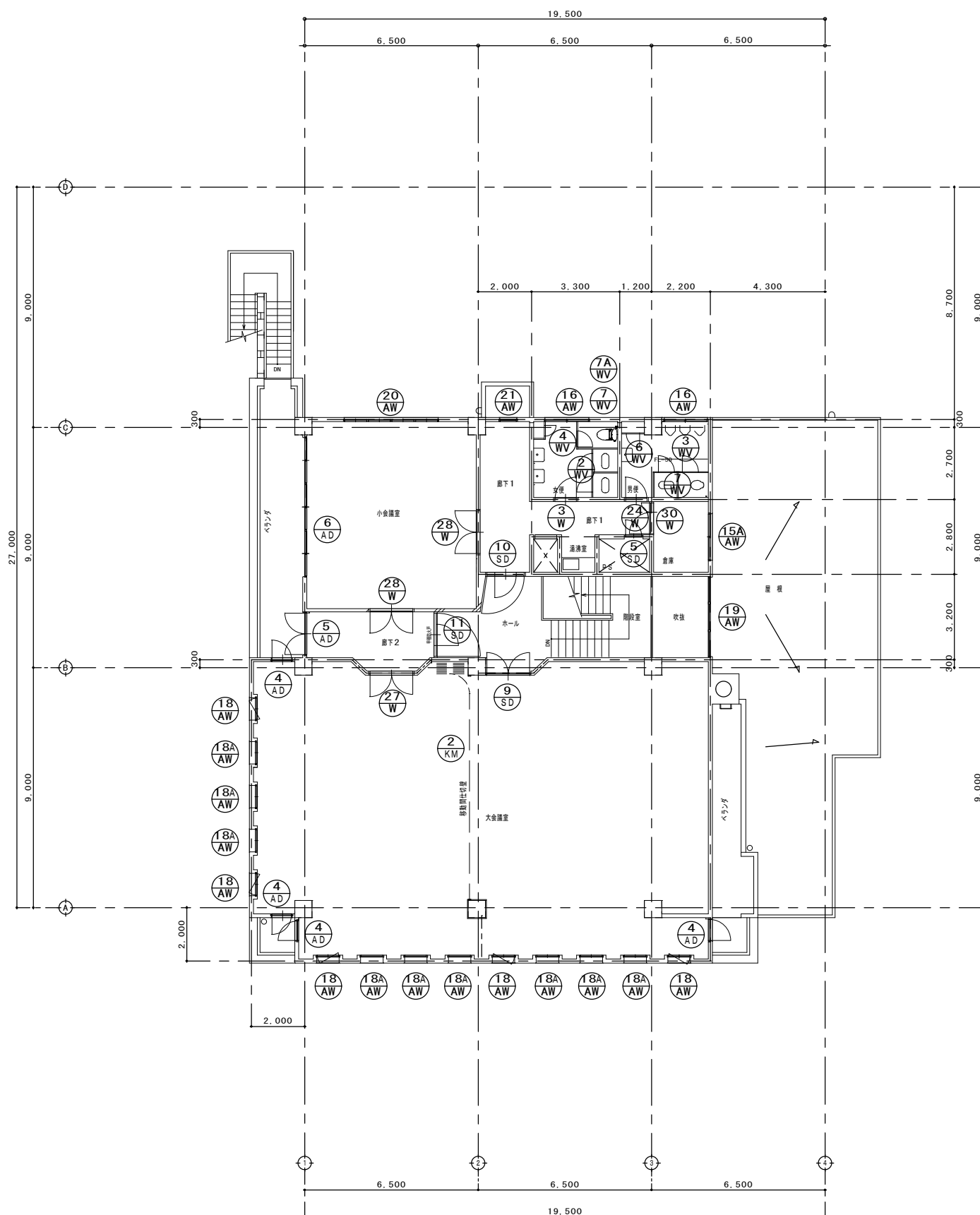
現況 地階キープラン S=1:100(200)



現況 1階キープラン S=1:100(200)



現況 2階キープラン S=1:100(200)



現況 3階キープラン S=1:100(200)

[illegible]

1 SD	2 SD	3 SD	4 SD	5 SD	6 SD	7 SD	8 SD
9 SD	10 SD	11 SD	12 SD	13 SD			
1 SS	2 SS						
1 AD	2 AD	3 AD	4 AD	5 AD	6 AD		
1 AW	2 AW	3 AW	4 AW	4A AW	2A AW		

訂定	○		 〒403-0017 山梨県富士吉田市新西二丁目1番6号 株式会社 佐藤設計 TEL. 0555-22-3929 一般建築士事務所 (支) 第1-032062号 FAX. 0555-23-9218 一般建築士登録番号 (大) 第360788号 構造設計一般建築士証交付番号 第11022号 佐藤 公 泰	設計年月日		工事名称	富士吉田市立明見コミュニティセンター改修工事	図面番号 A-52
	○			施 尺	$S=1:100(A1)$ $S=1:200(A3)$	工事区分	建築主体工事	
	○					図面名称	現況建具表1	

符 号	型 式	使用箇所	数量	材質	仕上	寸 法		枠		建 具 金 物																							
						W H	見込	見込	見付	材質	仕上	寄附	硝子	種類	厚	ド ア チャック	フ ロア ヒンジ	ビ ッグ ヒンジ	ラ バトリ ヒンジ	緩 衝 材	モ ノクロ 幅 板	本 籍	番 号 番 種	引 手	昇 降 板	戸 指り	フ ランス 葉子	鍵	その他	エ ア タイト	換 気 ガラリ	網 戸	備 考
3A AW	硝子 FIX 堅軸回転窓	2階 児童室2	1				W 5350 H 2450		100		AL									S.G	5.0												撤去工事
4B AW	引違い	2階 児童室1	1				W 1100 H 1150		70		AL									PWG	6.8										○		撤去工事
4C AW	引違い	2階 児童室1	2				W 1700 H 1150		70		AL									PWG	6.8										○		撤去工事
5 AW	引違い 3連	1階 事務室 2階 調理実習室	1 1				W 4940 H 1500		70		AL									PWG	6.8										○		撤去工事
5A AW	引違い 3連	1階 事務室 2階 調理実習室	1 1				W 4700 H 1500		70		AL									PWG	6.8										○		撤去工事
6 AW	引違い 2連	1階 事務室	1				W 3470 H 1500		70		AL									PWG	6.8										○		撤去工事
7 AW	引違い 2連 FIX 2連	1階 浴室 1階 多目的	1 1				W 2470 H 1900		70		AL									FWG	6.8												撤去工事
8 AW	ガラリランマ付 引違い	1階 脱衣室	1				W 1200 H 1100		70		AL									FWG	6.8										○		撤去工事
9 AW	引違い	2階 準備室	1				W 1700 H 1200		70		AL									FWG	6.8										○		撤去工事
10 AW	引違い 2連 2段	1階 大広間	1				W 3500 H 2050		70		AL									FWG	6.8										○		撤去工事
11 AW	引違い 段窓	1階 大広間	2				W 1700 H 2050		70		AL									FWG	6.8										○		撤去工事
12 AW	引違い 3連 2段	1階 大広間	1				W 5300 H 2050		70		AL									FWG	6.8										○		撤去工事
13 AW	引違い 2連	2階 調理実習室	1				W 3470 H 1200		70		AL									PWG	6.8										○		撤去工事
14 AW	引違い 2連	2階 和室-1 2階 和室-2	1 1				W 3470 H 1200		70		AL									PWG	6.8										○		撤去工事
15 AW	引違い	2階 和室-1 3階 倉庫	1 1				W 1700 H 600		70		AL									FG	4.0										○		撤去工事
16 AW	引違い	2・3階便所	4				W 1600 H 900		70		AL									FG	4.0										○		撤去工事
17 AW	引違い 2連	2階 児童室1	1				W 3470 H 900		70		AL									PWG	6.8										○		撤去工事
18 AW	堅軸回転窓	3階 大会議室	5				W 800 H 2400		70		AL									SG	5.0												撤去工事
19 AW	硝子 FIX	3階 階段室	1				W 3050 H 施工図にて決定		70		AL									PWG	6.8												撤去工事
20 AW	横軸回転窓	3階 小会議室	1				W 3470 H 800		70		AL									SG	5.0												撤去工事
18A AW	硝子 FIX	3階 大会議室	9				W 800 H 2400		70		AL									SG	5.0												撤去工事
21 AW	仕り出し窓	3階 廊下1	1				W 600 H 600		70		AL									FG	4.0												撤去工事
22 AW	FIX付 引違い	1階 事務室	1				W 800 H 1600		70		AL									SG	3.0												撤去工事
1 W	ランマ付 引違い	1階 事務室	1	メラミン合板 フラッシュ			W 1700 H 2350	40	100	40	ラワン	OSV											○										撤去工事
1 HD	スライディングドア	1階 多目的便所	1	銅板 ペーパコア			W 800 H 1800	40	70	40	S	OSV																					撤去工事
2A W	片開戸	1階 脱衣室	1	メラミン合板 フラッシュ			W 950 H 1900	40	100	40	ラワン	OSV										○											撤去工事
3 W	片開戸	1階 便所 2階 便所 3階 便所	2 1 1	メラミン合板 フラッシュ			W 800 H 1800	40	100	40	ラワン	OSV												○	○								撤去工事

訂正	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
----	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

符 号	型 式	使用箇所	数量	材質	仕 上	寸 法		枠			備 考	建 具 金 物																工 事 種 別						
						W H	見込	見込	見付	材質		仕 上	音 響	種 類	厚	ド ア チェッ	フロア ヒンジ	ドボット ヒンジ	ラバトリ ヒンジ	緩 衝	スリット ヒンジ	新 装	本 籍	覆り 金物	引 手	押 板	戸 隠り		フランス 金シ	鍵	その他	エア タイト	換気 ガラリ	網 戸
4 W	親子ドア	1階 通湯室	1	メラミン フラッシュ	合板	W 1200 H 1800	40	100	40	ラワン	OSV																						撤去工事	
5 W	引違戸	1階 物置	1	シナ合	V.P	W 1600 H 1800	40	100	40	ラワン	OSV																				2本レール		撤去工事	
6 W	引込戸	研修室-1	1	フラッシュ	クロス ビニール クロス	W 2605 H 2100	40	120	45	白木																							撤去工事	
6A W	引込戸	研修室-2	1	フラッシュ	クロス ビニール クロス	W 2580 H 2100	40	120	45	白木																							撤去工事	
7 W	引違戸	研修室-2	1	フラッシュ	クロス ビニール クロス	W 1680 H 2100	40	120	45	白木																							撤去工事	
8 W	片引戸	1階 舞台	1	フラッシュ	ビニール クロス	W 800 H 1800	40	100	40	白木																							撤去工事	
9 W	4枚 引違戸	1階 研修室-1	1	シナ合 フラッシュ	クロス V.P	W 3480 H 2100	40	120	45	白木																							撤去工事	
10 W	引違戸	1階 吊押入庫	2	シナ合 フラッシュ	クロス	W 1680 H 1500	40	100	40	白木																							撤去工事	
11 W	ガラリ	1階 地袋	3	杉		W 1680 H 525	40	100	40	白木																							撤去工事	
11A W	ガラリ	1階 地袋	1	杉		W 1480 H 525	40	100	40	白木																							撤去工事	
12 W	引違戸	1階 地袋	1	フラッシュ シナ合	クロス	W 1680 H 525	40	100	40	白木																							撤去工事	
12A W	4枚 引違戸	1階 地袋	1	フラッシュ シナ合	クロス	W 3480 H 525	40	100	40	白木																							撤去工事	
12B W	引違戸	1階 舞台	1	フラッシュ シナ合	ビニール クロス	W 3495 H 1800	40	100	40	白木																							撤去工事	
15 W	ランマ付 F I X 引違戸	2階 調理実習室	1	メラミン フラッシュ		W 1700 H 2325	40	100	40	ラワン	OSV	FG	4.0																		2本レール		撤去工事	
16A W	ランマ付 F I X 引違戸	2階 調理実習室	1	メラミン フラッシュ		W 1700 H 2325	40	100	40	ラワン	OSV	FG	4.0																				2本レール	撤去工事
16B W	ランマ付 F I X 親子ドア	2階 準備室	1	メラミン フラッシュ		W 1450 H 2325	40	100	40	ラワン	OSV	FG	4.0	○						○	○												撤去工事	
17 W	引違戸	2階 踏込	1	フラッシュ ビニール クロス		W 2000 H 1800	40	100	40	白木																						2本レール	撤去工事	
18 W	引違戸	2階 和室-1 2階 和室-2	1 1	フラッシュ シナ合	クロス	W 1700 H 1800	40	100	40	白木																							撤去工事	
19 W	3枚 引違戸 引違戸	2階 和室-1 2階 和室-2	1 1	フラッシュ シナ合	クロス	和室-1 W 2385 和室-2 W 1695 H 1800	40	100	40	白木																							撤去工事	
20 W	4枚 引違戸	2階 和室-1	1	フラッシュ クロス		W 5175 H 1800	40	100	40	白木																							撤去工事	
21 W	引違戸	2階 和室-1	1	フラッシュ シナ合	クロス	W 1400 H 900	40	100	40	白木																							撤去工事	
22 W	引違戸	2階 和室-2	1	フラッシュ シナ合	クロス	W 1400 H 1500	40	100	40	白木																							撤去工事	
23 W	ガラリ	2階 和室-1	1	杉		W 1400 H 825	40	100	40	白木																							撤去工事	
24 W	片開戸	2階 男便 3階 男便	1 1	ラワン フラッシュ		W 800 H 1800	40	100	40	ラワン	OSV				○					○	○												撤去工事	
25 W	袖 ランマF I X付 両開戸	2階 児童室1	1	メラミン フラッシュ		W 1600 1600 H 2500 2050	40	100	40	ラワン	OSV	FG PWG	4.0 6.8	○						○	○												撤去工事	
26 W	両袖F I XランマF I X付 両開戸	2階 児童室2	1	メラミン フラッシュ		W 1600 1598 H 2550 2100	40	100	40	ラワン	OSV	FG PWG	4.0 6.8	○						○	○												撤去工事	
27 W	両開戸	3階 大会議室	1	メラミン フラッシュ		W 1600 H 1800	40	100	40	ラワン	OSV				○					○	○												撤去工事	

[illegible]

エレベーター仕様			
基本仕様	号 機 名	NO. 1	
	機 式	機械室-less標準型エレベーター	
	用 途	乗用兼車いす用	
	定格積載質量/定員	750kg/11人 乗	
	定 格 速 度	45m/min	
	運 転 方 式	乗合全自動方式（基準階降乗方式）	
	制 御 方 式	インバータ制御方式（マイコン制御）	
	停 止 階	3箇所（1～3 階）	
	か こ 寸 法	間口1400mm 奥行1350mm 天井高さ2250mm	
	出入口寸法	幅800mm 高さ2100mm	
	戸 型 式	2枚戸中央開き	
	電 動 機	AC 3.5kW	
	動力用電源	AC 3φ 200V 50Hz	
照明用電源	AC 1φ 100V 50Hz		
連絡装置	同時通話式インターホン		
設置場所			
管制運転	監 視 装 置	リモートメンテナンスインターフェース付 （リモートメンテナンスを提供するためには、別途保守契約をしていただく必要があります）	
	管制運転	地 震	有り（P波およびS波感知）（リスタート機能付）
		火 災	有り（火報と連動した接点による自動式）
		停 電	有り
		自家発	無し
乗場仕様	三 方 枠	1～3階 大枠 ステンレスヘアライン仕上	
	乗 場 戸	1～3階 鋼板塗装仕上（5分ツヤ）	
	乗 場 板	1～3階 無し	
	敷 居	1～3階 硬質アルミ	
	ホールランタナ	1～3階 無し	
	インジケーター	1～3階 縦型デジタル表示 カパー・樹脂成型品（黒）	
かこ仕様	ホールボタン	1～3階 抗菌白文字ボタン（φ45）（S I A A 認証） インジケーターに絶込	
	天 井	スタンダード（メーカー標準）（天井照明白色：白色）	
	前 側 板	化粧鋼板	
	側 板	化粧鋼板	
	戸	化粧鋼板	
	出入口上部	化粧鋼板	
	床	樹脂タイル（2T）	
	幅 木	化粧鋼板	
	敷 居	硬質アルミ	
	操 作 盤	ボタン 抗菌白文字ボタン（φ33）（S I A A 認証） カパー 樹脂成型品	
	インジケーター	カラー液晶表示（背景色：白）操作盤に絶込	
	車いす用 操作盤	ボタン 抗菌白文字ボタン（φ33）（S I A A 認証） カパー 樹脂成型品	
	気くばり 操作盤	ボタン 無し カパー 無し	
	鏡	ステンレス製	
	ハンドレール	角形ハンドレール：アルミアルマイト仕上	
	監 視 盤	無し	
	耐震クラス	A1.4	

	N.1
	昇降機技術基準の解説 2016年版対応
	オーバーヘッド式法廷箱
	音声案内装置（福祉のまちづくり条例対応）付
	遠征性能付乗場戸（大臣認定品）（火災、停電付）（1～3階）
	点字注意銘板付（横型）
	車いす仕様付
	視覚障がい者仕様付（全ての操作盤と乗場ボタンに点字銘板付）
	運転休止スイッチ（1階に取付）
	フェッシュプレート付
	メンテナンスサービス提供用カメラ付
	車いす呼び戸開き時間延長
	一般呼び戸開き時間延長
	発音式ボタン（かこ）
特 記 仕 様	非常放送用スピーカ付（かこ天井上）
	かこ内荷摺り（ステンレスヘアライン仕上、床からH=300mm）
	高調波抑制リアクトル付
	警報ブザーをかこ上に取付
	出発階復帰運転
	非常ボタン連動 無電圧接点支給
	煙感感知点検扉用ドアスイッチ付
	公共建築工事標準仕様書（R4）適用
	4mレール使用
	多光軸ドアセンサー
	乗り場側利用者検知機能付
	空気清浄機能付（イオン発生機能同等品）
	満員通過機能付
	制御盤扉スイッチ付
	ビット冠水時退避運転（基本仕様）
	完成図書
	-W-

工事区分								
号機名	NO. 1				建築	電気	空調	ELV
	項目	工事名						
昇降路	1	昇降路の築造と傾造修正工事 1) 壁または壁は隙間なきものとする 2) 昇降路の壁は曲い及び出入口の戸は、任意の5cm ² の面にこれと直角な方向の300Nの力が昇降路外から作用した場合において15mmを超える変形や塑性変形が発生しないこと 3) コンクリート厚さは150mm以上とする 4) コンクリート基準圧縮強度 24N/mm ² 以上とする			○			
	2	昇降路内鉄骨構造筋の構造耐火処理工事および修繕工事			○			
	3	各階出入口および壁の穴け工事 (出入口、ホールボタン、インジケータ、ホールモニターなど)			○			
	4	エレベーター据付後の出入口壁 および床その他建築上及び修繕工事			○			
	5	三方枠、インジケータなどと壁間の防火区画処理						
	6	三方枠、インジケータなどと壁間のすきま塞ぎ工事 (ふきざ板またはラスタ)						○
	7	ピット内防水仕上工事 (ピット仕上面の水平度は1/200以下)			○			
	8	並設されたエレベーターの最下階が異なる場合の ピット間仕切り工事 (H=1800以上)			○			
	9	オーバーヘッド・ピット法が図面と異なる場合は はつづ・埋め戻し工事						
	10	ピット点検用タラップまたは梯子の設置工事						○
	11	ピット点検用コンセント設置工事 (1ヶ台)				○		
	12	インターホンならびにその他の機器 (放送 (一般・非常) 自家発用電源識別接点、火災時制御用接点、防犯カメラ等) 用 配管、配線工事 (配線サイズ、本数は電気設備規程による)				○		
	13	昇降路最上階の受電制御盤への動力電源、照明用電源および アース線の引き込みならびにつなぎ込み工事 (配線サイズ、本数は電気設備規程による)						
	14	監視盤がある場合の監視盤用配管配線工事 (監視盤設置場所より昇降路最上階の制御盤位置まで引き込み)						
	15	昇降路頂部の煙感知器の設置工事 (昇降路外部から検出可能な構造) (点検扉は、厚さ1.5mm以上の鉄板製)						
	16	昇降路頂部の煙感知器点検扉ELV運動停止スイッチ取付 リモートメンテナンス用として電話手盛機から						○
	17	昇降路最上階までの配管 (最小径25mm)、配線工事 (配線サイズ、本数は電気設備規程による)				○		
	18	昇降路出入口側壁 (鉄筋下および出入口上部) とかか前端が 125mm以上覆われる場合のフェッシャプレート取付用下地設置工事					○	
	19	昇降路出入口側内壁 (鉄筋下および出入口上部) とかか前端 が125mm以上覆われる場合のフェッシャプレート設置工事						○
	20	昇降路内配管工事に伴う区画貫通部の耐火処理工事				○		
21	昇降路頂部への吊りビーム設置工事				○			
22	昇降路内の中間ビーム、ファスナープレート、立柱設置工事							
23	レール・三方枠・敷居・ホールボタン・インジケータなどの 固定用鋼材設置工事および塗装修正工事							
24	不停止階の昇降路救出口扉の設置工事 (施行令129条の7(1)による)				○			
25	かごドレン式クーラー設置時のピット排水管工事							
26	昇降路内温度が40℃超過の場合の防炎設置工事							
27	昇降路内温度が40℃超過の場合の換気扇設置工事					○		
28	昇降路内温度が5℃未満40℃超過の場合の空調設備設置工事						○	
その他	1	エレベーター部品搬入経路の確保 (必要に応じてコンクリートの穴あけおよび埋め戻し工事)				○		
	2	エレベーター重量部品搬入の際の仮据置重機の貸与				○		
	3	エレベーター据付工事員現場詰所および材料置場の確保						
	4	エレベーター据付工事で電力の供給 (動力用および照明用電源)				○		
	5	エレベーター運転調整用電力の供給 (動力線および照明用電源線はエレベーター着工前までに 本設電源配管経路で引き込み)						
	6	医療機器、放送用機器、コンピュータ機器などの 電源とエレベーター動力用電源およびアース線の系統分離工事					○	
	7	昇降路と居室が隣接する場合の居室側防音および防振工事						
	8	昇降路内建築工事仮床 (水養生) 用の 金網、デッキプレートなどの撤去工事						
	9	エレベーター着工前の各階入り口開口部の蓋材支給および施工 出入口が直接外気と接する乗場における雨水よけ工事 (庇、水切り等)						
	10	昇降路内仮設足場の設置および解体工事						
	11	エレベーター承認図と躯体が異なる場合の手直し						
	12	昇降路がガラスの場合の養生養生および塗装工事						
	13	ALC継目の補修、コンクリート型枠取用後セパボルト (Pコン) の撤去						
	14	非常用エレベーター全階乗場への避難経路確保設置工事						
15	非常用エレベーター乗場水勾配、排水溝、グレーチング施工							
16	監視盤用電源の監視盤までの引き込み工事					○		

電気設備		
号機名	NO. 1	
動力用電源	AC 3φ 200V 50Hz 14mm ² ×1回路 (V) /台	
	線サイズ (mm ²)	8 14 22
	最大引込距離 (m)	74 128 196
	MCB容量	40A/台
	トランス容量	4kVA/台
	起動KVA	14kVA/台
照明用電源	AC 1φ 100V 50Hz 5.5mm ² ×1回路/台	
アース線	3.5mm ² (D種) /台	
インターホン用配管配線	FOPEVO. 9-5P/台 (200mまで)	
リモートメンテナンス用配管配線 (電話線)	CPEVO. 9-1P, 配管サイズφ25/台 (MDF→昇降路間)	
ビット点検用コンセント	AC100V 1.5kVA以上 ×1個/台 (最下階FL+200の出入口付近に設置)	
インターホン連動用の無電圧 a 接点支給 及び配管配線	印加電圧DC48V 接点容量0.1A以下	
火災報知信号無電圧 a 接点支給及び配管配線	印加電圧DC24V 接点容量1A以上/台	
非常放送用スピーカ用配管配線	HP1. 2-2C/台	
注意事項	上記の配管配線はエレベーター制御室から各設備ならびに機器の設置場所まで引込み 上記の配管配線はエレベーターの着工前までに本配設備で行い込み	

勞基法適用(本設用): 有(設置屆・設置報告)・☒無

標準型エレベーターの荷役制限について	
・ 軽台車などで荷物を運搬する場合には、250kg以下/回。	

遮煙性能付乗場戸設置上の条件

- ・遮煙性能付乗場戸を設置するためには、自動火災報知器設置が必要です。
設置義務の無い建物であっても、必ず設けてください。
- ・自動火災報知設備の設置義務の無い建物の場合には、遮煙性能付乗場戸設置階のエレベーターホールに必ず煙感知知などの火災感知装置とし、
火災感知信号を自動火災報警装置を介してエレベーター制御室に供給してください。

特定防火設備：防犯窓ガラス設置不可（防犯あみ入りガラス窓付きの場合は防火設備となります）

下記事項については別途見積となります。

- 1 新工区区分表の「EVL」区分以外、或いは【注意事項】の内、作業が「EVL」となる場合
- 2 施工作業条件：月曜日～金曜日 8：00～17：00 以外でご用命の場合
- 3 2階以上の階若しくは地下階への搬入作業の場合
- 4 荷下り場所から設置・仮置き場所までの距離が30mを超える場合
- 5 横引き通路に段差・階段・障害物がある場合
- 6 搬入に際し、警備員・誘導員および道路使用許可を要する場合
- 7 床・壁等に養生を必要とする場合
- 8 エレベーター搭付作業以外で立会が発生する場合
(各種完成検査(官庁・消防・竣工・設計・建築) および取扱説明は除く)
- 9 搭付工事短縮を必要とする場合
- 10 エレベーターを工事用として使用する場合は検査費用、清掃費用、復旧費用、補修費用、保守費用
エレベーターを工事用として使用する場合は出入口・かご内養生材、養生材設置及び撤去工事と使用時の運用連絡手費用
- 11 最終確認までご頂いた着工日よりお客様事情により1週間を超えた8日以内に除き
実業工日が延伸した場合の製品保証費用
- 12 ファスタープレートに耐火被覆が付けられている場合に除去、ケレン掛けをする場合
- 13 乗場取居部のコンクリート趾鉄板を撤去する場合
- 14 その他特殊な事情がある場合

煙感知器施工例

ロックネジ
ELV連動
スイッチ
点検ボックス
(点検厚
1.5mm厚以上
の鉄板製)
天井改め口
取付板
煙感知器
600mm以内
昇降路
施工例

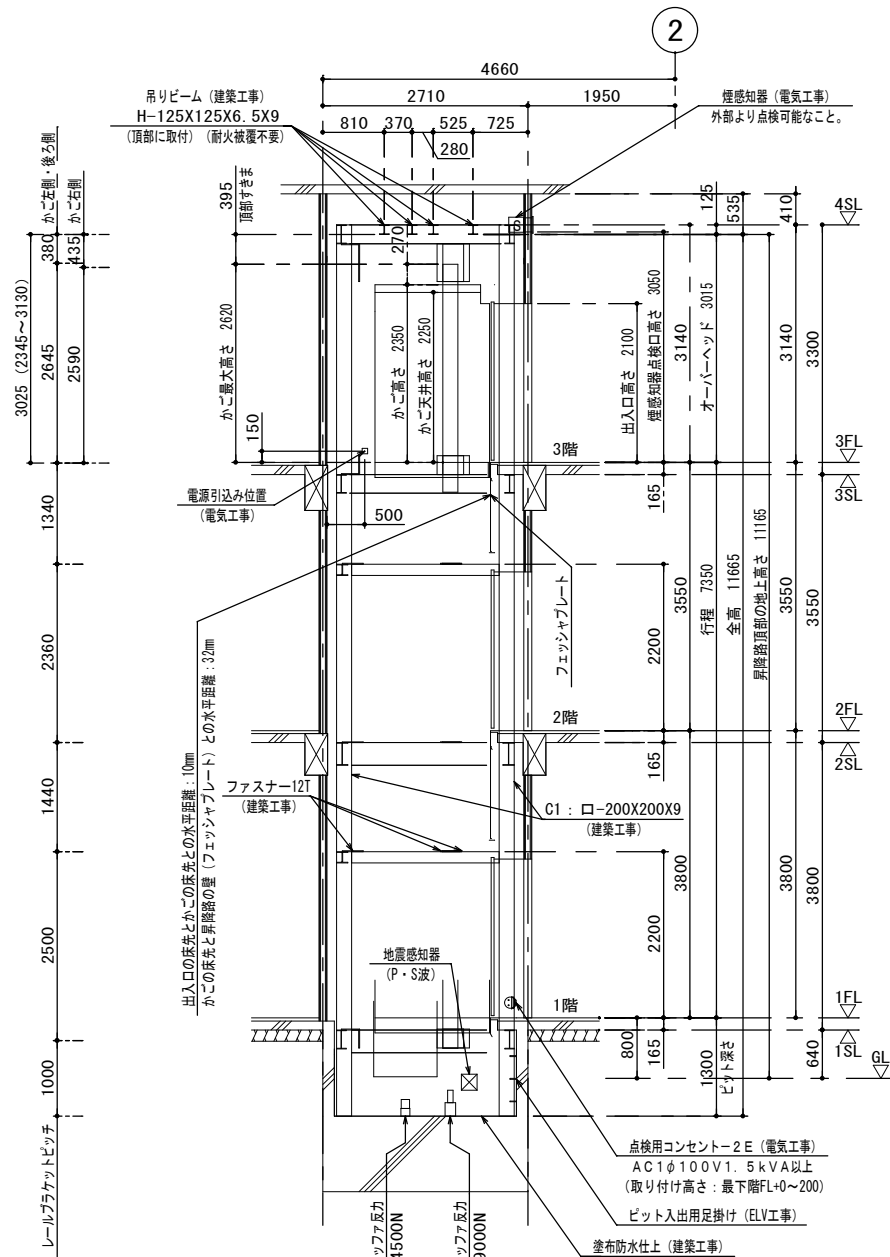
点検ボックスは下記エレベーター昇降路専用品としてください。

- ・ホーチキ (KUS-C)
- ・能楽防災 (FXS J001A-HU)
- ・ニッコン (NUD-T-0)
- ・パナソニック (BV95351・BV95381H)

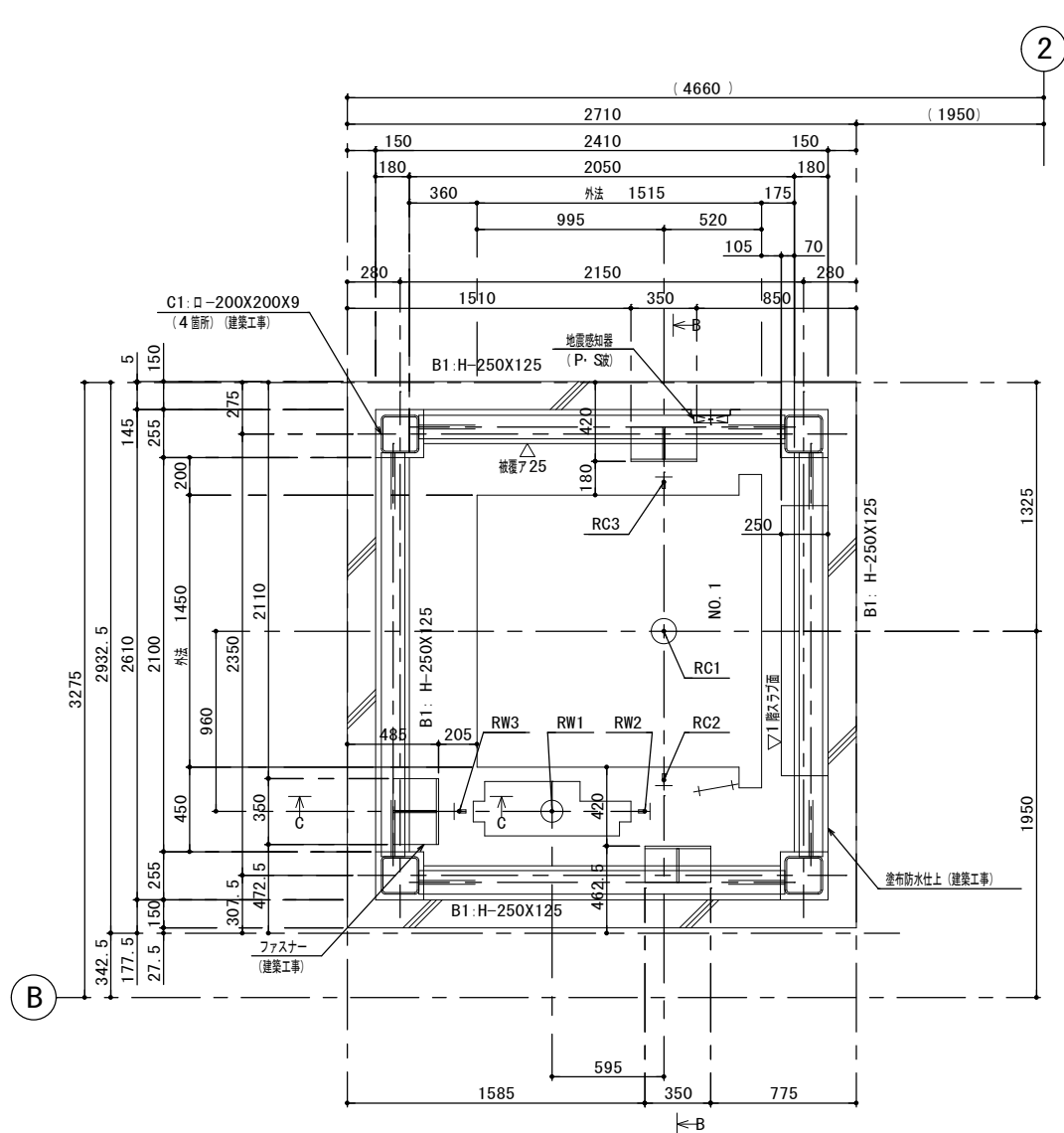
(点検厚を測いた場合はエレベーターは停止します。)

・煙感知器取付高さがかご天井高さ+1800mmを超える場合は当社技術員にご相談ください。

・エレベーター出入口側に煙感知器を設置する場合はかご出入口機と干渉する恐れがあるので事前にご相談ください。



N0.1 升降路断面図 S=1:50 (100)

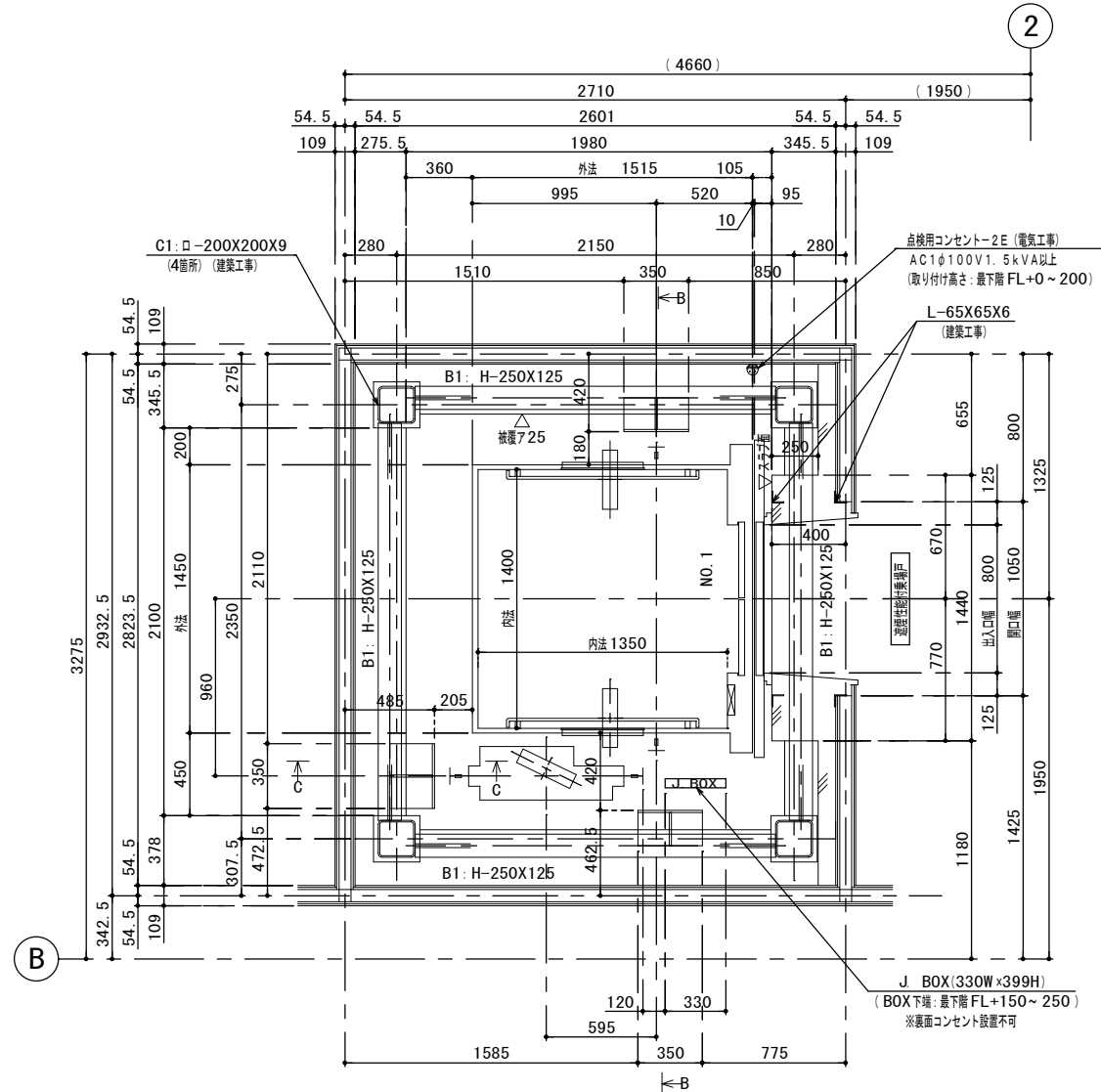


ピット平面図 S=1:20 (40)

ファスナー 12T (建築工事)
ピット反力値 (N)

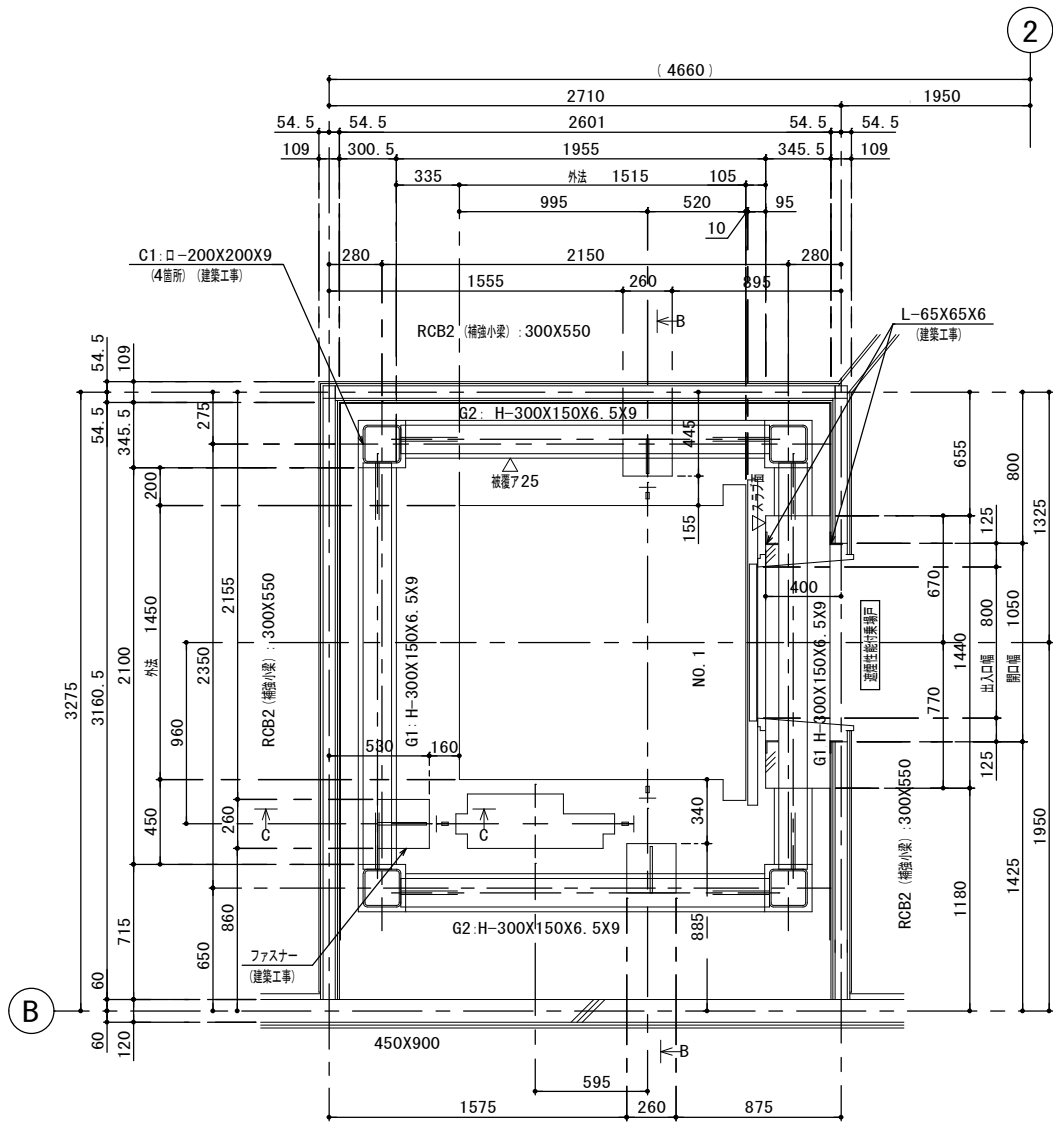
号機名	短期荷重		長期荷重			
	RC1	RW1	RC2	RC3	RW2	RW3
NO. 1	89000	74500	6000	26000	40000	29000

コンクリート厚さは 150mm 以上とする
コンクリート基準圧縮強度 21N/mm² 以上とする



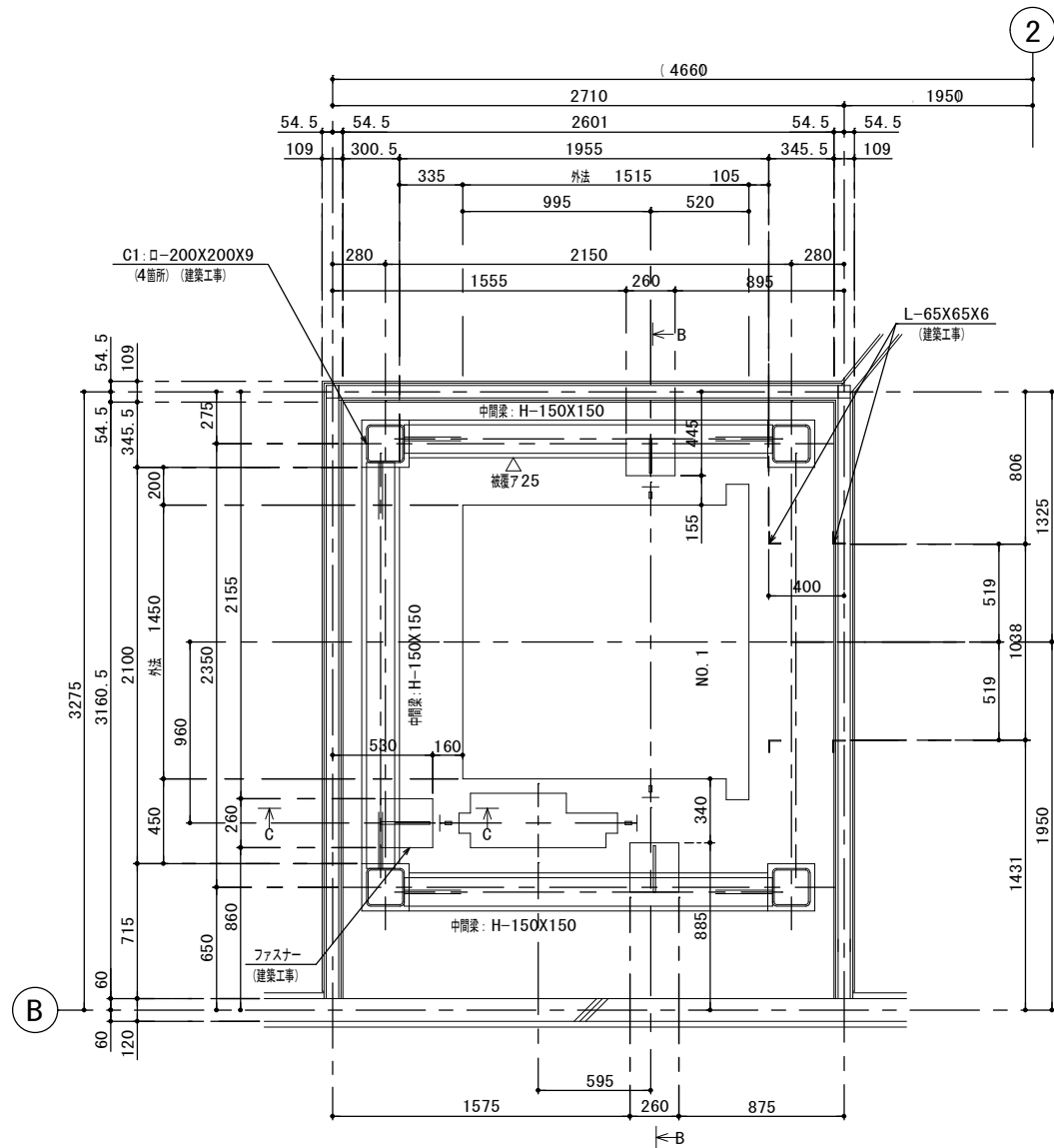
1階 昇降路平面図 S=1:20 (40)

ファスナー 12T (建築工事)



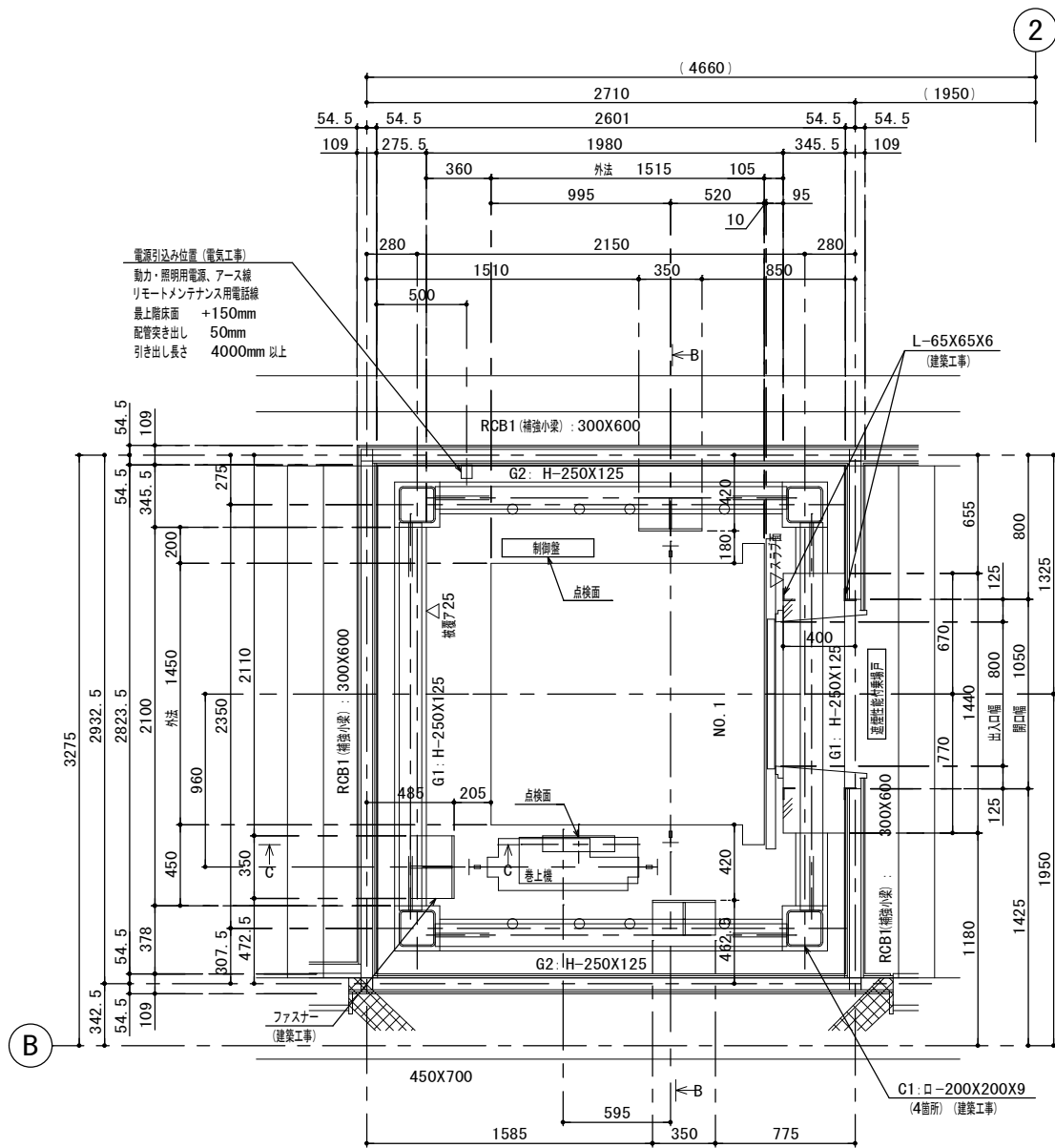
2階 昇降路平面図 S=1:20 (40)

ファスナー 12T (建築工事)

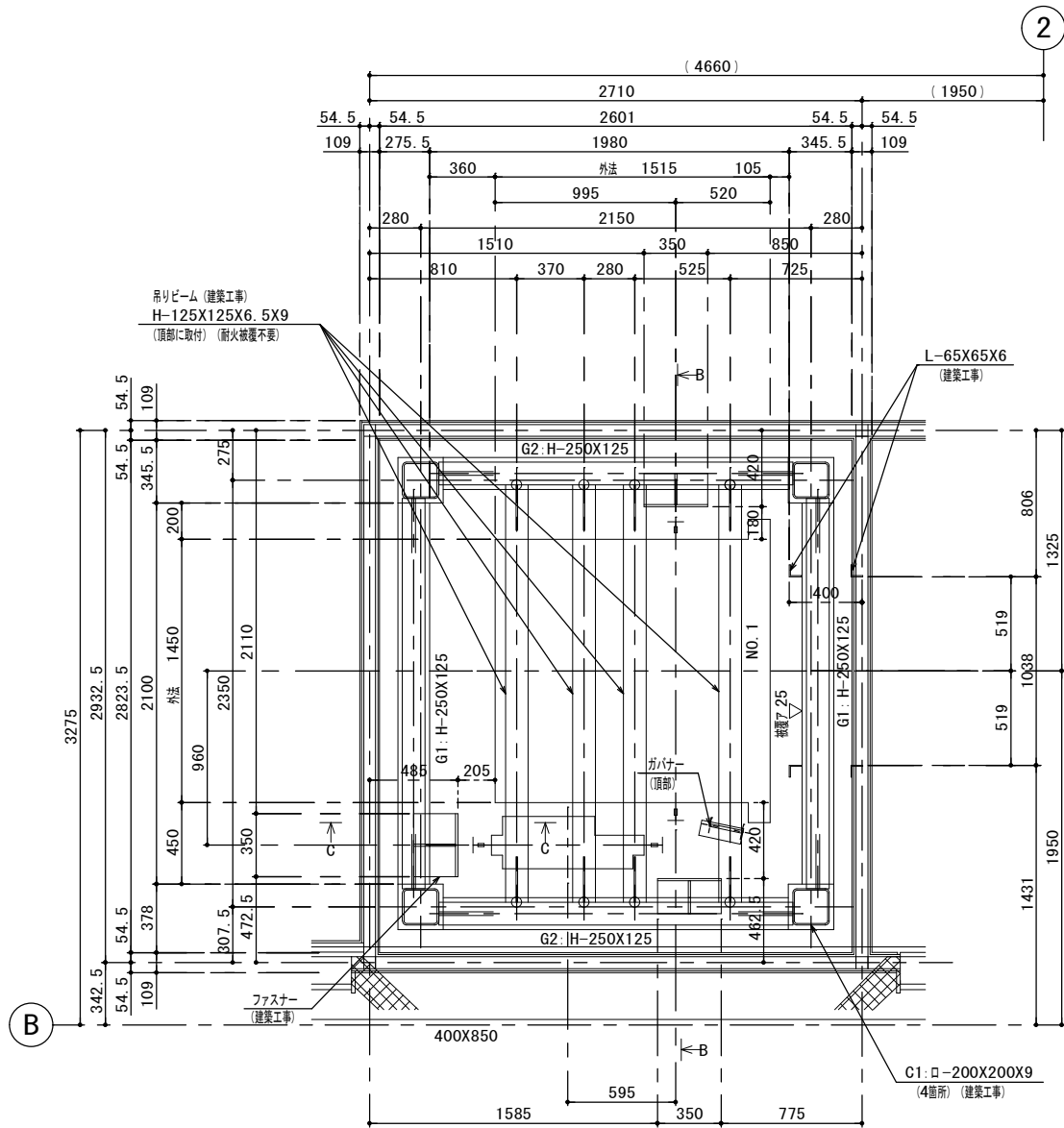


中間梁部 昇降路平面図 S=1:20 (40)

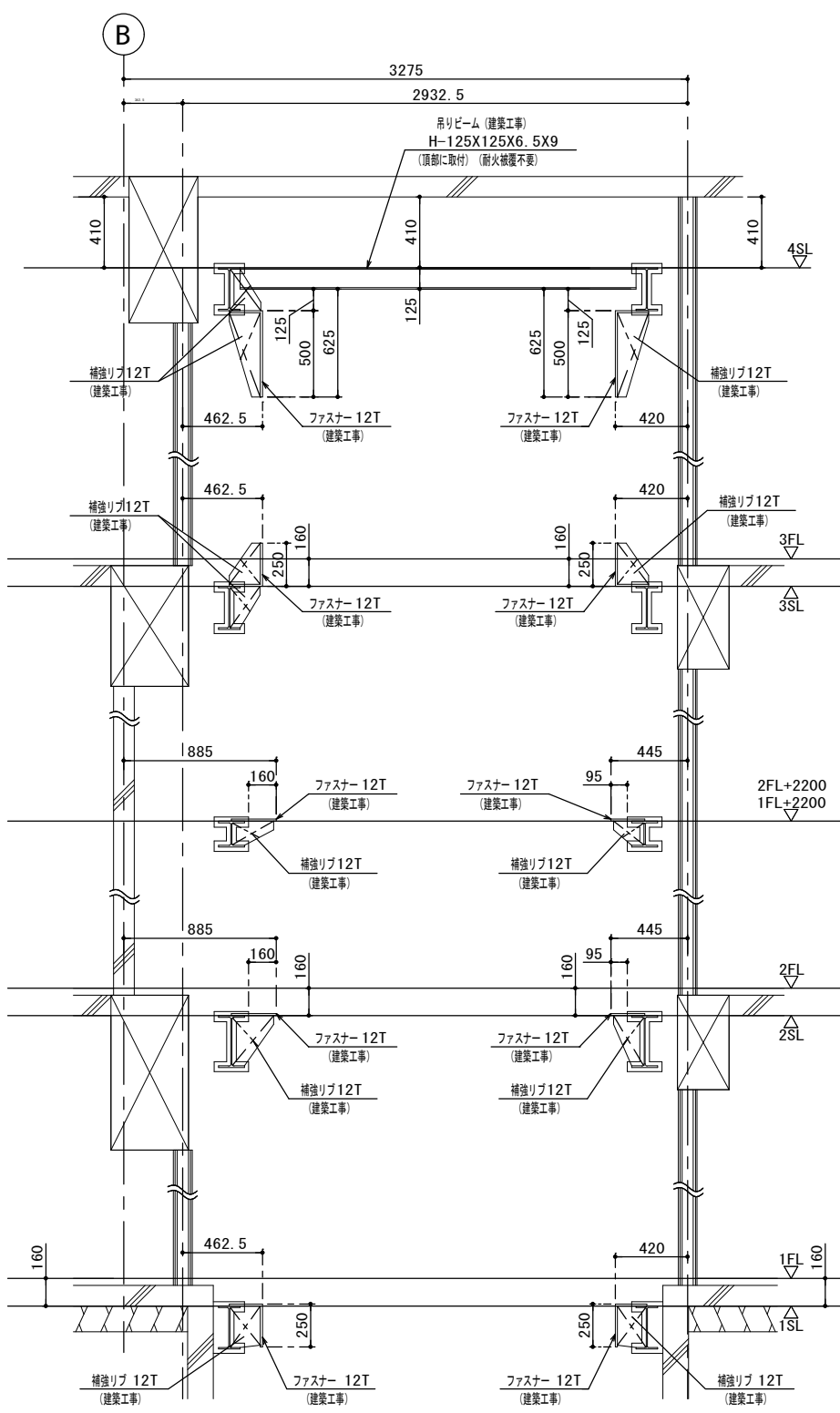
ファスナー 12T (建築工事)



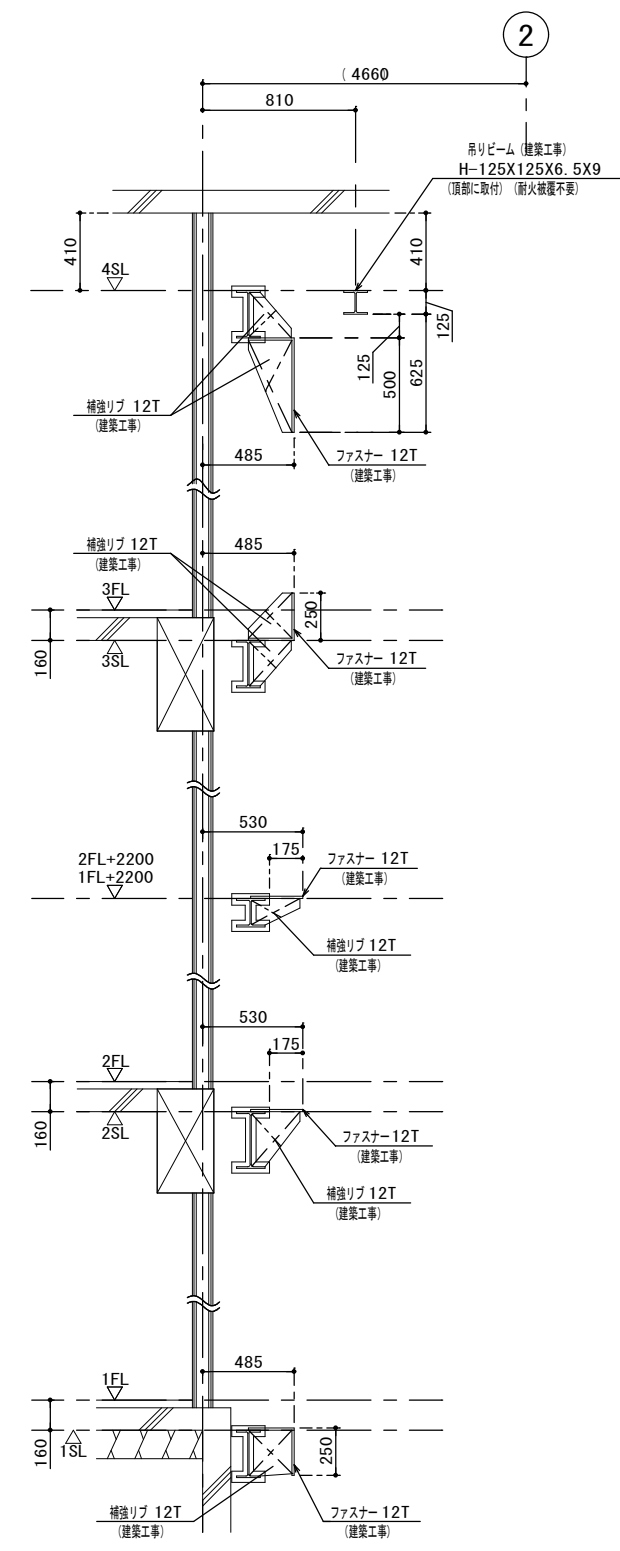
3階 昇降路平面図 S=1:20 (40)
ファスナー 12T (建築工事)



頂部 昇降路平面図 S=1:20 (40)
ファスナー 12T (建築工事)



断面 S=1:20 (40)



断面 S=1:20 (40)

耐震クラス：A14

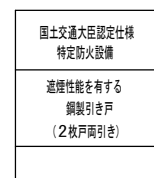
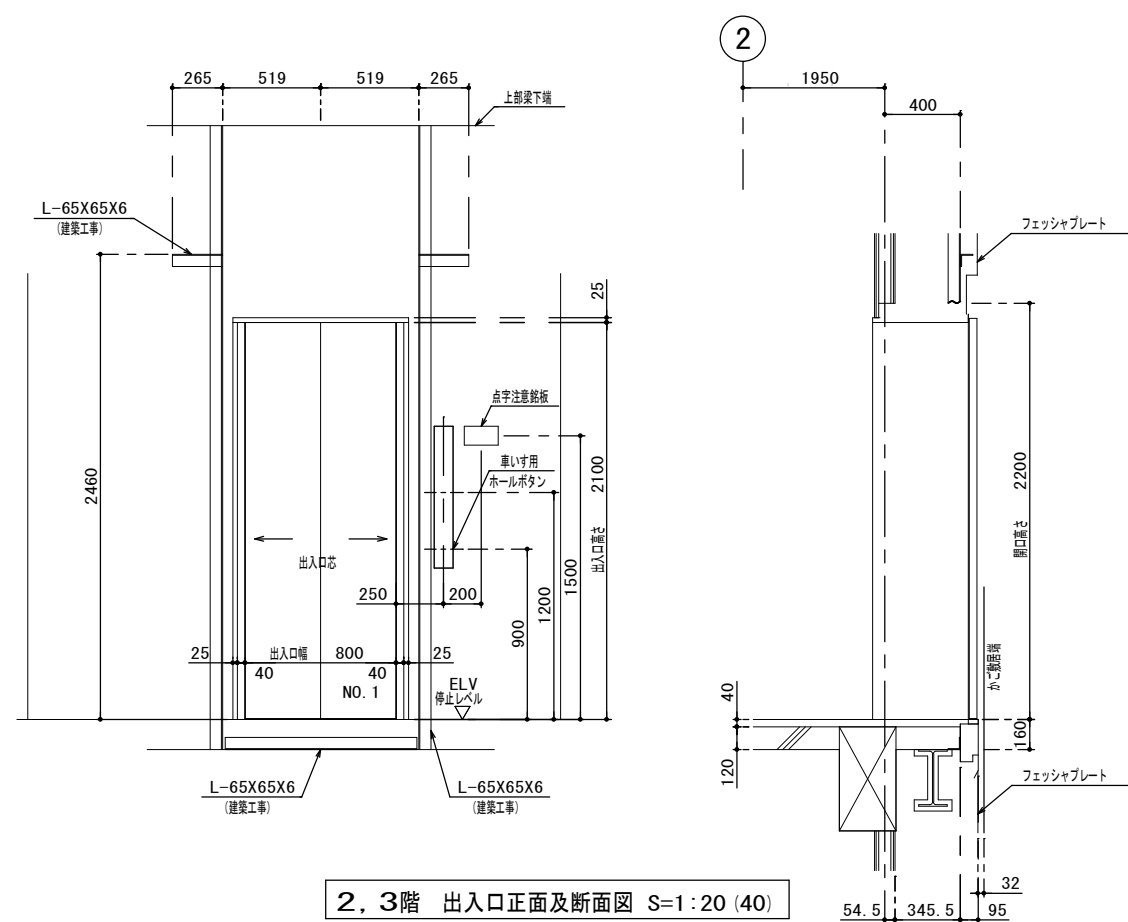
PX

PY

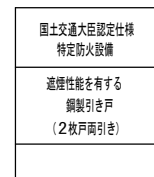
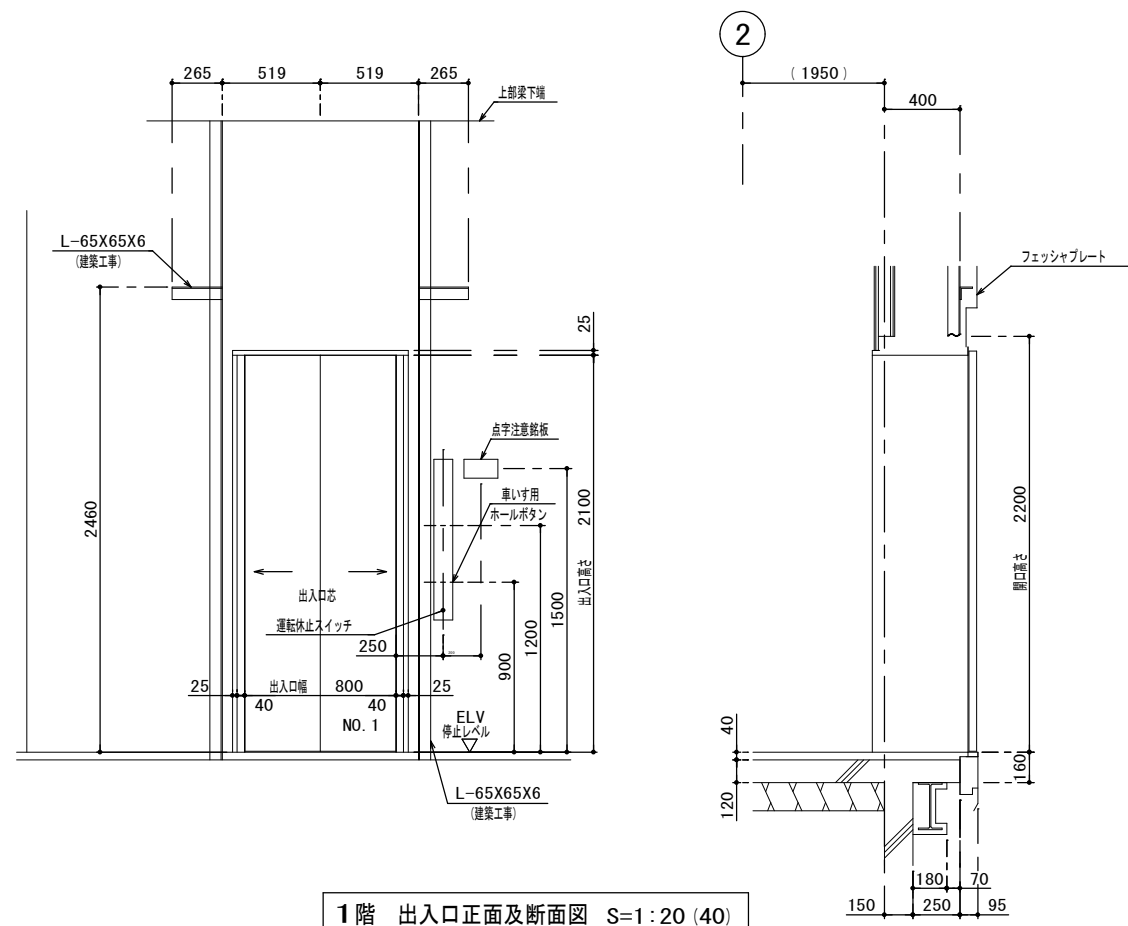
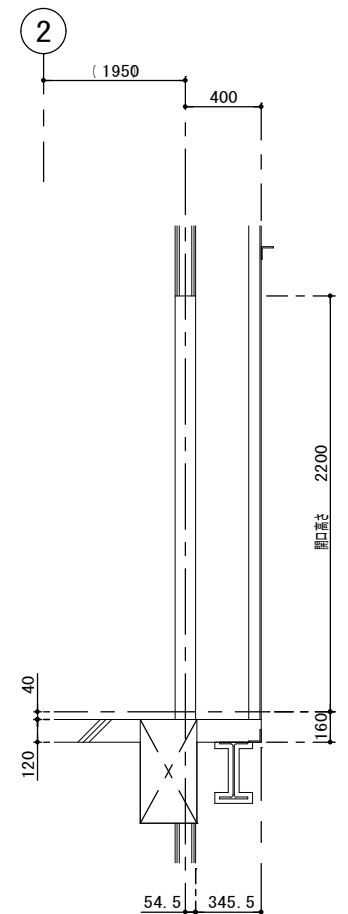
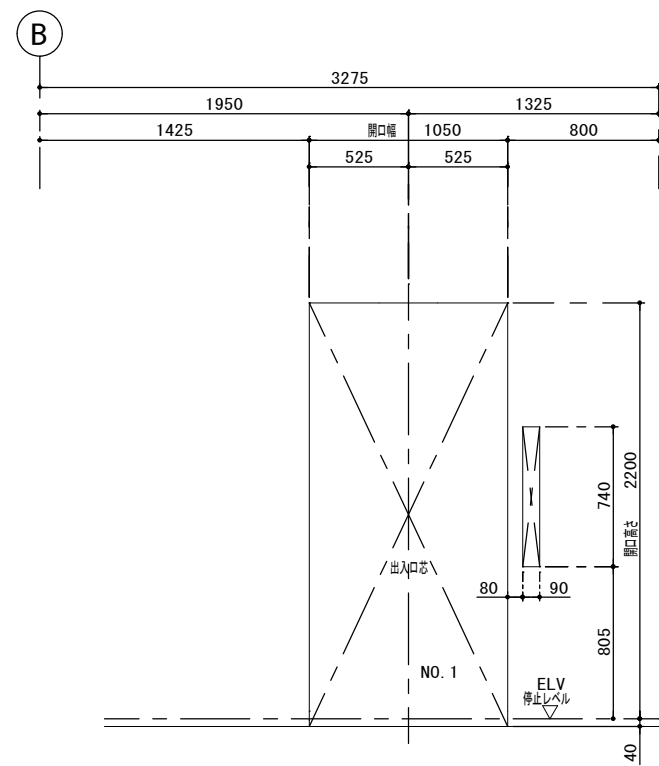
ガイドレール 部分荷重 (N)	かご側		ウェード側	
	PX	PY	PX	PY
NO. 1	4800	2900	7550	3800

注) 上記荷重により柱及びりのたわみは
5mm以下になるよう部材を設計下さい

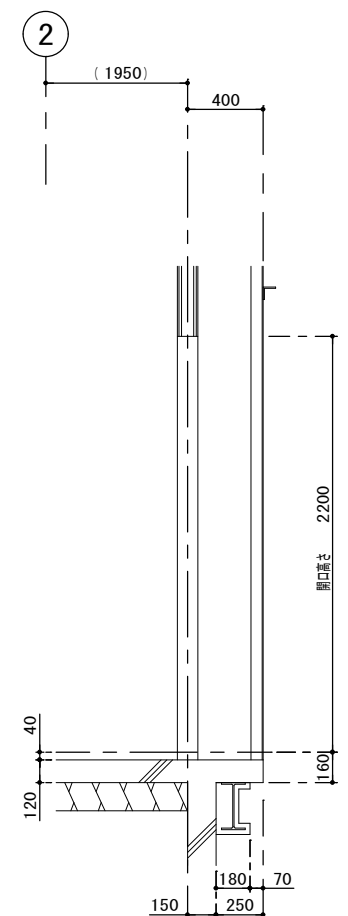
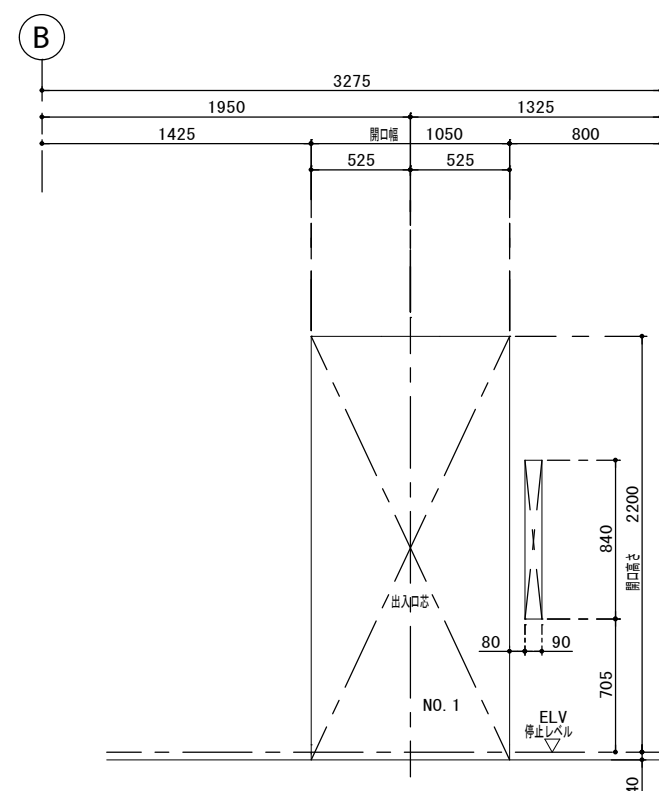
地震時建物に掛る荷重

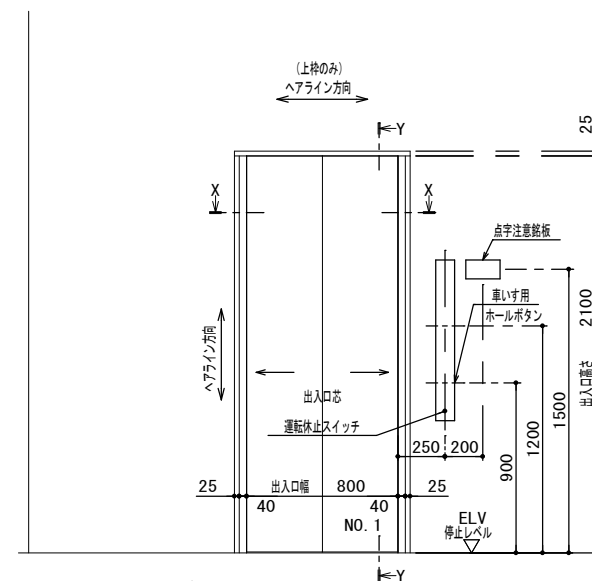
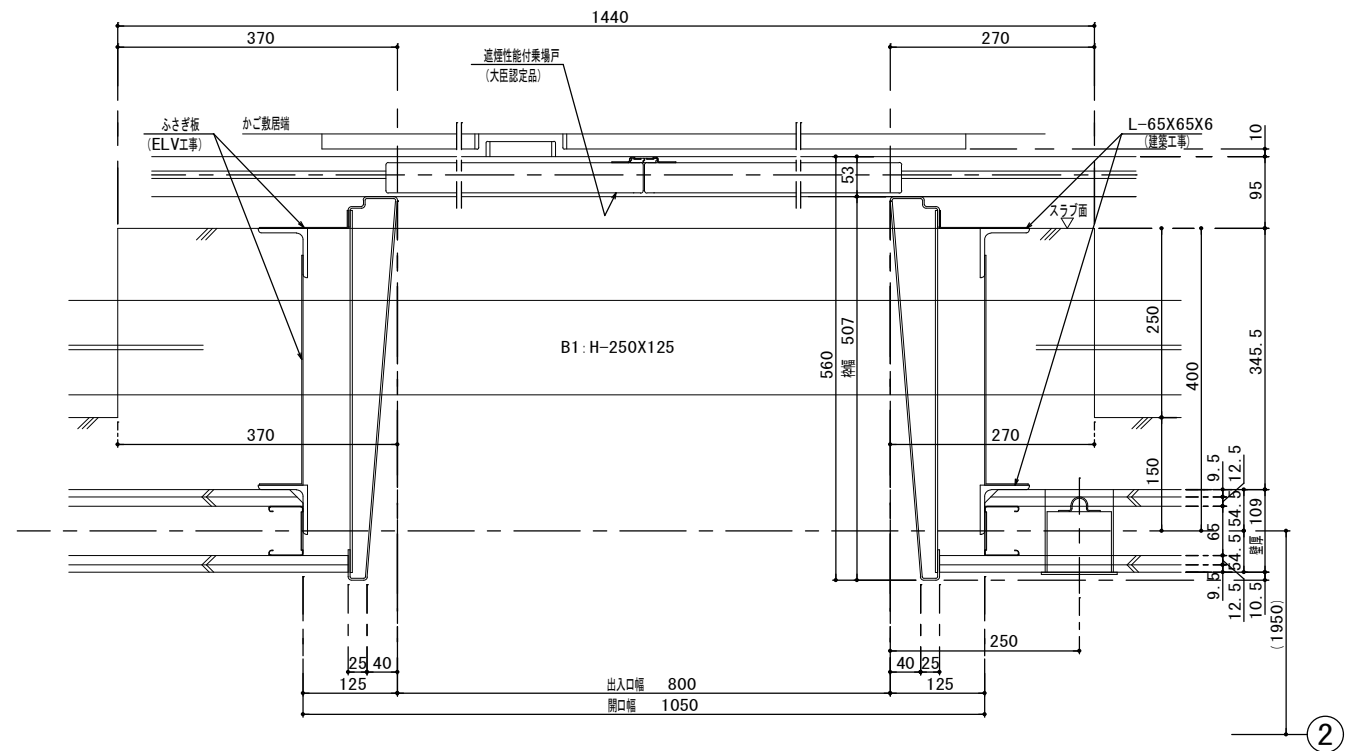
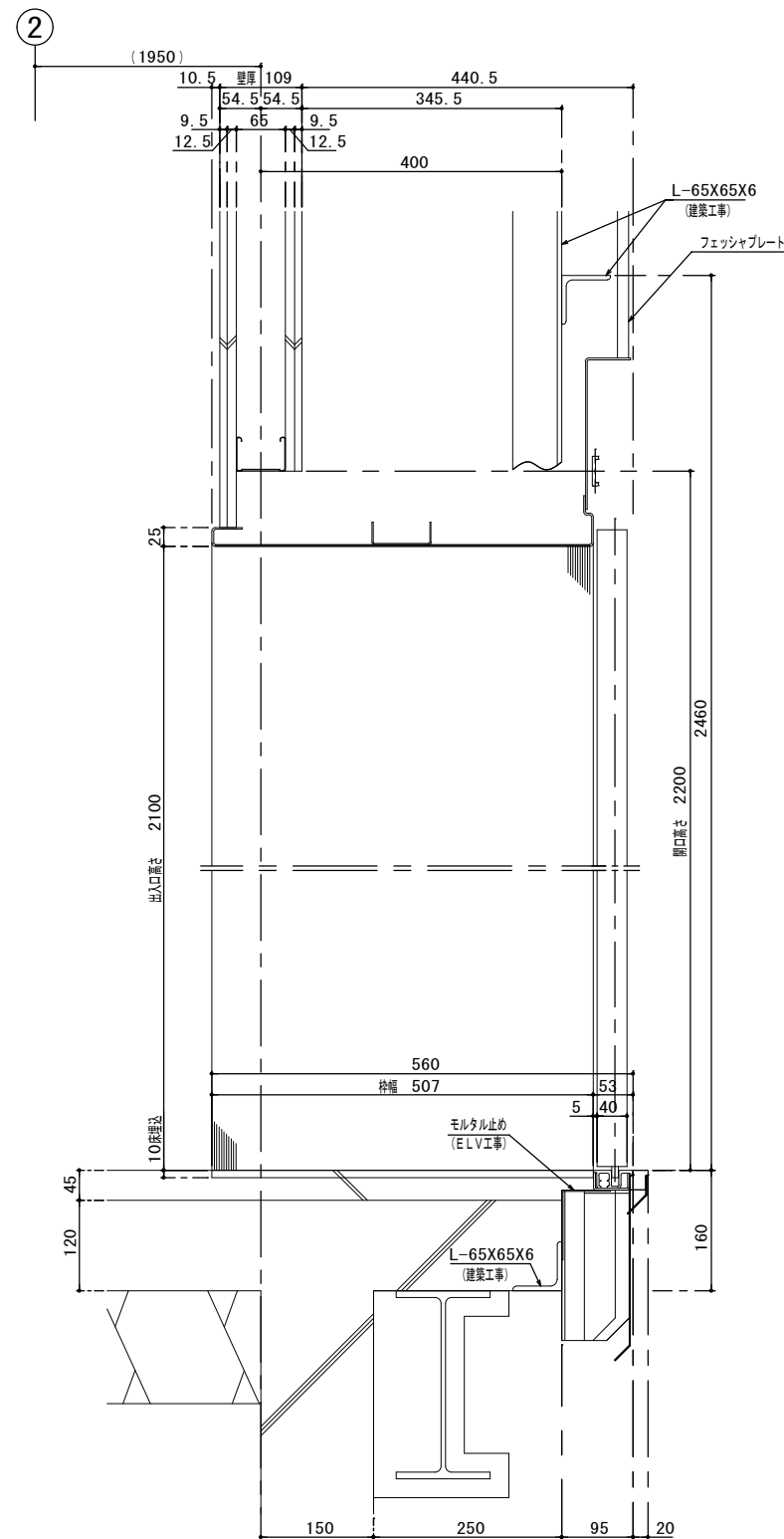


※製品に貼付けするシールです。



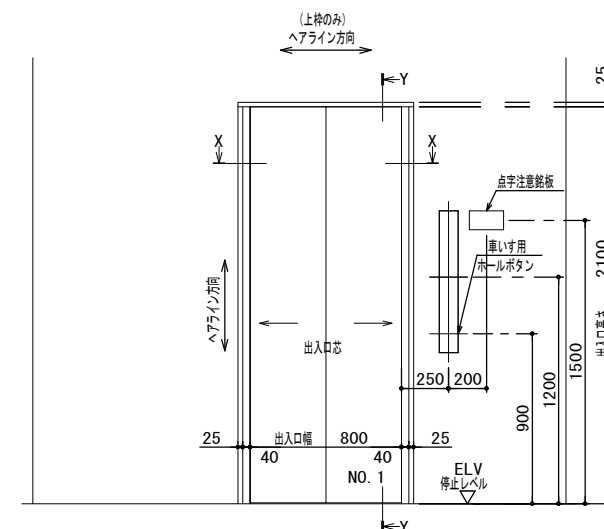
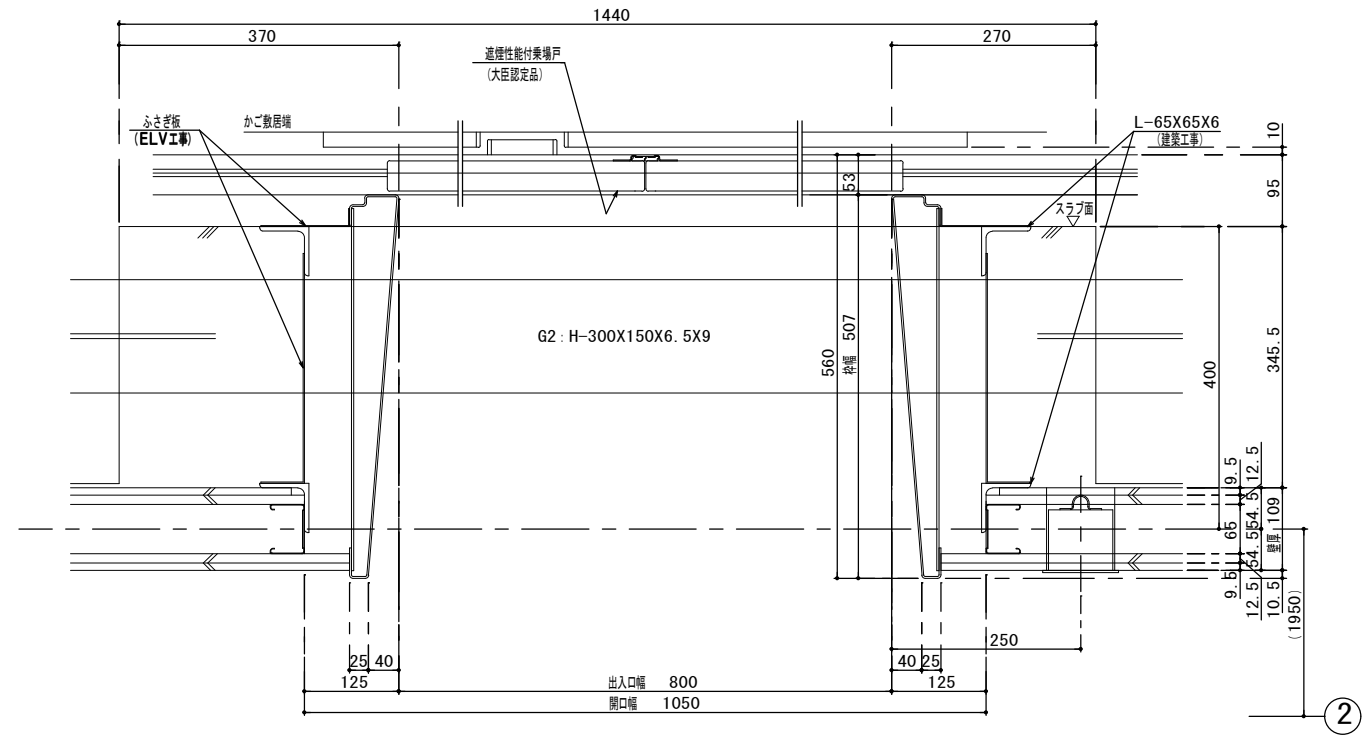
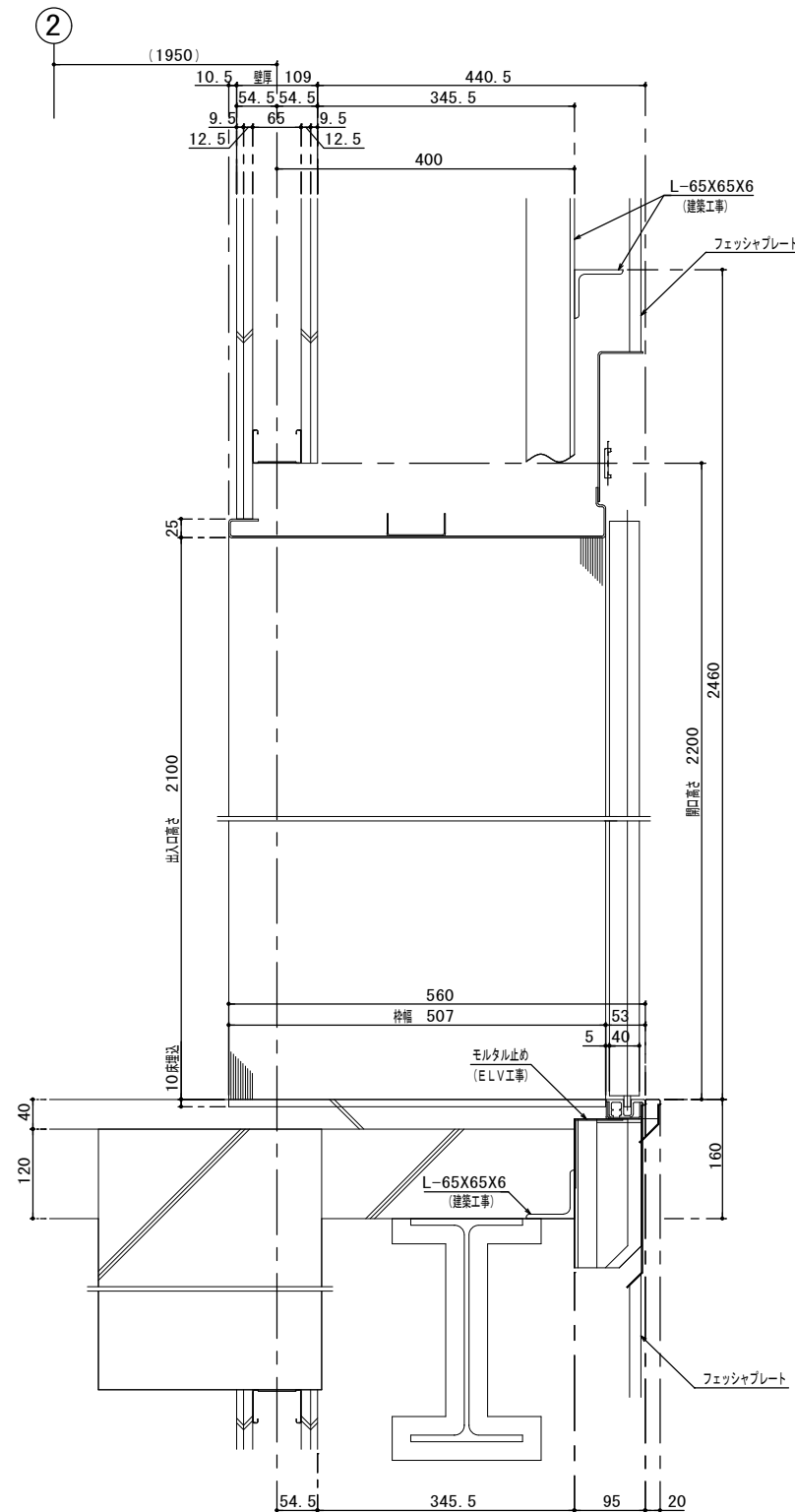
※製品に貼付けするシールです。





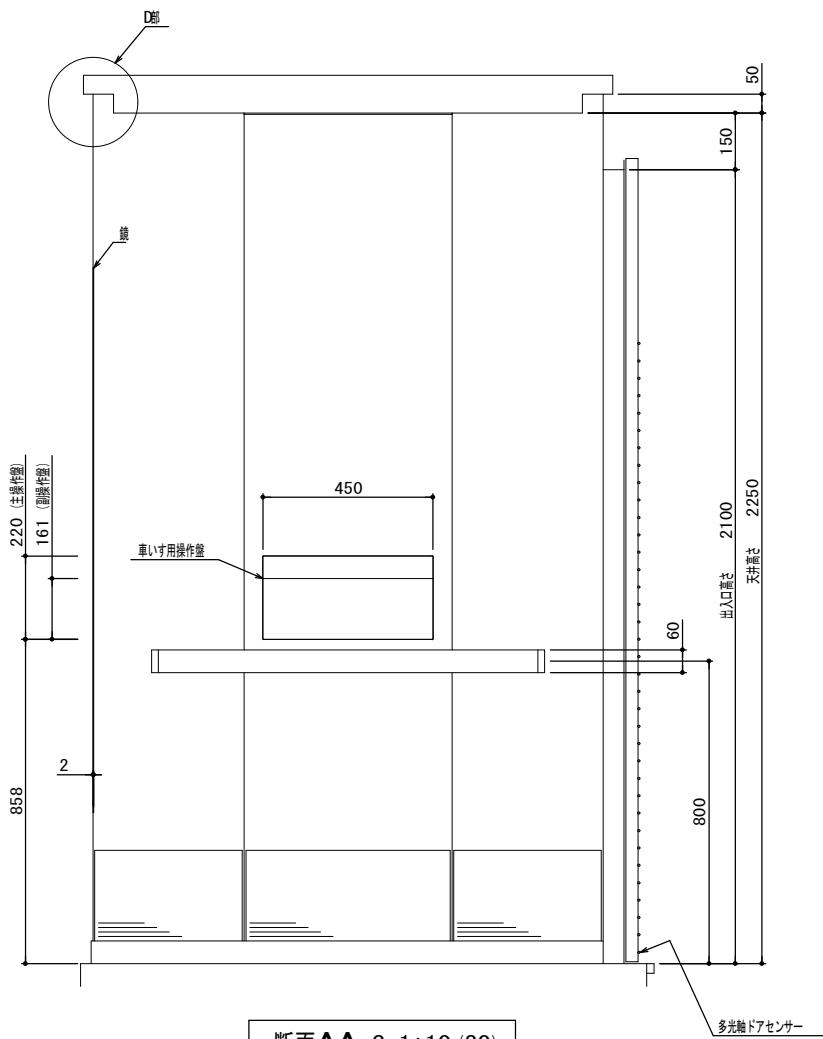
国土交通大臣認定仕様 特定防火設備
遮煙性能を有する 鋼製引き戸 (2枚戸両引き)
※製品に貼付けするシールです。

1 階 仕 様	
三 方 枠	ステンレスヘアライン仕上
戸	鋼板塗装仕上（5分ツヤ）
散 居	硬質アルミ

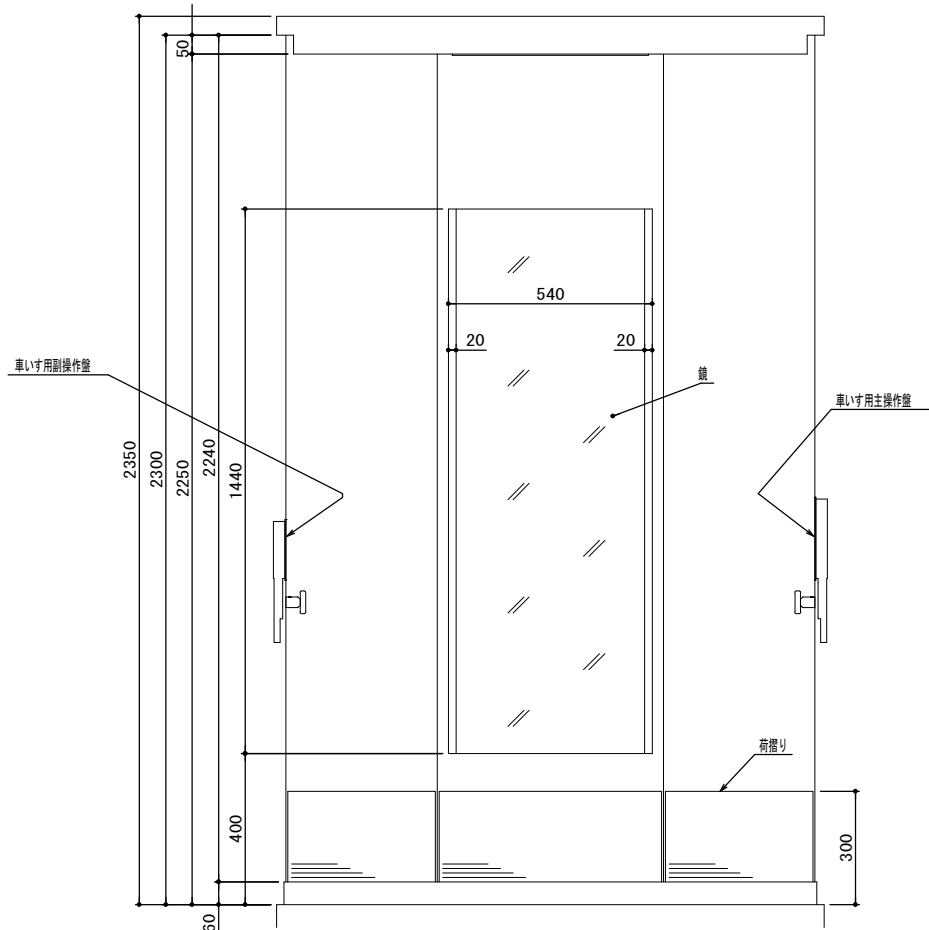


国土交通大臣認定仕様 特定防火設備
遮煙性能を有する 鋼製引き戸 (2枚戸両引き)

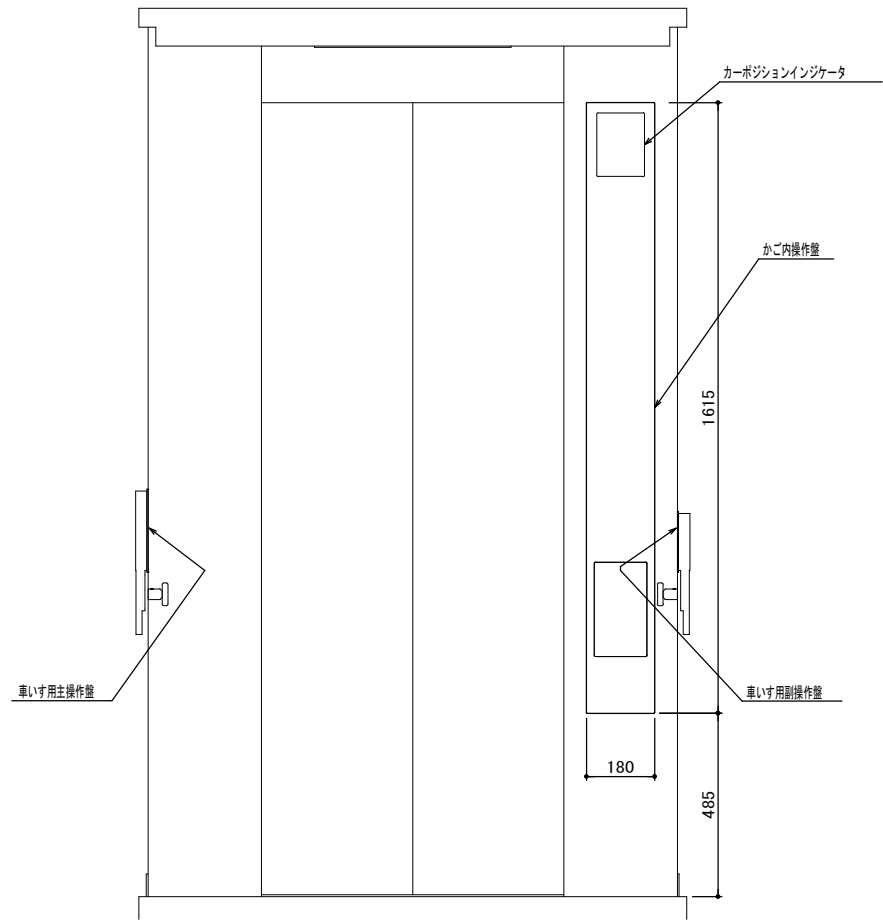
1 階 仕 様	
三 方 枠	ステンレスヘアライン仕上
戸	銅板塗装仕上（5分ツヤ）
敷 居	硬質アルミ



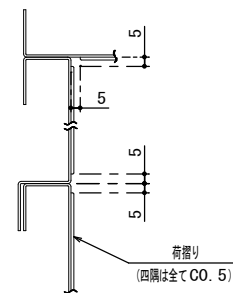
断面AA S=1:10 (20)



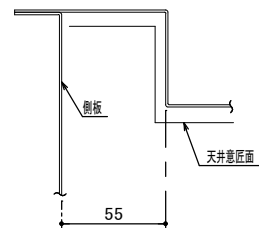
断面BB S=1:10 (20)



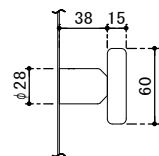
断面CC S=1:10 (20)



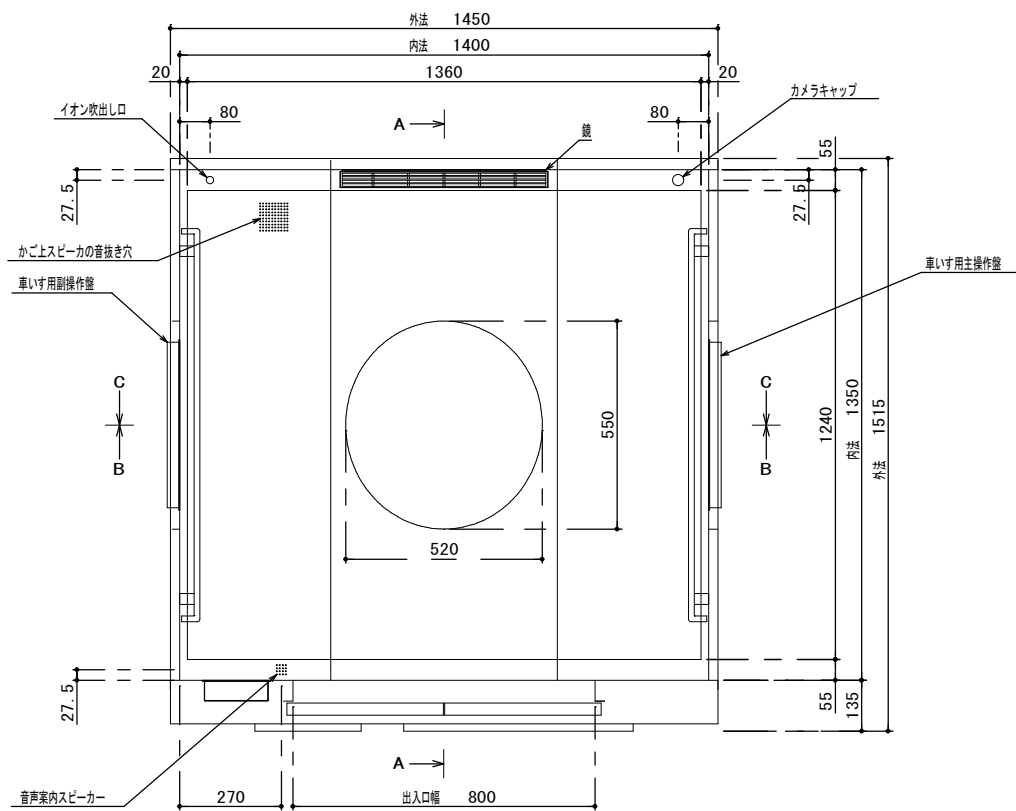
側板コーナー及び中間継目詳細 S=1:2 (4)



D部詳細 S=1:2 (4)



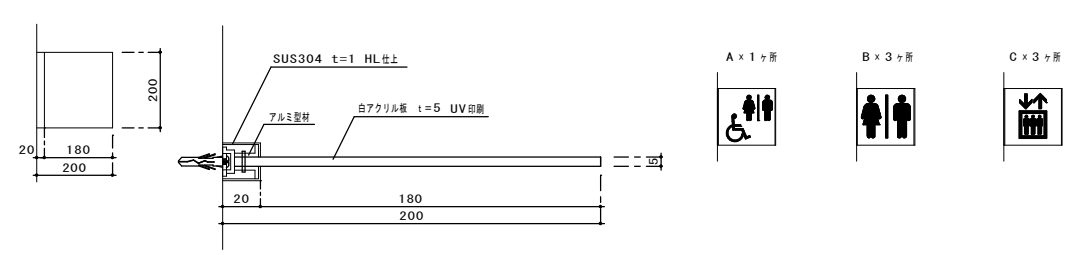
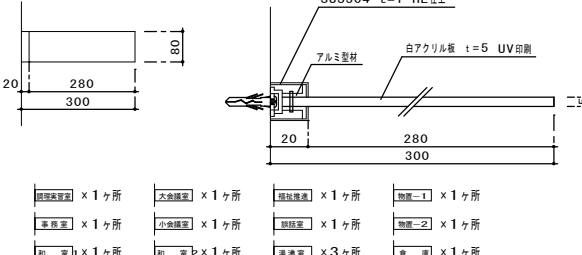
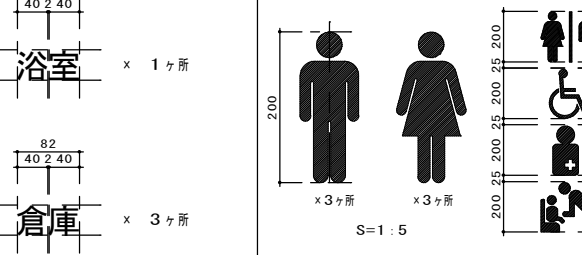
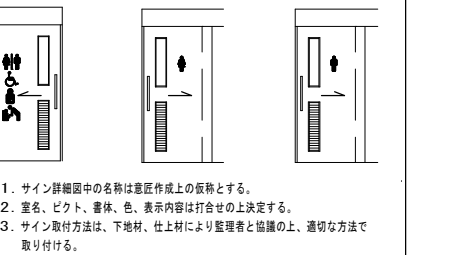
ハンドレール取付部詳細 S=1:3 (6)



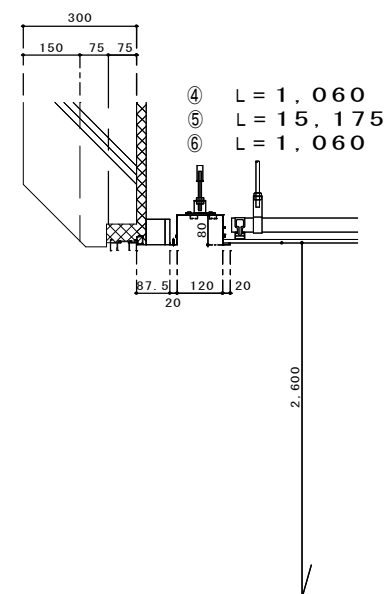
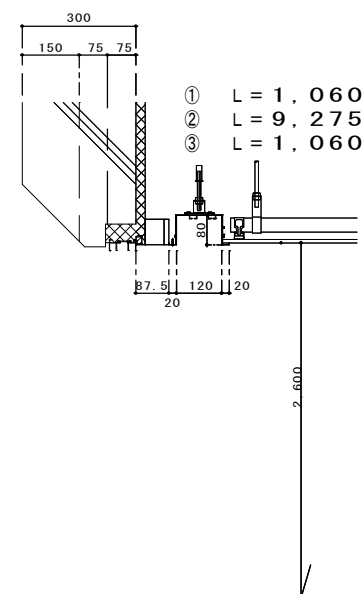
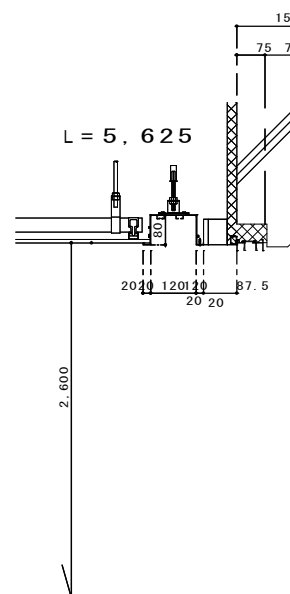
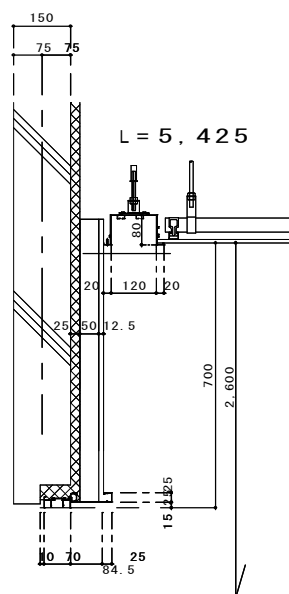
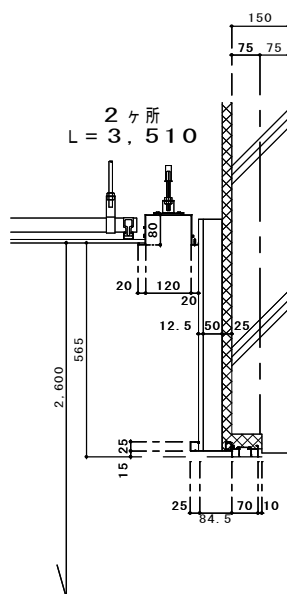
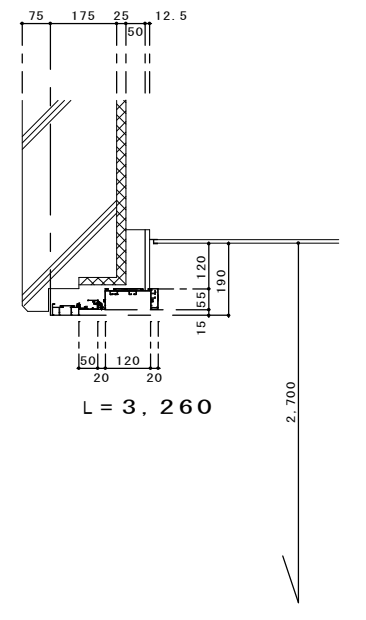
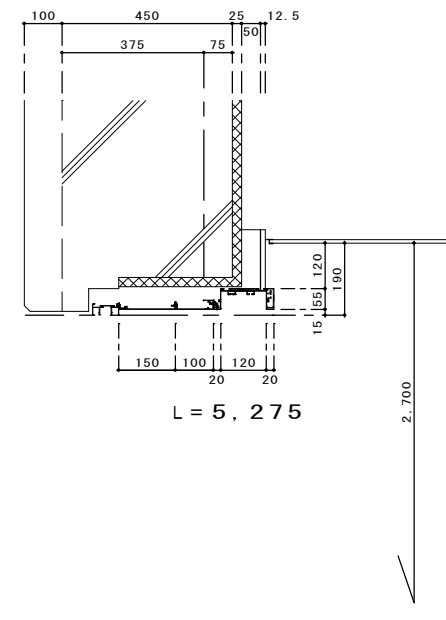
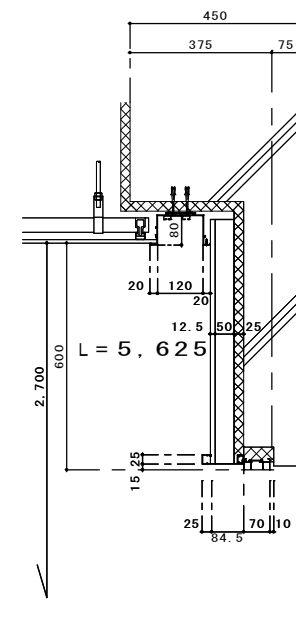
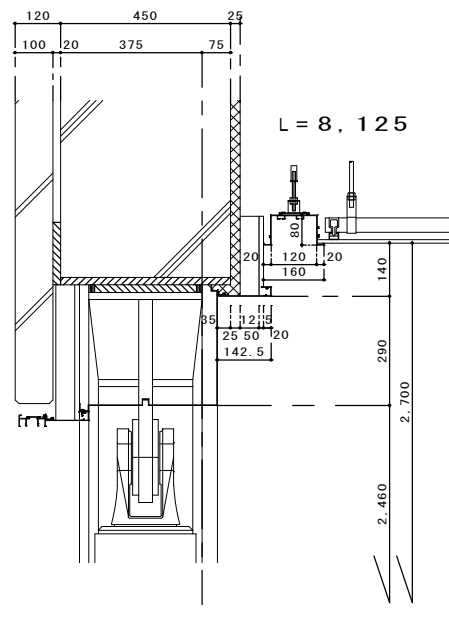
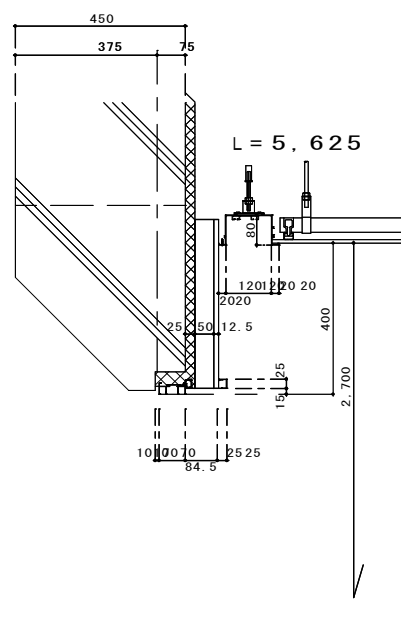
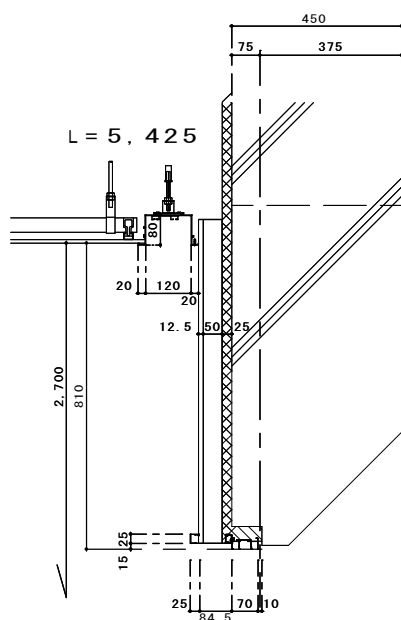
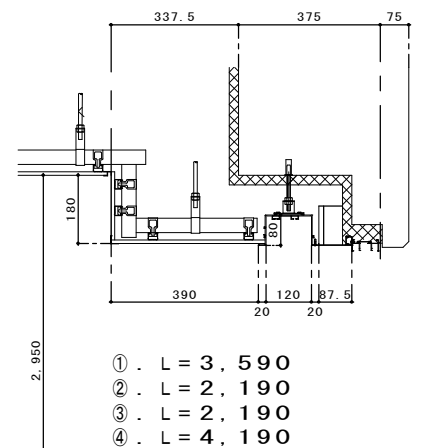
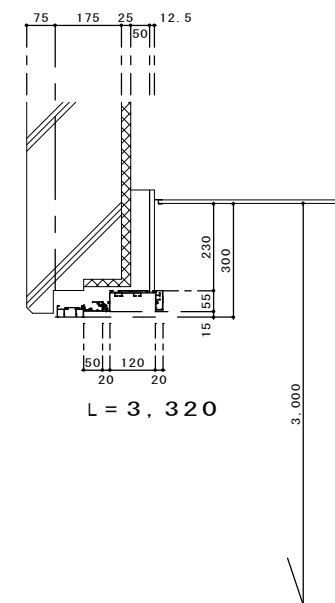
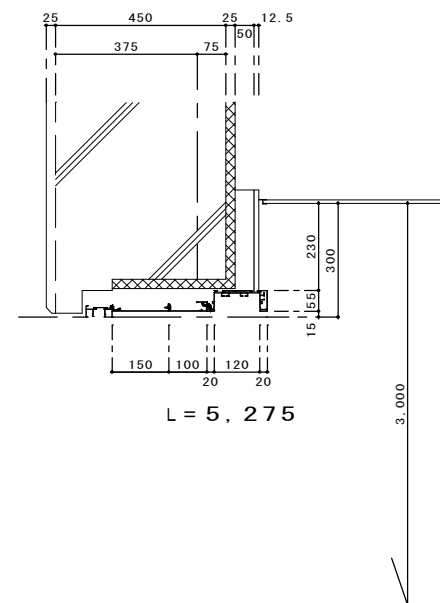
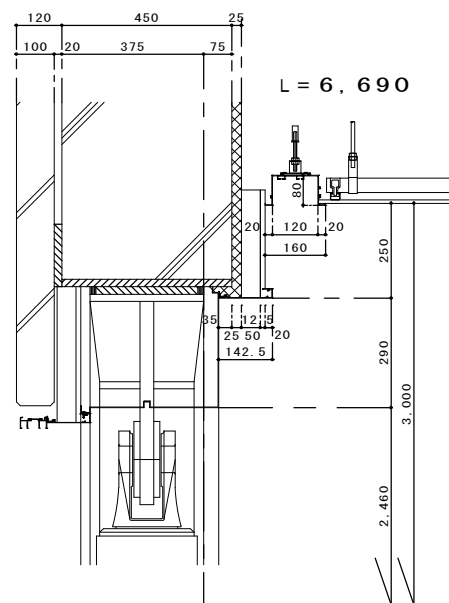
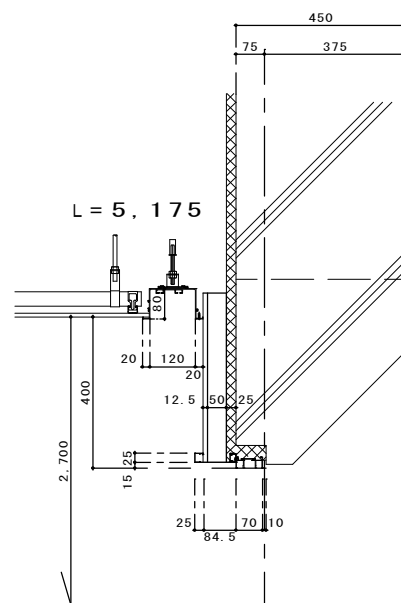
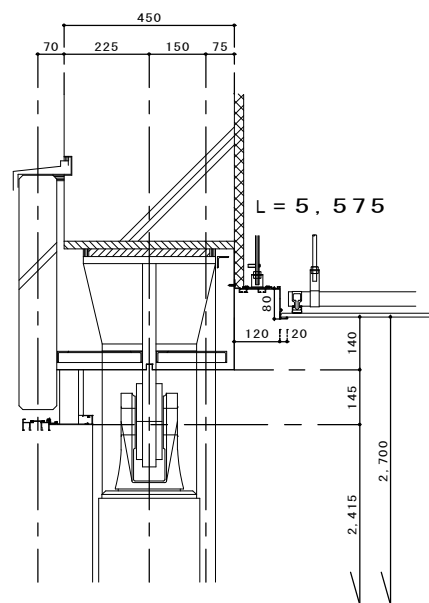
品 名	仕 様
前側板, 出入口上部枠	化粧銅板
幅 木	化粧銅板
側板, 戸	化粧銅板
天井	化粧銅板
照 明	乳白色アクリルカバーLED照明 (天井照明色: 白色)
停電灯	LED
換 気	ファン
床	樹脂タイル (2T)
散 居	硬質アルミ
鏡	ステンレス鏡面 (両脇へアライン仕上)
ハンドレール	アルミアルマイト仕上
光電装置	多光軸ドアセンサー
天井換気ルーバー, カメラキャップ	ABS樹脂
荷棚り	ステンレスヘアライン仕上 (床から300mm)
付属品	車いす仕様付, 視覚障がい者仕様付 乗り場側利用者検知機能付 空気清浄機能付 (イオン発生機能同等品) 音声案内装置付, 非常放送用スピーカー付

家具図 S=1：50（100）									
記 号	K-1（下駄箱）	K-2（ロッカー）E衣櫥	K-3（ミニキッチン）	K-4（食器戸棚）	K-5（食器戸棚）	K-6（食器戸棚）	K-7（レッスンミラー）	TK-1（生使用調理実習台）	TK-2（教師用調理実習台）
ヶ所	2	1	3	3	2	3	1	1	4
図									
	材 種	スチール塗装品	スチール塗装品	トップ：ステンレス キャビネット：メラミン化粧板	上台・中台面材層タイプ・下台引戸	上台面材層・中台シースルー層タイプ・下台引戸	上台面材層・中台シースルー層タイプ・下台引戸	クリアーミラー t=6×1800×3600	ワークトップ：SUS304
	付属金物（品）		取手：ABS樹脂 アルミ棚 番号番号錠	シンク：ステンレス	可動棚板4+1枚	可動棚板4+1枚	可動棚板4+1枚	ポリ合板幅フラッシュ引戸 見込45	ワークトップ：SUS304 扉 EBコート
	使用箇所	玄関	更衣室	調理室	家庭実習室	家庭実習室	家庭実習室	3階 大会議室	2階 家庭実習室
	備 考		非常脱出用ダイヤルNO検査キー						



サイン図 S=1:50(100)								
記 号	室名プレート（突出型）	計 7ヶ所	室名プレート（突出型）	計 18ヶ所	部屋文字カットティングシート	計 4ヶ所	ピクトカットティングシート	計 7ヶ所
見 込	—		—		—		—	
姿 図	正面図 S=1:10 詳細図 S=1:2 		正面図 S=1:10 詳細図 S=1:2 		正面図 S=1:10 詳細図 S=1:2 		正面図 S=1:10 詳細図 S=1:2 	
	A × 1ヶ所		B × 3ヶ所		C × 3ヶ所		A × 1ヶ所	
	B × 3ヶ所		C × 3ヶ所		A × 1ヶ所		B × 3ヶ所	
	C × 3ヶ所		A × 1ヶ所		B × 3ヶ所		C × 3ヶ所	
	A × 1ヶ所		B × 3ヶ所		C × 3ヶ所		A × 1ヶ所	
材 種	フレーム：アルミ型材 仕上SUS t=1 HL・表示基盤：白アクリル板 t=5 UV印刷		フレーム：アルミ型材 仕上SUS t=1 HL・表示基盤：白アクリル板 t=5 UV印刷		カッタイングシート（ビニールフィルム）		カッタイングシート（ビニールフィルム）	
別 子	—		—		—		—	
金 物	—		—		—		—	
使用箇所	1、2階 廊下		1、2階 廊下		浴室 1ヶ所、倉庫 5ヶ所		1階：男性トイレ、女性トイレ、多目的トイレ 2階：男性トイレ、女性トイレ 3階：男子トイレ、女子トイレ	
備 考	表示方法：UV印刷		表示方法：UV印刷		—		—	





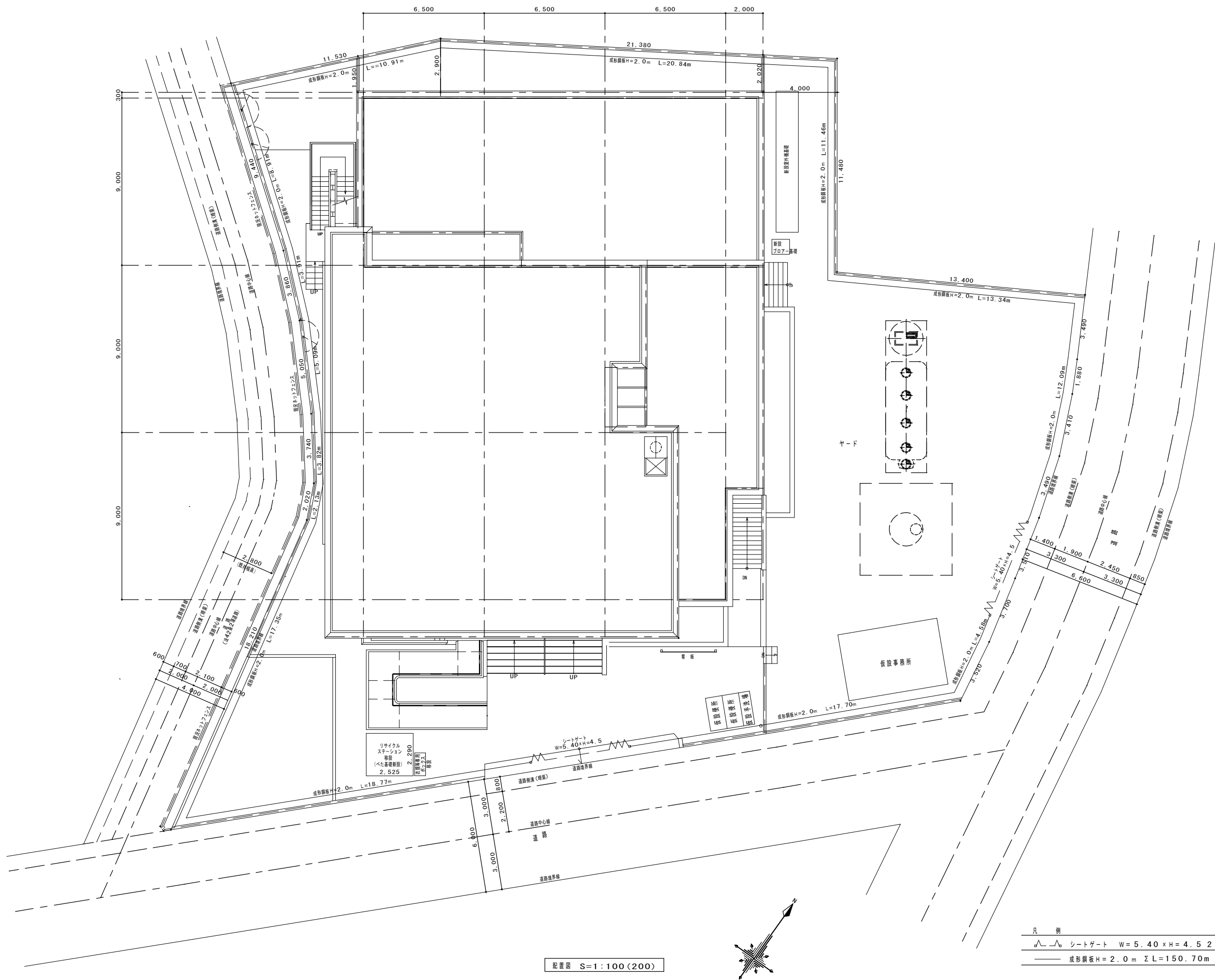


1 階 断熱材図面 S=1 : 100 (200)

2 階 断熱材図面 S=1 : 100 (200)

3 階 断熱材図面 S=1 : 100 (200)

- 凡 例
- スタイロフォーム t=25
 - 硬質ウレタンフォーム敷付 t=25



配置図 S=1:100 (200)

- 凡 例
- シートゲート W=5.40 x H=4.5 2ヶ所
 - 成形鋼板 H=2.0 m ΣL=150.70m

構造設計特記仕様

※修正箇所は下線を引くこと
適用は 印を記入する。

1. 建築物の構造内容

(1) 建築場所 富士吉田市大明見4549-4 外5番

(2) 工事種別 ☐ 新築 ☐ 増築 ☐ 増改築 ☒ 改築

(3) 構造設計一級建築士の関与 ☐ 必要 ☒ 必要としない
□法第20条第一号（高さ60m超）
□法第20条第二号（RC造高さを20m超 □S造4階以上 □木造高さ13m超 □その他）
注（3）構造設計一級建築士の関与が義務づけられる建築物については開設等参照して確認する事。

(4) 構造種別 ☐ 木造（W） ☐ 補強コンクリートブロック造（CB） ☐ 鉄骨造（S）
☒ 鉄筋コンクリート造（RC） ☐ 壁式鉄筋コンクリート造（WRC）
☐ 鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC） ☐ 壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造（WPRC）
☐ プレキャスト鉄筋コンクリート造（PRC） ☐

(5) 階数 地下 1 階 地上 3 階 塔屋 0 階

(6) 主要用途 集客場

(7) 屋上付属物
☐ キュービクル ☐ 自家発電設備 ☐ オイルタンク ☒ 空調室外機 ☐ 太陽光発電設備 ☐ 煙突（建物内）

(8) 特別な荷重
☒ エレベータ 11人乗（マシナルムレス ☐ 油圧式）リフト kN □ホイスト kN □太陽光発電パネル
☐ 倉庫機能床用 N/㎡ □地下受水槽 □

(9) 付帯工事
□門扉（外構工事）□演臺（外構工事） □駐輪場 □機械式駐車場 □ □

(10) 増築計画 ☐ 有（ ） ☒ 無

(11) 構造計算ルート X方向ルート III Y方向ルート III

2. 使用建築材料覧表・使用構造材料一覧表

(1) コンクリート（レディーミクストコンクリート JIS Q 1001, JIS Q 1011, JIS A 5308）

適用箇所	種類	設計基準強度 Fc=N/mm ²	品質基準強度 Fq=N/mm ²	スランプ cm	備考
捨てコンクリート	☒ 普通	18		15	
EV基礎・地中梁	☒ 普通	24		18	
土間コン・機械・機器基礎	☒ 普通	21		18	
小梁・床・壁	☒ 普通 □口軽量	24		18	
塀コンクリート	☒ 普通 □口軽量	24		18	
押入コンクリート	☒ 普通 □口軽量	21		15	
細骨材の種類	☐ 砂 ☒ 山砂 ☐ 人工 ☐				
粗骨材の種類	☐ 砂利 ☒ 碎石 ☐ 人工 ☐				
水の区分	☒ 水道水 ☐ 地下水 ☐ 工業用水 ☐				
混和材の種類（JIS ）	☒ AE減水剤 ☐ 高性能AE減水剤 ☐				
呼び強度を保証する材料、養生	☒ 材料（■28日 □56日 □ □ □） ☒ 養生（■現場打ちかん □現場水中 □標準 □ □ □）				

■単位水量は185kg/m³以下、単位セメント量は290kg/m³以上とする。
(2) コンクリートブロック（JIS A 5406）
☐ A種 ☐ B種 ☐ C種 厚 ☐ 100 ☐ 120 ☐ 150 ☐ 190 使用箇所（□）

(3) 鉄筋

	種類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋 (JIS G 3112)	☒ SD295A	D19未満	土間 床版 基礎柱 地中梁	☒ 重ね継手D19未満 但し、耐圧盤配筋は全て重ね継手とする。 ☒ ガス圧接継手D19以上 ☐ 溶接継手 ☐ 機械式継手（ ） ☐ 大圧認定番号 MSRB-
	☐ SD345	D19以上		
高強度せん断補強筋	☐ 材料			
丸 鋼 (JIS G 3112)	☐ SR235			
溶接金剛 (JIS G 3551)	☐ 普通鉄線	6φ-150×150		鉄筋継手等の■にて表示すること

(4) 鉄 骨

種 類	使用箇所	現場溶接	備考
☒ SS400 ☐ SM400 ☐ STK400	小梁、プレート	☐ 有 ☒ 無	JIS規格品
☐ SN400A ☒ SN400B ☐ SN400C	大梁、接合プレート	☐ 有 ☒ 無	JIS規格品
☐ SN490A ☐ SN490B ☒ SN490C	柱ダイヤフラムプレート	☐ 有 ☒ 無	JIS規格品
☐ BCP235 ☐ STKR400 ☒ BCR295	柱	☐ 有 ☒ 無	大臣認定品
☐ SSC400 ☐ STKR400		☐ 有 ☒ 無	JIS規格品

□使用箇所の詳細については別途図示とする。

(5) ボルト

☒ 高力ボルト
※孔寸法は材厚6mm超公称軸径+2.0・材厚6mm以下M16以下公称軸径+1.0 M20以上公称軸径+1.5
☒ F10T (JIS B1186) ☒ S10T認定番号（ ） □F8T認定番号（ ） （□M12 ☒ M16 ☒ M20 ☐ M22 ☐ M24）
☐ 中ボルト
※孔寸法は公称軸径+0.5
☐ M10 ☐ M12 ☐ M16（二重ナット締め）
☐ アンカーボルト（ベスバックは、別紙参照）
☐ ABR400 M20 L=400mm ナット（□シングル □ダブル）
☐ ABR400 M L= m ナット（□シングル □ダブル）
☐ SS400 M L= m ナット（□シングル □ダブル）
☐ SS400 M L= m ナット（□シングル □ダブル）
☐ 鋼付スタッドボルト
φ= mm L= mm 使用箇所（□柱 □大梁 □小梁）

(6) 屋根、床、壁

材 種	形式 厚 その他	使用箇所	仕様・構法
防水型壁面塗材		☒ 外壁 ☐ スライド ☐ ボルト止め ☐ ロッキング	
鉄筋コンクリートスラブ	t=120	☒ 屋根 ☐	
デッキプレート (JIS G 3352)	型式 QL-99-50-12	☐ 床版 ☐	
キーストンプレート (JIS G 3352)	型式 厚七=	☐ 床版 ☐	

3. 地盤

(1) 地盤調査資料と調査計画
☐ 有（□敷地内 □近隣） ☒ 無（調査計画 ☐ 有 ☒ 無）
(1) コンクリート

調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画
ボーリング調査			静荷重入試験			標準貫入試験		
水平地盤反力係数の測定			土質試験			物理探査		
試験掘（支持層の確認）			平板載荷試験			液状化判定		
スウェーデン式サウンディング試験			現場透水試験			PS検算		

注）上記表中の資料があるもの、調査計画があるものに○を記入する。
(2) ボーリング標準貫入値、土質構成（基礎・杭の位置を明記すること）

NO. 1

深度	土 質	N 値	標準貫入試験
			10 20 30 40 50 60
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

NO. 2

深度	土 質	N 値	標準貫入試験
			10 20 30 40 50 60
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

注）地盤調査及び試験の結果により、杭長さ、仕様、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。

4. 地業工事

(1) 直接基礎

☒ ベタ基礎（EV） ☐ 布基礎 ☒ 独立基礎（既存本体） 試験掘 ☐ 有 ☐ 無
深さ 設計 GL -1.50m 支持層 -
長期許容支持力度 200.0KN/m² 載荷試験 ☐ 有 ☐ 無

(2) 地盤改良 ☐ 浅層混合処理工法 ☐ 深層混合処理工法
深さ 載荷試験 ☐ 有 ☐ 無
長期許容支持力度

注）「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針：日本建築センター2002」を参照とする。

(3) 試験掘 支持層 -

杭 種	材 料	施 工 法	備 考
☐ RC ☐ PRC ☐ PHC ☐ H鋼 ☐ 鋼管 摩擦杭 ☐ SC杭	PRC (□I 種 □II 種 □III 種) PHC (□A 種 □B 種 □C 種) 鋼材 □SS400 □SKK400 □JIS	☐ 打ち込み ☐ 埋込み（セメントミルク工法） ☐ ☐ オールケーシング □拡底杭 ☐ リバースサーキュレーション ☐ アースドリル □ミニアース ☐ BH □深礎 { □手掘 □機械掘	認定 号 年 月 日 認定 第 年 月 日
□場所打ち コンクリート杭	コンクリートFc N/mm ² コンクリートFq N/mm ² スランプ cm 以下 セメント量 kg/m ³ 単位水量 kg/m ³ 鉄筋 主筋 SD HOOP SD		

杭仕様 ☐ 施工計画書承認 ☐ 杭施工結果報告書
試験杭（☐ 有 ☒ 無）（☐ 打ち込み □載荷 □孔径測定） 本

杭径（mm）	設計支持力（kN）	杭の先端の深さ（m）	本数	特記事項

5. 鉄筋コンクリート工事（施工方法等計画書）

本構造設計特記仕様はコンクリートの設計基準強度（Fc）が
36 N/mm²以下に適用し、鉄筋の材種はSD390以下に適用する。

(1) コンクリート
☒ コンクリートは、JIS A 5308（レディーミクストコンクリート）に適合するJIS認証工場の製品とし、施工に関しては標準図に記載されている事項を除き、JASS 5 による。
☒ 耐久設計基準強度 Fcd □短期 ☒ 標準 □長期 □延長期
☒ セメントは、JIS R 5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。
☒ 調査計画は、工事開始前に工事監督者の承認を得ること。
☒ 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当たる場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監督者の承認を得ること。
☒ フレッシュコンクリートの低化物測定は、原則として工事現場で（財）国土開発技術センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し承認を得る。
測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一材料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。
☒ 構造体コンクリートについて、現場の圧縮強度試験供試体JASS 5T-603によることとし、供試体は現場水中養生または現場打ちかん養生とし、採取は打ち込み区ごと、打ち込み日ごととする。
また、打ち込み量が150m³を超える場合は、150m³ ごとまたは、その場数ごとに1回を標準とする。
1日に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当たり6本以上とし、そのうち4適用に3本を用いる。
☒ ポンプ打ちコンクリートは、打ち込み位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さはコンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送機または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は150分以内、25℃以上の場合は120分以内とする。
☒ コンクリート打ち込み中及び打ち込み後5日間は、コンクリートの温度が2度を下をらないようにする。
☒ 乾燥、振動等によってコンクリートの凝結及び硬化が妨げられないように養生を行う。

(2) 鉄筋
☒ 鉄筋はJIS G 3112の規格品を標準とする。施工は、標準図に記載されている事項を除きコンクリートと同様にJASS 5 による。
☐ 高強度せん断補強筋はJIS G 3137に規定されるD種1号選用品とする。
☒ 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さ
「鉄筋コンクリート構造配筋標準図（1）（2）」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（1）（2）」による。
☒ 鉄筋継手等

鉄筋継手工法	継手の位置等の設計条件による仕様・等級				鉄筋の径
	(1) 引張最小部位		(2) (1) 以外の部位 ^(注)		
	A級	B級	S A級		
☒ 重ね継手 ☒ 40 d ☐ 35 d ☐ () d					☐ D (16) 以下
☒ 圧接継手 ☒ 告示1463号第2項各号	☐				☐ D (19) 以上
☐ 溶接継手 ☐ 告示1463号第3項各号	☐	☐			☐ D () 以下
☐ 機械式継手 ☐ 告示1463号第4項各号	☐	☐	☐	☐	☐ D () 以下

注）（1）以外の部位に設ける継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋協会・日本建築センター等の認定・評定等を取付した継手工法の等級で、構造計算にあたって「鉄筋継手仕様標準（建築物の構造関係技術基準解説書2007）」によって検討した部材の条件・仕様によること。
☒ D19未満は、すべて重ね継手とする。
☒ 継手部分の施工要領は社）日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」（ガス圧接継手工事、溶接継手工事、機械式継手工事）による。
継手部の検査方法：・外観検査 ☒ 有 ☐ 無 ・引張試験 ☐ 有 ☐ 無 ・超音波探傷試験 ☒ 有 ☐ 無
ガス圧接部分の検査は超音波探傷試験によって行う場合、最初のドロットについては引張試験も併用し、1回の試験は5本以上とする。
（1ロットは同一作業班が同一日に作業した圧接箇所で200箇所程度とする）
☒ 柱の等価（H00P）の加工方法は、☒ H型（タガ型） ☐ W型（溶接型） ☐ S型（スパイラル型）とする。
☐ コンクリート及び鉄筋の試験は、「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取決要綱」第4条の試験機関で行うこと。
試験・検査機関名 代行業者名 代行業者名とは、試験、検査に伴う業務を代行する者をいう。（都知事登録 号）

(3) 型枠
☒ 材料 合板厚 12mm を標準とする。
☒ 施工はJASS5による。
☒ 型枠許容差

種類
部位
基礎、はり側、柱、壁
スラブ下、はり下
スラブ下
はり下
早強ポルトランドセメント
普通ポルトランドセメント
高炉セメントA種
シリカセメントA種
早強ポルトランドセメント
普通ポルトランドセメント
高炉セメントA種
シリカセメントA種
早強ポルトランドセメント
普通ポルトランドセメント
高炉セメントA種
シリカセメントA種
コンクリートの圧縮強度
5.0N/mm²
設計基準強度の50％
設計基準強度の85％
100％

注）1）片持梁、応、長大スパン9.0m以上のはり下は、工事監督者の指示による。
2）大梁の支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはり下の場合も原則として行わない。
3）支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
4）盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを書く。
5）支柱の盛りかえは、小梁が終ってから、スラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って盛りかえをしてはならない。
6）直上階に著しく大きい積載荷重がある場合においては、支柱（大梁の支柱を除く）の盛りかえを行わないこと。
7）支柱の盛りかえは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらすおそれのある振動又は衝撃を与えないように行うこと。
8）公共工事の場合は、公共建築工事標準仕様書を優先する。

6. 鉄骨工事（施工方法等計画書）

(1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による
☒ 日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
☒ 社）日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」
☐ 鉄骨製作管理技術者登録機構「実合せ継手の食い違いのずれの検査・補強マニュアル」
(2) 工事監督者の承認を必要とするもの
☒ 製作工場 ☒ 製作要領書 ☒ 作図 ☒ 施工計画書
☐ 認定または登録工場（大臣認定 S H M R グレード ランク）
☐ 材料規格証明書※または試験成績書
☒ 鋼材 ☒ 高力ボルト ☒ 特殊ボルト ☐ 鋼付スタッド
※社）日本鋼構造協会「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン」の規格証明方法、またはミルシート
☒ 社内検査表 ☐
(3) 工事監督者が行う検査項目
（□印以外の項目の検査結果については、工事監督者に報告すること）
☐ 寸寸検査 ☒ 組立・関係検査 ☒ 製品検査 ☐ 建方検査
(4) 接合部の溶接は下記によること
☒ 平成12年建設省告示第1464号第二号 イ、ロ
☐ 鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取決要綱
☒ 日本建築学会「溶接工作基準、同解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ」
☒ 日本建築学会「鉄骨工事技術指針 工事現場施工編」
(5) 接合部の検査
☒ 溶接部の検査（検査結果は後日工事監督者に報告すること）

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数			備 考
		工場自主検査	第三者受入検査	工事監督者	
☐ 完全溶込み溶接部 (実合せ溶接)	外観検査（※） 超音波探傷試験	100% 箇	30% 箇	30% 箇	※平成12年建設省告示第1464号第二号による（自検及び計測）
☐	内質検査 (注) ☐ 硬さ試験 ☐ 常温塗料塗布	箇	箇	% 箇	
☐	マクロ試験・その他	箇	箇	箇	
☐	外観検査（※）	100% 箇	30% 箇	30% 箇	

第三者検査機関名 (都知事登録 号)

第三者検査機関とは、建築士、工事監督者又は工事施工者が、受入検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。
注1）現場溶接部については原則として第三者検査機関による全数検査とし、原則として外観検査、超音波探傷検査を100％行いこと
注2）知事が定めた重大な不具合が発生した場合は、是正前に対応策を建築士事等に報告すること
☒ 高力ボルトの検査（検査結果は後日工事監督者に報告すること。）
軸力導入試験 ☐ 要 ☒ 否 高力ボルトすべり係数試験 ☐ 要 ☒ 否
☒ 一次締め後にマーキングを行い、二次締め後そのずれを見て、共回り等の異常が無いことを確認する。
トルシヤ形高力ボルトは二次締め後、ビテンレが破断していることを確認する。
(6) 防錆塗料
☒ 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは、□ JIS K 5621、■ JIS K 5674（A種） □ を使用して、4つ重2回塗りを経る標準とするが、実状に応じて決定すること。
☒ 現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。
(7) 耐火被覆の材料
☒

7. 設備関係

☒ 建築設備の構造は、構造耐力上安全な構造方法を用いるものとする。
☒ 建築設備の支持構造部および緊結金物は、錆止め等、防錆のための有効な措置を講ずること。
☒ 建築物に設ける屋上からの突出する水栓・煙突・その他これらに類するものは、風圧、地震力等に対して構造耐力上主要な部分に緊結され、安全であること。
☐ 煙突は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造とすること。
☒ 設備配管は、地震時等の建物変形に追随できること。また、地震力等に対して適切に支持されていること。
☒ 設備機器の架台及び基礎については、風圧・地震力に対して構造耐力上安全であること。
☒ エレベーターの駆動装置等は、構造体に安全に緊結されていること。
☒ 特記以外の変貫通孔は原則として設けない。
☒ 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を管径の3倍以上かつ5cm以上を原則とする。

8. その他

☒ 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
☒ 各試験の供試体は試験を行い監督員に報告すること。
☒ 必要に応じて記録写真を撮影保管すること。

9. 令第129条の2の4の事項

・建築物に設ける建築設備にあつては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。
☒ 建築設備（昇降機を除く）、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれのないものとする。
☐ 屋上から突出する水栓、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。
☐ 煙突の屋上突出物の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄筋の支持を設けたものを除き、90cm以下とする。
☐ 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とする。
☒ 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、以下の構造方法による。
☒ 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の振動及び衝撃に対して安全な支障のない構造とすること。
☒ 建築物の部分を通して配管する場合においては、当該接続部に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。
☒ 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可変継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。
☒ 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の振動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。
☐ 法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水栓、煙突その他これらに類するものにあつては、建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の振動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。

訂正 〃 〃 〃 〃

株式会社 佐藤設計
〒403-0017 山梨県富士吉田市明見町二丁目6番6号
一級建築士事務所（主） 第1-032042号 TEL.0555-22-3929
（支）第360788号 FAX.0555-23-9218
一級建築士登録番号
構造設計一級建築士届付番号第11022号 佐藤 公彦

設計年月日 年月 日 縮 尺 N

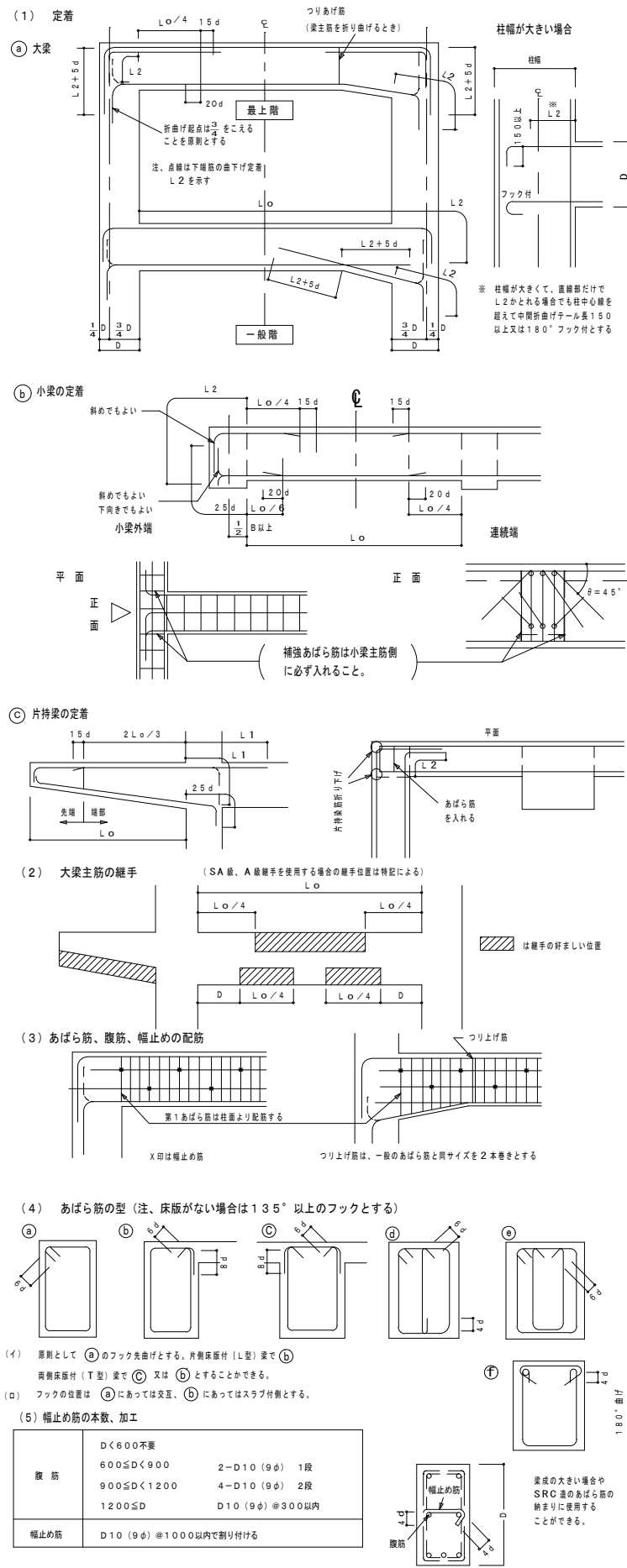
工事名称 富士吉田市立明見コミュニティセンター改修工事
工事区分 建築主体工事
図面名称 構造設計特記仕様

図面番号 S-01

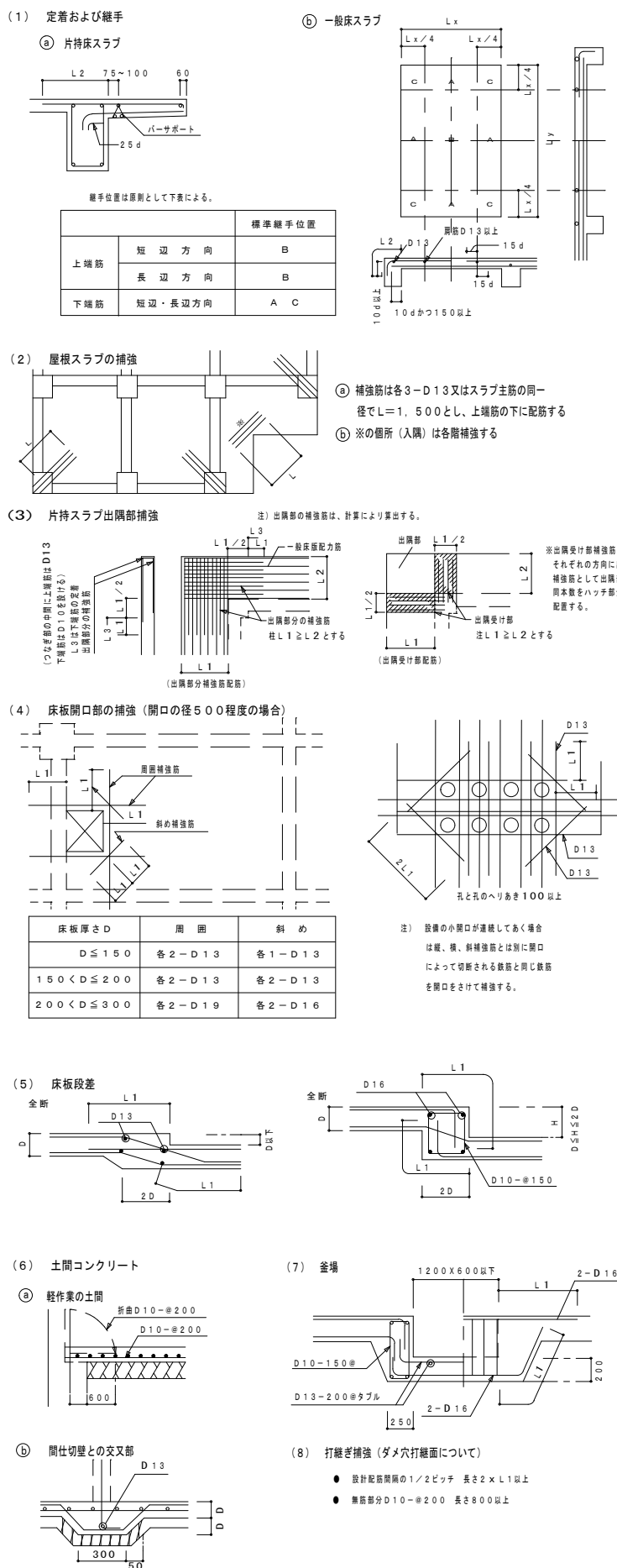
鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)

※修正箇所は下線を引くこと
L＝鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)の2～(3)による。

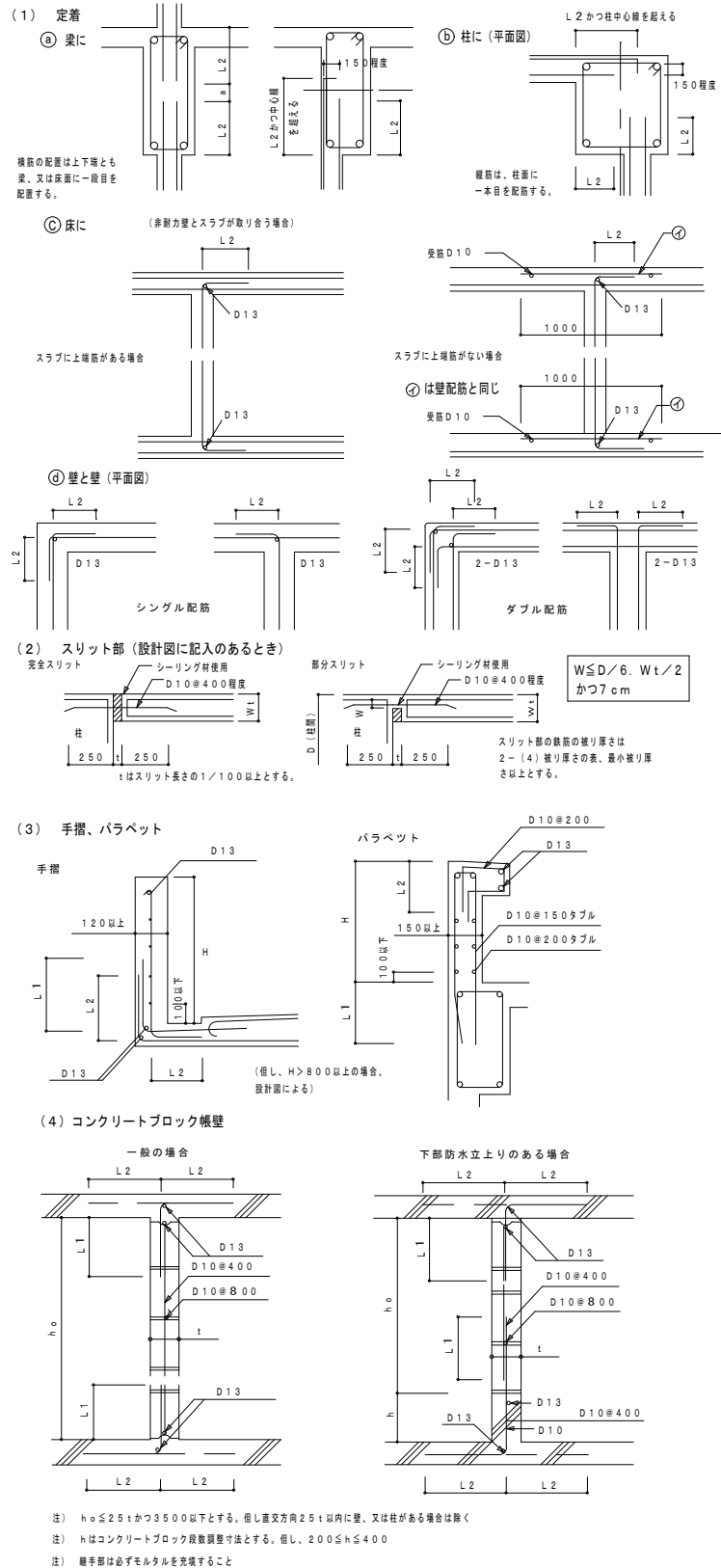
7. 大梁、小梁、片持梁



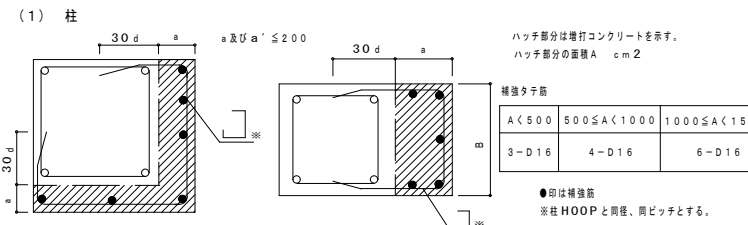
8. 床板



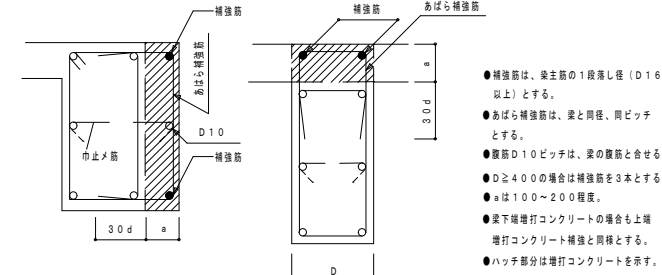
9. 壁



10. 柱、梁増打コンクリート補強

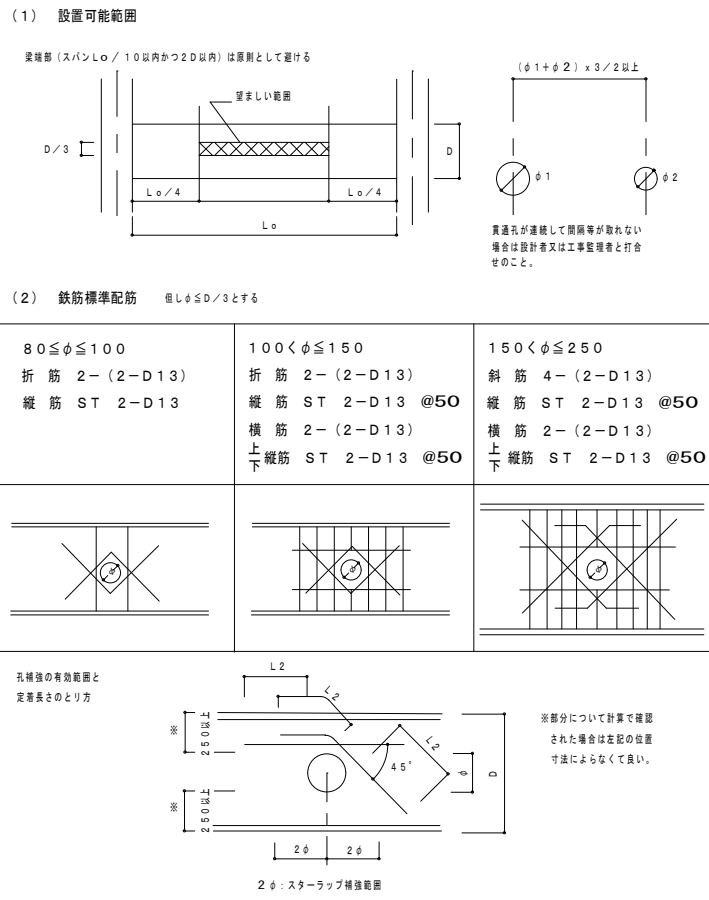


(2) 梁



11. 梁貫通孔補強

(開口補強筋については計算により確認すること)



(3) 既製品 (使用するときには、設計者又は工事監理者と打合せのこと)

ウェブレン、ダイヤレン等日本建築センター評価取得品とする。

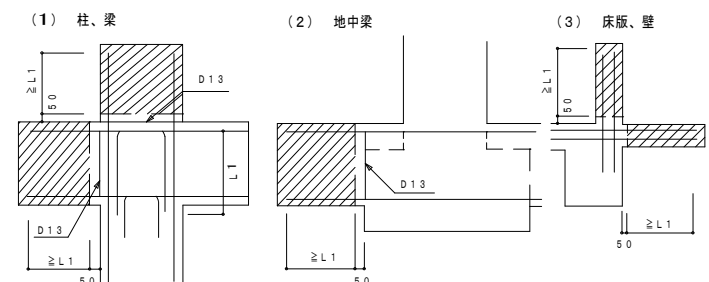
施工前に計算書を提出し、承認を得ること。

設計時に使用する評価取得品については計算書を提出すること。

☐ リング型 ☐ バイブ型 ☐ 金網型 ☐ プレート型

12. 増築予定

(将来増築予定のコンクリート増打部分は、増築時の鉄筋継手工法を考慮して措置する)



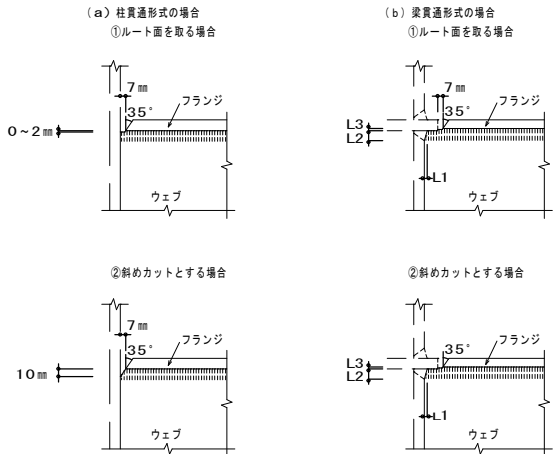
鉄骨構造標準図（１）

※修正箇所は下線を引くこと

１．一般事項

- (1) 材料及び検査
- (a) 構造設計仕様による。
- (b) 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適応し、かつ鋼材の厚さが40mm以下のものとする。
- (c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法、精度及びその他の結果を添付する。
- (2) 作業一般
- (a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る。
- (b) 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による。
- (c) 高強度鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする。
- (3) 高力ボルト接合
- (a) 本構めに使用するボルトと、仮締めボルトの使用はしてはならない。
- (b) 高力ボルトの摩擦面の処理は黒皮などを座金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した赤さび状態であること。但し、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面荒さが、50μm Rz以上である場合は、赤さびは発生しないまでよい。
- (c) 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分に密着するよう注意して行う。
- (4) 溶接接合
- (a) 平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロによる、溶接部の性能、溶着金属の性能を満足すること。
- (b) 溶接技能者
- 溶接技能者は施工する溶接に適用する JIS Z380(非溶接)又は JIS Z384(非自動溶接)の溶接技術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする。
- (c) 溶接機器
- (イ) 交流アーク溶接機 300A～500A (ニ) 放電ガスアーク半自動溶接機
- (ロ) アークエア・ガウジング機(直流) (ホ) 溶接電流を測定する電流計
- (ハ) サーマージアーク溶接機一式 (ヘ) 溶接棒乾燥器
- (d) 溶接方法
- 交流アーク溶接機(MC) ガスシールドアーク半自動溶接(GC)
- セルフ(ノンガス)シールドアーク半自動溶接(NGC) アークエア・ガウジング(AAG)
- (e) 溶接姿勢
- 下向 F 立向 V 横向 H 上向 O
- (f) 組立溶接技能者は、原則として本工事に従事するものが行う。
- (イ) 仮付位置
- 組立て溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける。
- (ロ) 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する
- (g) 溶接施工
- (イ) エンドタブ
- I 完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同間隔形状のエンドタブを取り付ける。
- II エンドタブの材質は、母材と同質とする。
- III 鋼製エンドタブの長さは、MC:35mm以上
NGC、GC:40mm以上とし特記のない場合は溶接終了後母材より10mm程度残し切断してグラインダー仕上げとする。
- IV プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出し設計者、又は工事監理者の承認を得る。
- (ロ) 裏あて金
- 材質は母材と同質材料とし厚さは平溶接で6mm半自動溶接で9mm以上、巾は25mm以上を原則とする。但し、溶接性能が確認できれば監理者の承認を得て変更することができる。
- (ハ) スカラップ半径は30～35mmと10mmのダブルアルとする。但し裏底がD=150mm未満の場合のスカラップはr=20mmとする。
- ノンスカラップ工法
- (ホ) 裏はつり
- 基準図の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、溶接監理者の確認を履行し、部材に確認マークをつける
- (ヘ) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部を傷めない様に、養生を行なう
- (5) 塗装
- コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない

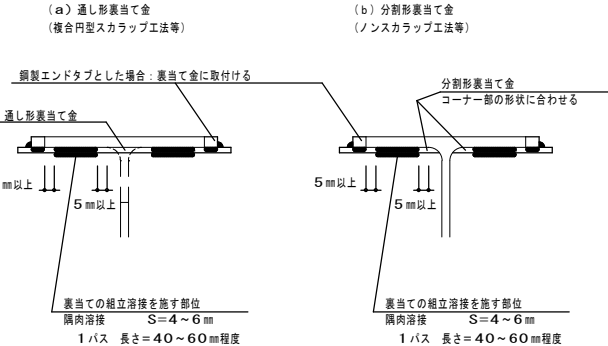
●ノンスカラップ工法



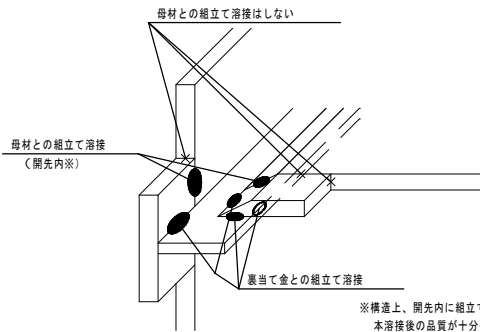
※ L1及びL2は、接合部パネルと通しダイヤフラムの溶接部と干渉しない寸法
L3は通しダイヤフラムと干渉しない寸法とする。

●裏当て金、エンドタブの組立溶接位置

裏当て金を用いた柱梁接合部の裏当て金の組立て溶接



●柱梁接合部に鋼製エンドタブを用いた場合の組立て溶接



２．溶接標準図

(注) f: 余盛 G: ルート間隔 R: フェース S: 脚長 (単位mm)

(1) 隅肉溶接

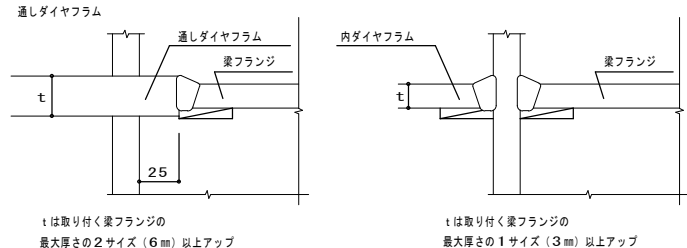
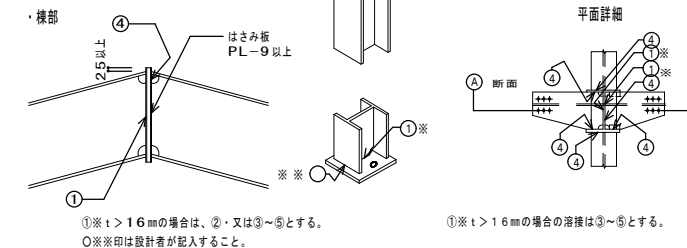
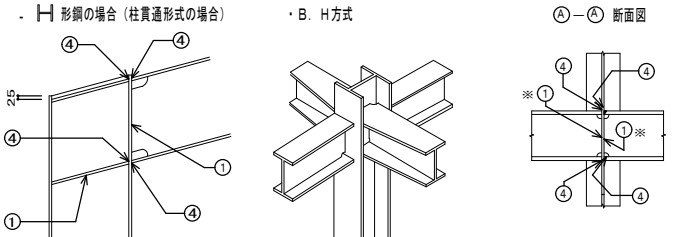
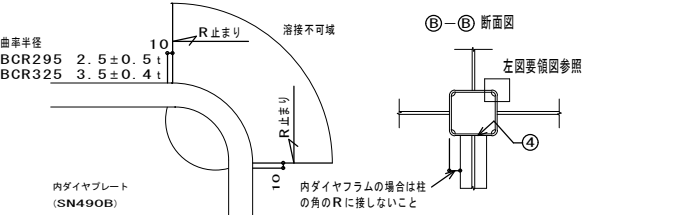
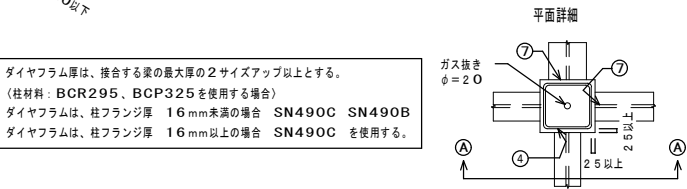
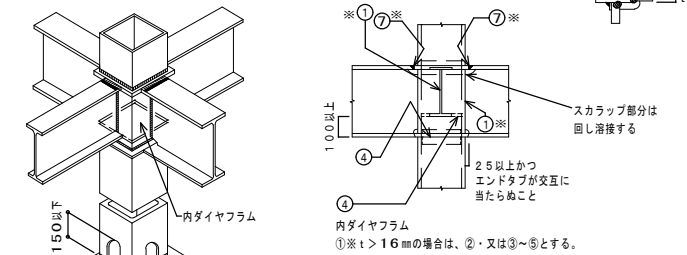
(2) 部分溶込み溶接 (使用箇所注意到)

(3) 完全溶込み溶接 (平継手 T形継手)

(4) フレーア溶接

※ 溶接記号番号を○中に記入のこと

●BOX型 (通しダイヤフラムの場合)



M10-M22



丸鋼	M12-M22 SNR400B	平鋼	M12-M22 SN400B	ターンバックル鋼	M12-M22 SNR400A又はSNR400B
	M10 SS400		M10 SS400		M10 SS400

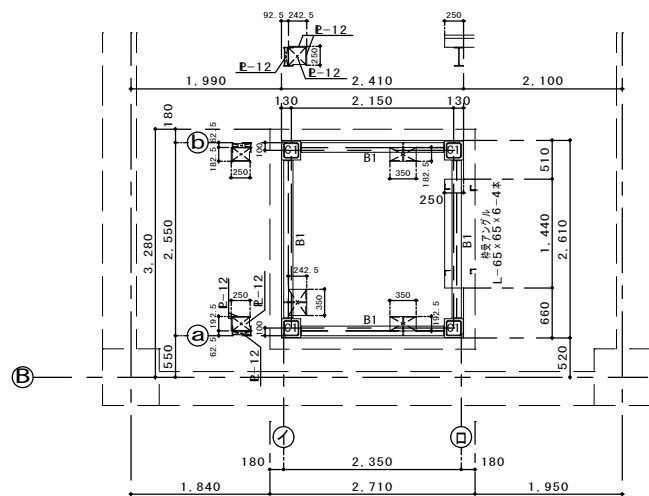
M24-M33



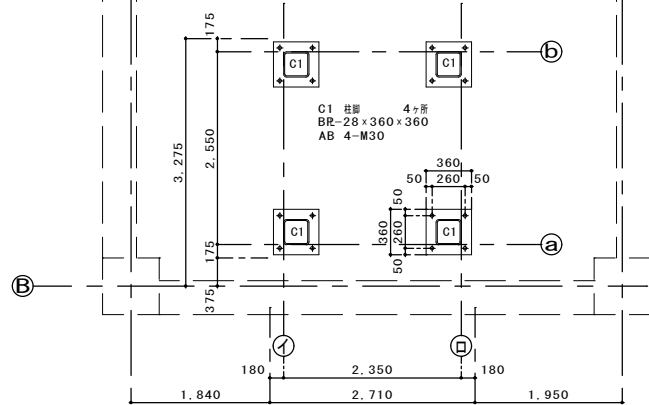
丸鋼 SNR400B
平鋼 SN400B
ターンバックル鋼 SNR400A又はSNR400

サイズデータ				溶接		羽子板サイズ							取り付けボルト		割枠式TB			
ねじの呼び		標準径	ねじ長さ	中あき	溶接長さ	ビード幅	板厚	幅	全長	はしあき	穴ピッチ	中あき	穴径	ねじ呼び	本数	全長	頭長	最小質量
D		d	S	m	w	k	t	B	A	e1	P	e3	R	*	n	a	A	(g)
	M10	8.9	75	70	35	5	4.5	40	115	30	－	50	13.0	M12	1	150	14	0.15
○	M12	10.7	100	100	40	6	6.0	52	155	40	－	75	17.0	M16	1	200	17	0.30
	M14	12.5	115	115	50	6	6.0	52	155	40	－	65	17.0	M16	1	230	20	0.48
	M16	14.5	125	120	55	7	6.0	52	170	45	－	70	17.0	M16	1	250	23	0.64
	M18	16.2	140	140	60	8	9.0	67	190	50	－	80	21.5	M20	1	280	25	0.90
○	M20	18.2	150	150	75	8	9.0	67	205	50	－	80	21.5	M20	1	300	28	1.20
	M22	20.2	165	165	85	9	9.0	77	230	55	－	90	23.5	M22	1	330	31	1.54
	M24	21.9	175	170	85	10	9.0	77	280	50	60	85	21.5	M20	2	350	34	2.09
	M27	24.9	200	200	90	11	9.0	92	285	50	60	85	21.5	M20	2	400	38	3.01
	M30	27.5	200	200	95	14	12.0	92	310	55	60	100	23.5	M22	2	400	42	3.66
	M33	30.5	225	200	110	15	12.0	102	330	55	60	105	23.5	M22	2	450	46	4.94
※取り付けボルトは、JIS B 1186に規定する2種高力ボルト（F10T）、もしくはJIS B 1180に規定する呼び径六角ボルト機械的性質10-9、又は付属書に規定する10-9。																		
※溶融亜鉛鍍金付炭素鋼製品の場合は、JIS B 1186に規定する1種F8TAに準じるものを使用する。																		
※羽子板とガセットプレートの接合は、表に示す取り付けボルトを使用し、1面せん断（支圧）接合とする。																		

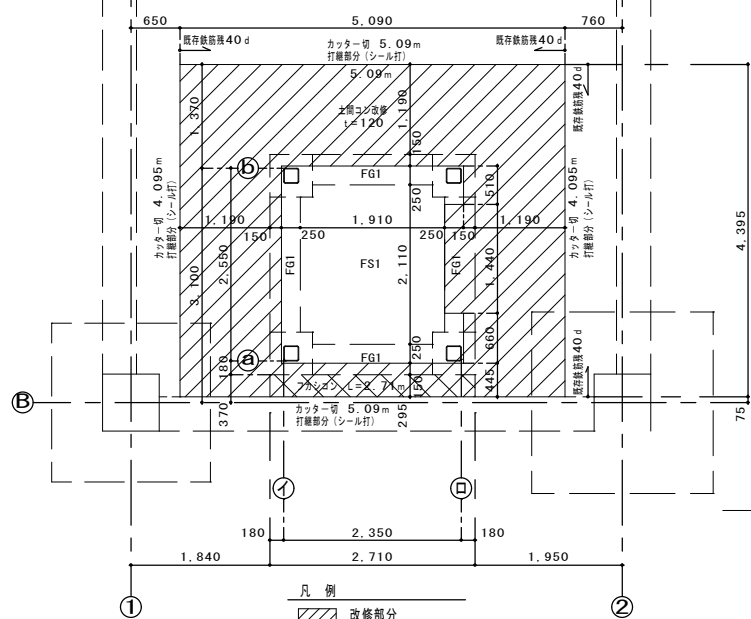
設計基準			フルブレス設計耐力					二次設計						
			主材			羽子板	TB鋼	PU	P1	P2	P3	P4	P5	P6
ねじの呼び		軸部断面積 (最小)	短期許容耐力	長期許容耐力	引張強度最小値	支圧耐力	引張強度最小値	必要終局耐力	軸部破断	羽子板有効断面積 破断	端あき部破断	溶接部破断	高力ボルトせん断	溶融亜鉛鍍金付 高力ボルトでせん断
	—	Ab (mm²)	Ab・F	Ab・F/1.5	Ab・bσB	1.25(1.5F) Af	Ab・σu	PU=1.2Ab・F	P1=Ab・bσB	P2=(B-R)・t・pσB	P3=n・e1・t・pσB	P4=∑0.7S・le・γB (溶接) P4=∑0.35t・le・γB (部込み)	P5 (P6) AM・fAb・fσB/√3	
	M10	60.5	14.2	9.48	24.2	23.8	30.9	17.1	24.2	48.6	54.0	35.6	65.2	52.2
○	M12	88.0	20.7	13.8	35.2	42.3	44.9	24.8	35.2	84.0	96.0	48.5	116.0	92.9
	M14	121	28.4	18.9	48.4	42.3	61.7	34.1	48.4	84.0	96.0	62.1	116.0	92.9
	M16	163	38.3	25.5	65.2	42.3	83.1	46.0	65.2	84.0	108.0	79.3	116.0	92.9
	M18	203	47.6	31.8	81.1	79.3	103	57.3	81.1	164.0	180.0	98.4	181.0	145.0
○	M20	256	60.2	40.2	103	79.3	131	72.2	103	164.0	180.0	125.0	181.0	145.0
	M22	316	74.3	49.5	126	87.2	161	89.1	126	193.0	198.0	160.0	219.0	176.0
	M24	369	86.8	57.9	148	159.0	188	104	148	200.0	396.0	218.0	362.0	290.0
	M27	479	112	75.0	191	159.0	244	135	191	254.0	396.0	230.0	362.0	290.0
	M30	587	138	91.9	235	233.0	299	166	235	329.0	552.0	314.0	439.0	351.0
	M33	723	170	113	289	233.0	369	204	289	377.0	552.0	368.0	439.0	351.0
Ab：軸部断面積 (mm²) F：基準強度 (235N/mm²) t：羽子板板厚 (mm)			σB：材料引張強さ (400N/mm²) σu：材料引張強さ上限 (510N/mm²)			bσB：材料の引張強さ bσB=400N/mm² pσB：羽子板材の引張強さ pσB=400N/mm² γB：羽子板溶接部のせん断力 γB=bσB/√3 S：等脚隅肉溶接のサイズ S=0.7k		le：有効溶接長さ le=(2l-1.4k) fAb：高力ボルトの軸断面積 (mm²) fσB：高力ボルトの引張強さ fσB=1000N/mm² fσB：高力ボルトの引張強さ (溶融亜鉛) fσB=800N/mm²						



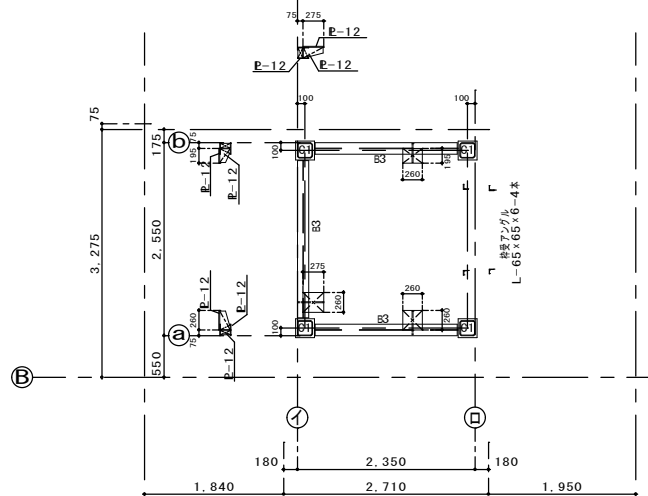
1 階 梁伏図 S=1 : 50 (100)



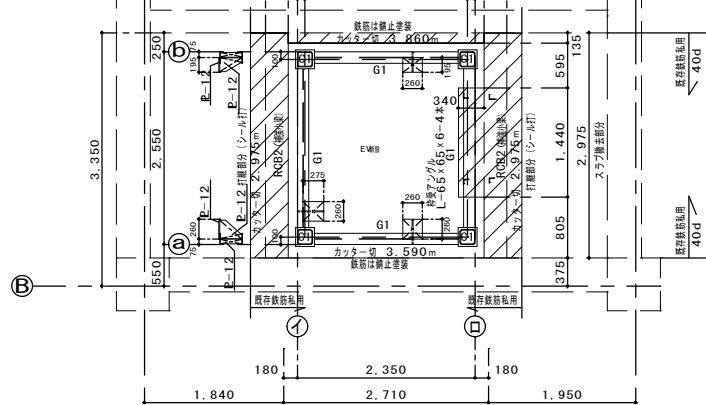
アンカープラン S=1 : 50・30 (100・60)



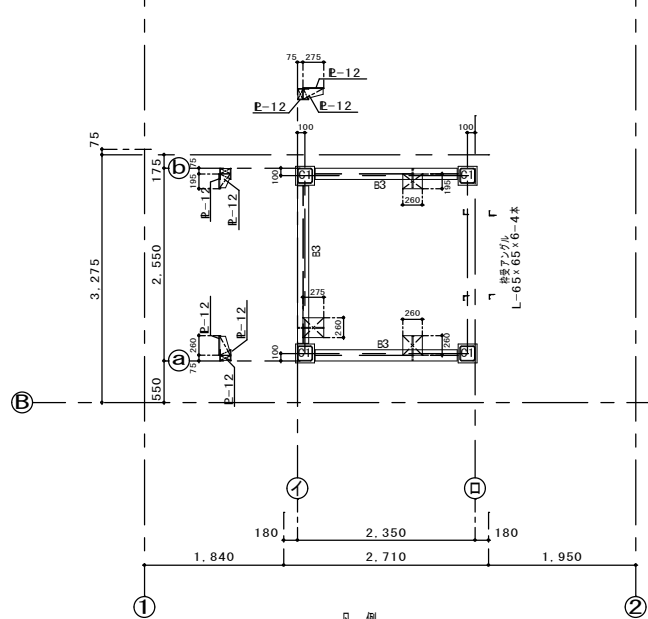
1 階土間コン・地中梁伏図 S=1 : 50 (100)



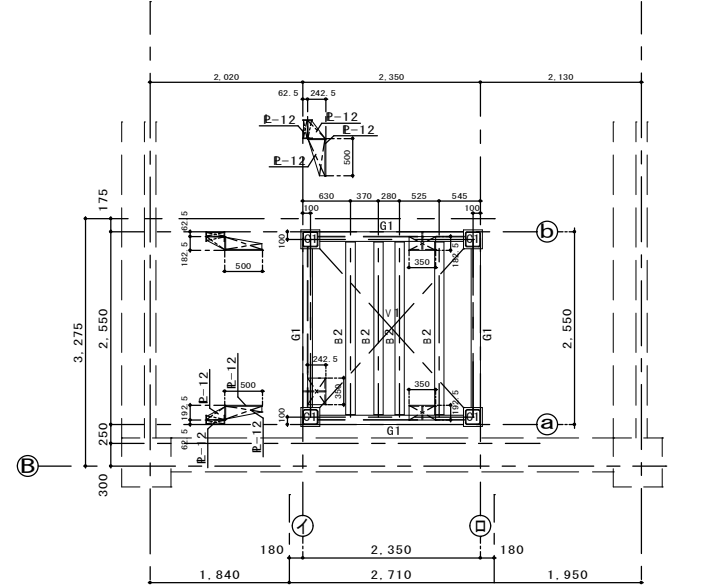
M3 階 梁伏図 S=1 : 50 (100)



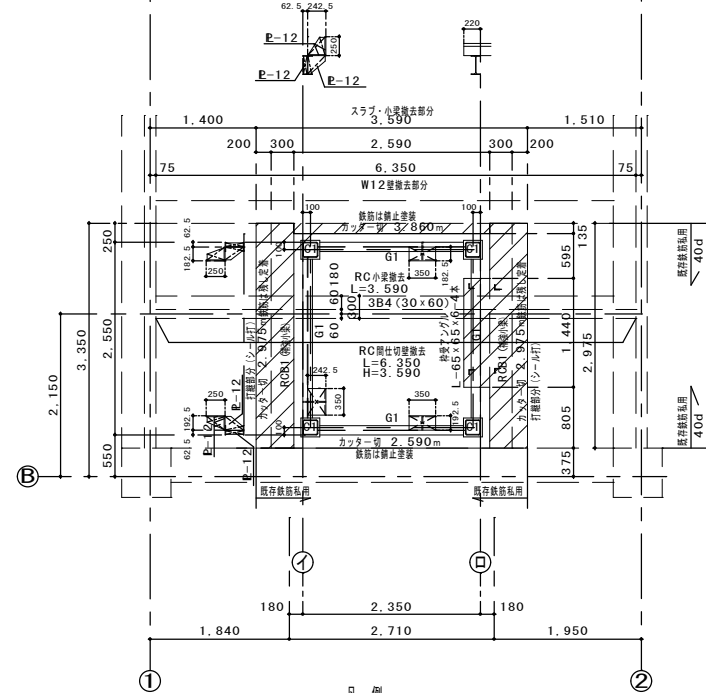
2 階 梁伏図 S=1 : 50 (100)



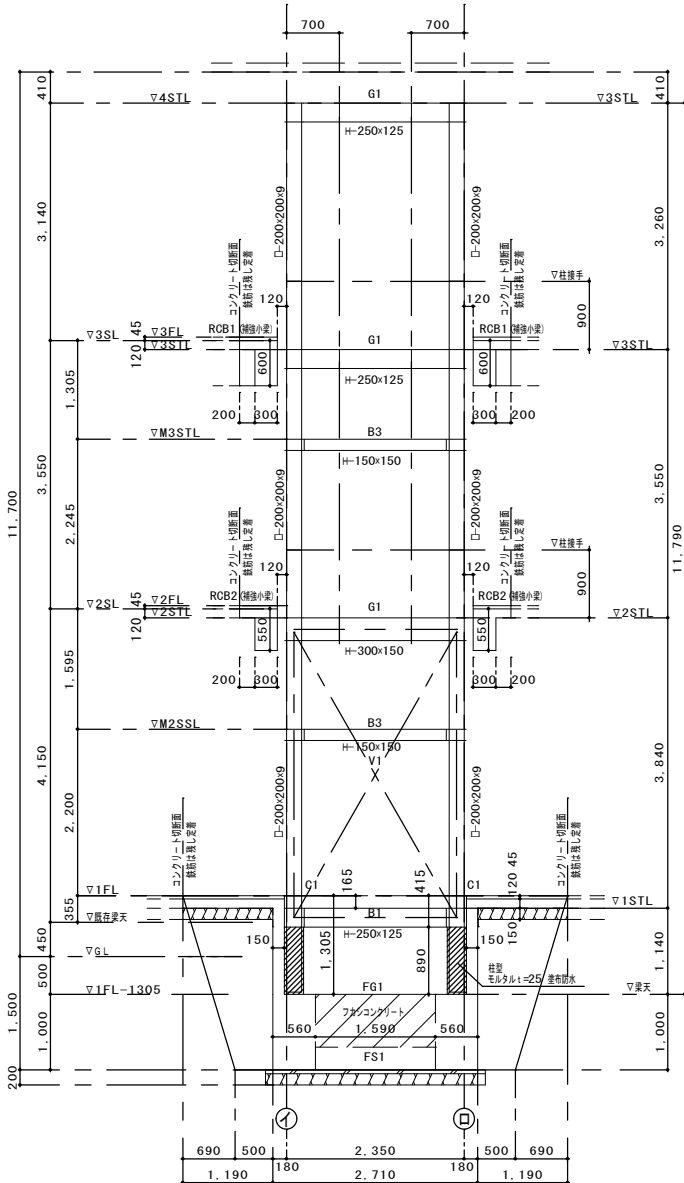
M2 階 梁伏図 S=1 : 50 (100)



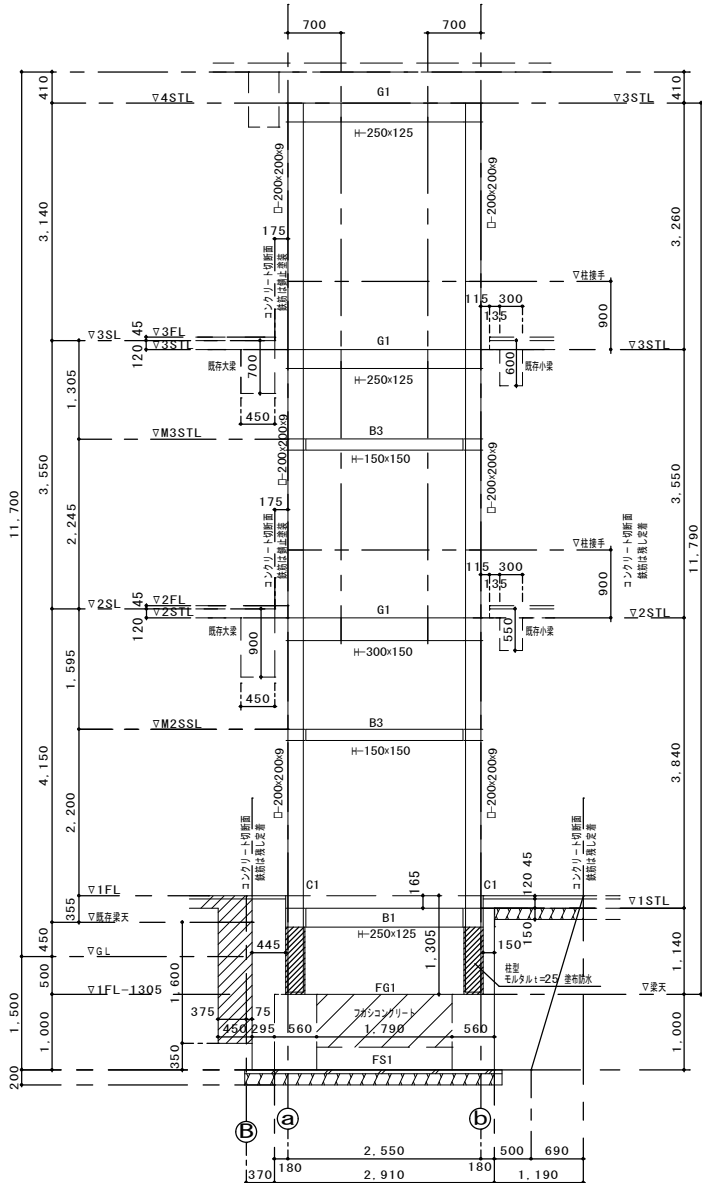
4 階 梁伏図 S=1 : 50 (100)



3 階 梁伏図 S=1 : 50 (100)



柱・梁・階スラブ・非燃式敷材ロックアップ・S=1:25
a・b通 軸組図 S=1:50 (100)



柱・梁・非燃式敷材ロックアップ・S=1:25
イ・ロ通 軸組図 S=1:50 (100)

柱リスト s=1:30(60)	特記事項
	鍍金塗装 JIS K5674

層	構造図 符号	C1
	鋼材 種別	BCR295・ダイヤ SN490C (16)・SN490B (12)
3	断面	断面図 3
	サイズ	□-200x200x9
	構造図 符号	C1
	鋼材 種別	BCR295・ダイヤ SN490C (16)・SN490B (12)
2	断面	断面図 2
	サイズ	□-200x200x9
	構造図 符号	C1
	鋼材 種別	BCR295・ダイヤ SN490B
1	断面	断面図 1
	サイズ	□-200x200x9

大梁リスト s = 1 : 30 (60)	特記事項			
	ボルト	HTB	S10T	$\mu = 0.45$
	鍍上塗装	JIS	K5674	

4	構造図 符号	G1
	鋼材 種別	H型鋼 SN400B・鋼板 SN400B
	位 置	全断面
	位 置	外F. E-12x125x410 H. T. B 6-M16 2W. Es-6x170x290 H. T. B 4-M16
サイズ	H-250x125x6x9	
3	構造図 符号	G1
	鋼材 種別	H型鋼 SN400B・鋼板 SN400B
	位 置	全断面
	位 置	外F. E-12x125x410 H. T. B 6-M16 2W. Es-6x170x290 H. T. B 4-M16
サイズ	H-250x125x6x9	
2	構造図 符号	G1
	鋼材 種別	H型鋼 SN400B・鋼板 SN400B
	位 置	全断面
	位 置	外F. E-9x150x290 H. T. B 4-M20 内2F. Es-9x60x290 2W. Es-6x200x170 H. T. B 2-M20
サイズ	H-300x150x6.5x9	

耐圧盤リスト S=1:30(60)				
	スラブ厚	層 別	配 筋	
			短 辺 方 向	長 辺 方 向
	FS ₁	300	上 層 筋	D 13 @ 200
		下 層 筋	D 13 @ 200	D 13 @ 200

断 面	1,000 700 300	溶接金網 D10-150×150
		D13@200上下共

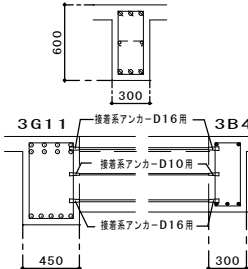
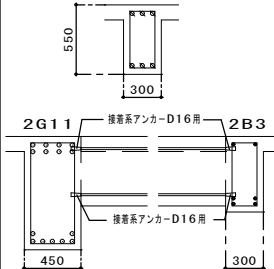
二樹部材リスト s=1:30(60)	特記事項	
	ボルト	HTB S10T $\mu=0.45$
	鎮止塗装	JIS K5674

構造図 符号	B 1	B 2	B 3
鋼材 種別	H型钢 SS400・鋼板 SS400	H型钢 SS400・鋼板 SS400	H型钢 SS400・鋼板 SS400
位 置	全断面	全断面	全断面
断 面			
サイズ	H-250x125x6x9	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10
構造図 符号	V ₁ (輪ブレス)	V ₂ (水平ブレス)	ブレス 特記
鋼材 種別	JIS規格品	JIS規格品	タイプ別
断 面			タイプ別 姿 図 部材名 溶接長 TYPE ① M20 L=97 M12 L=60 TYPE ② M20 L=65 M12 L=42 TYPE ③ M20 L=81 M12 L=54
サイズ	M20 ターンハ` ックル付	M12 ターンハ` ックル付	

地中梁リスト S=1:30(60)

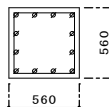
階	構造図	符号
F	断面	位置
	全断面	
	改修フカコン部分 $L = 2.71\text{ m}$	
	上端筋	3 - D16
	下端筋	3 - D16
	スターラップ	□-D10@ 175
	腹筋	4 - D10
	幅止筋	□-D10 @1000

補強小梁リスト S=1:30(60)

構造図 符号	RCB1	RCB2
位置	全断面	全断面
有効長さ	L = 2.975 m	L = 2.975 m
断面		
上端筋	3 - D16	3 - D16
下端筋	3 - D16	3 - D16
スタースラップ	2 - D10 @200	2 - D10 @200
腹筋	2 - D10	
幅止筋	D10 @1000	

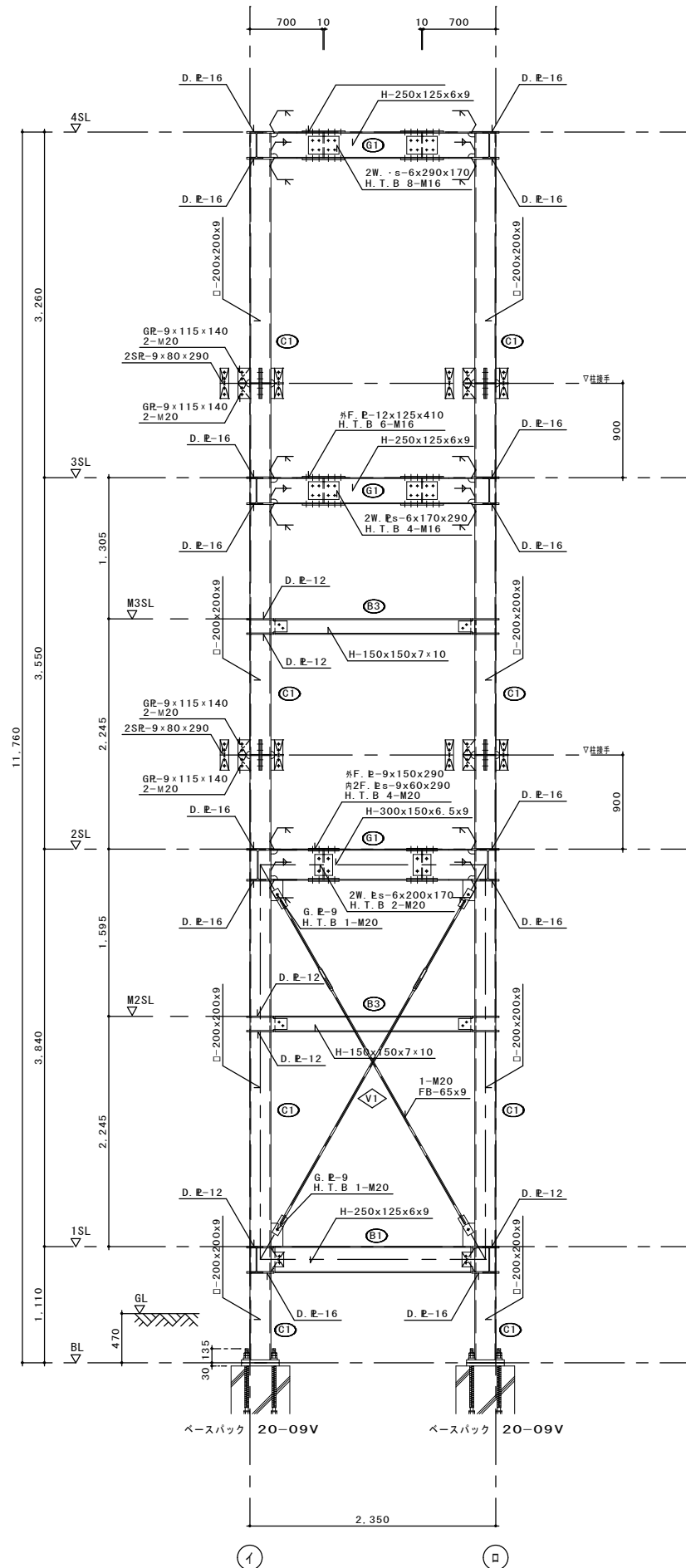
特記事項	
捨てコンクリート強度	F c 18 N / mm ²
基礎コンクリート強度	F c 24 N / mm ²
躯体コンクリート強度	F c 24 N / mm ²
鉄筋強度	S D 295 A (D 19 未満)
鉄筋強度	S D 345 (D 19 以上)
長期設計支持力度	q a = 200.0 kN / m ² 以上とする。

柱頭リスト $s = 1 : 30 (60)$

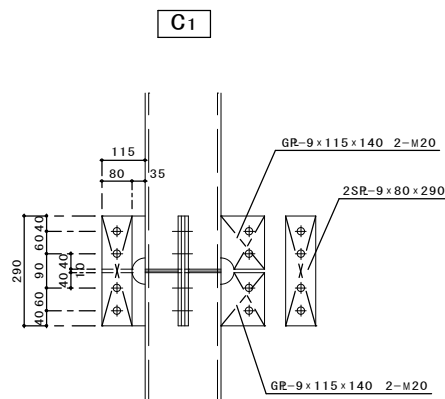
構造図 符号	基礎柱型
位 置	全断面
断 面	
D x x D y	560 x 560
主 筋	12-D16
フープ	□-D13 @100
備 考	

既存スラブ $s = 1 : 30 (60)$

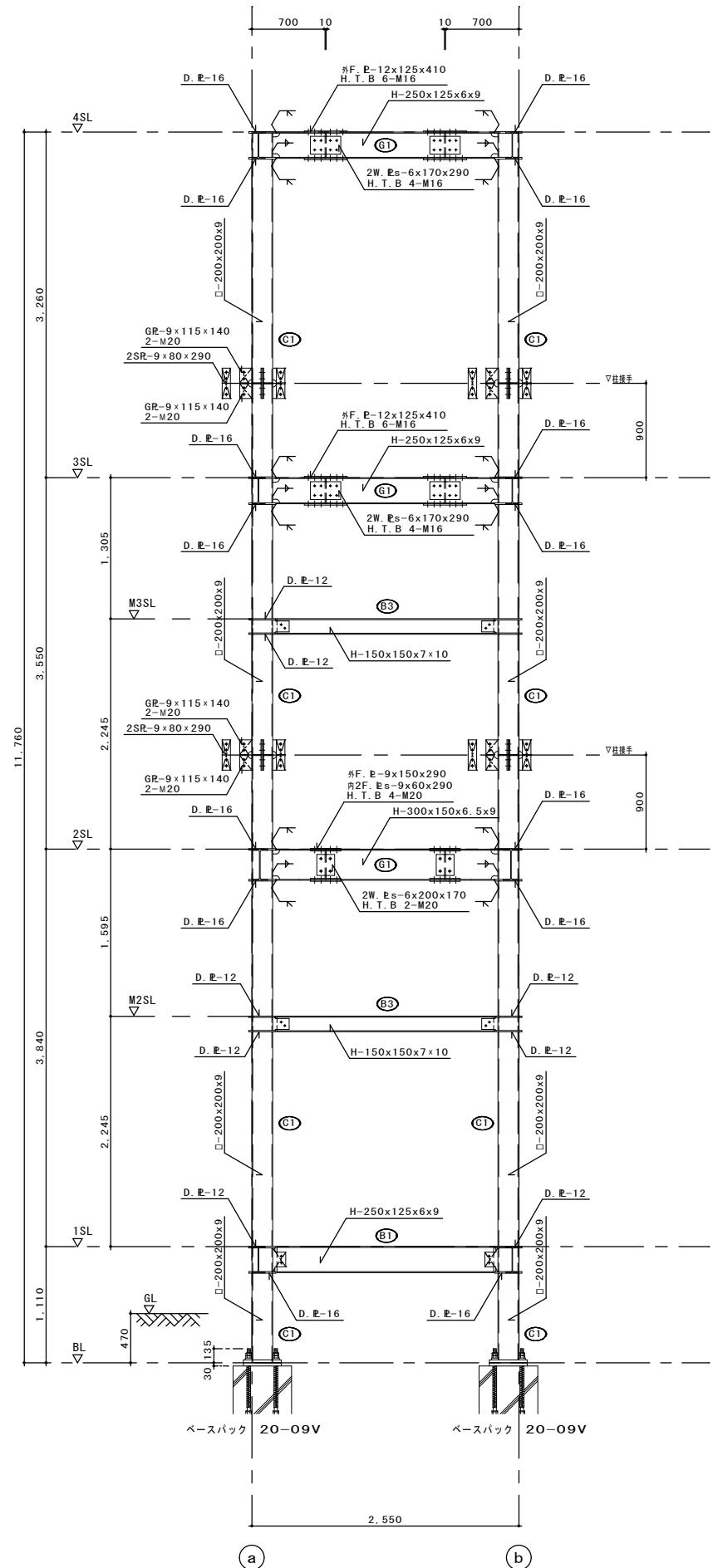
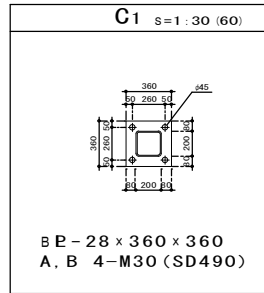
既存土間コン $s = 1 : 30 (60)$



b 通 鉄骨詳細図 S=1 : 30 (60)



柱接手詳細図 S=1 : 10 (20)



イ 通 鉄骨詳細図 S=1 : 30 (60)

